江南市都市計画マスタープラン

序章　都市計画マスタープランについて

1　都市計画マスタープランとは

都市計画マスタープランは、都市計画法第 18 条の２に基づく「市町村の都市計画に関する基本的な方針」のことであり、住民に最も近い立場にある市町村が、その創意工夫の下に住民の意見を反映し、まちづくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、地区別のあるべき市街地像を示すとともに、地域の課題に対応した方針や諸施設の計画などをきめ細かくかつ総合的に定めるものです。

本計画では、将来都市像、都市構造を明らかにし、土地利用、道路・公園などの都市施設の整備方針等について全体構想、地域別構想を整理し、都市計画に関する基本的な方針を定めます。

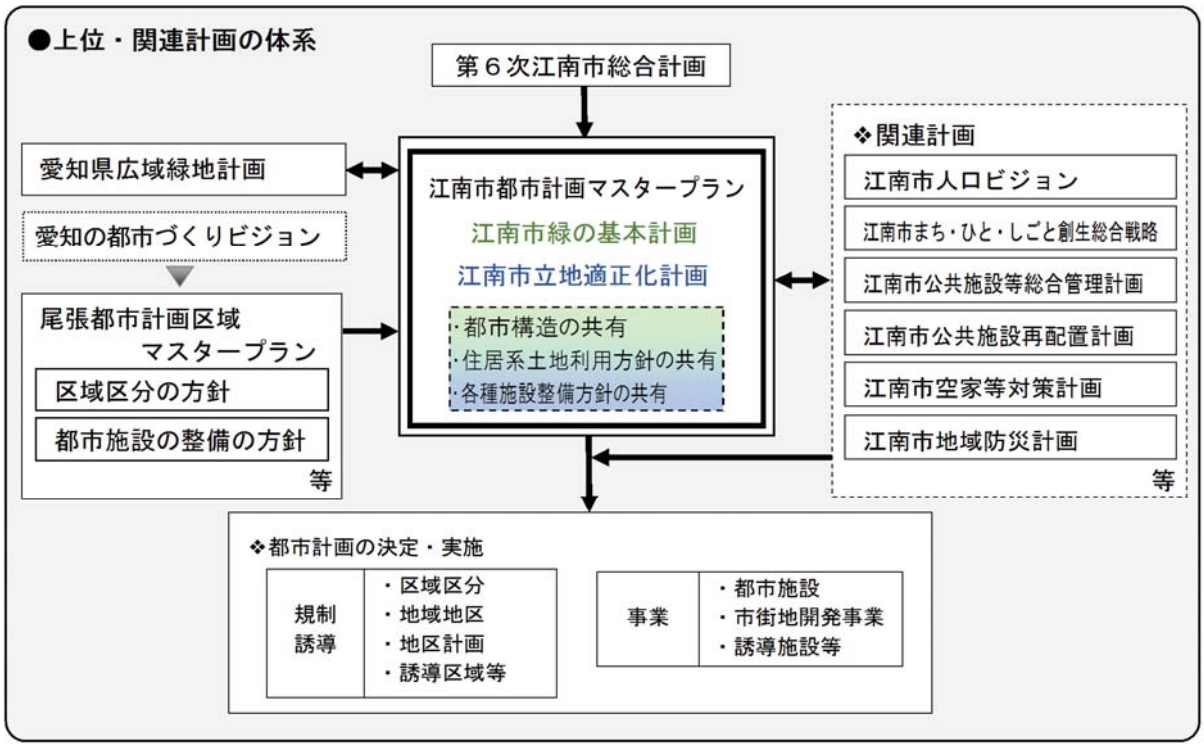
> 都市計画法　第 18 条の２（市町村の都市計画に関する基本的な方針）
> 　市町村は、議会の議決を経て定められた当該市町村の建設に関する基本構想並びに都市計画区域の整備、開発及び保全の方針に即し、当該市町村の都市計画に関する基本的な方針（以下この条において「基本方針」という。）を定めるものとする。

2　都市計画マスタープランの位置づけ

本計画は、上位計画である第６次江南市総合計画や尾張都市計画区域マスタープランに即し、関連計画との整合性に配慮して策定するもので、位置づけについて以下のとおり整理します。

江南市緑の基本計画（平成 23 年策定）についても、同じく目標年次を迎えており、都市計画マスタープランの策定と連携して見直しを行い、あわせて策定しています。

また、人口減少や少子高齢化社会に対応した集約型都市構造の構築に向け、江南市立地適正化計画を都市計画マスタープランと整合しながら作成を進めています（平成 31 年度策定予定）。



3 計画の目標年次

第６次江南市総合計画の計画期間は平成 30 年度（2018 年度）～平成 39 年度（2027 年度）となっています。

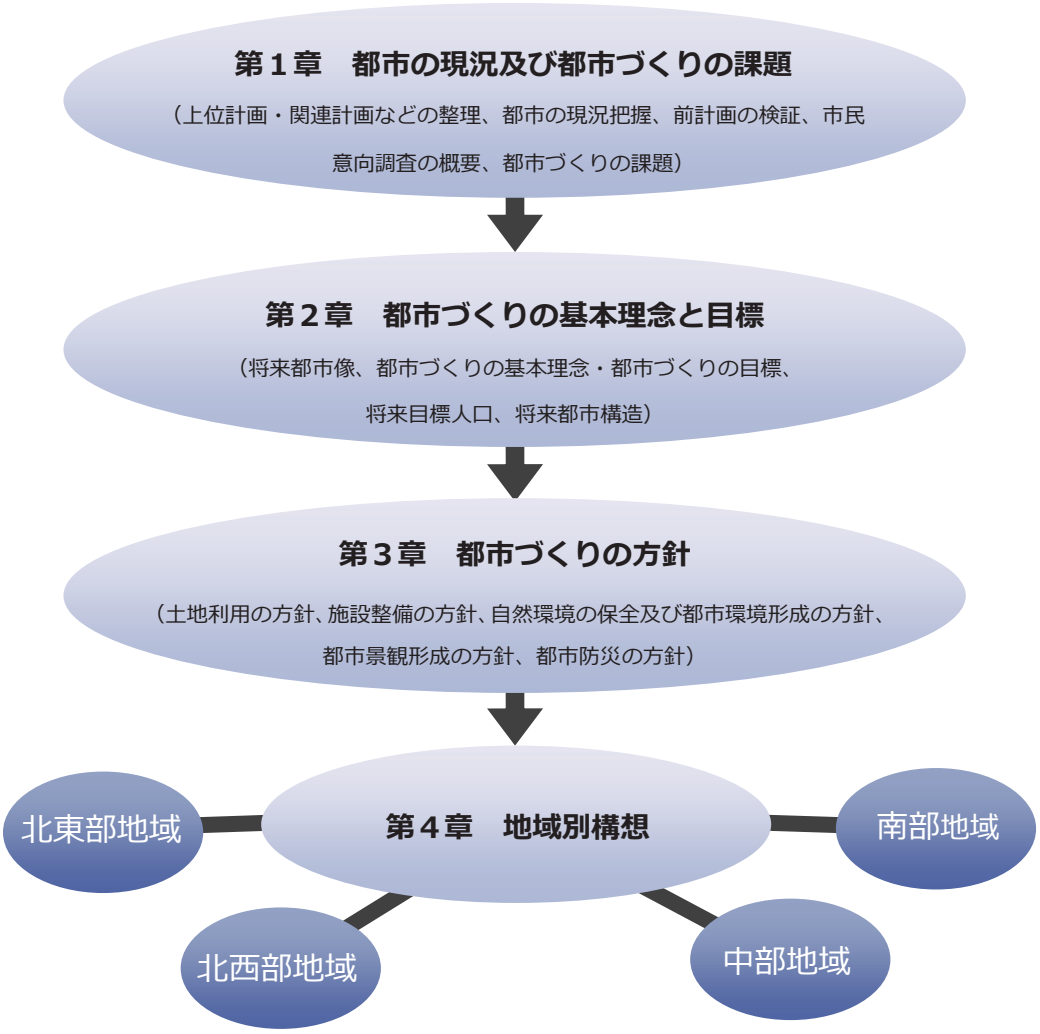
本計画の目標年次も、計画策定から概ね 10 年後の平成 39 年度（2027 年度）とします。

4 計画の対象区域

計画対象区域は江南市全域とします。

5 計画の構成

都市計画マスタープランでは、都市の現況を把握して課題を整理し、都市づくりの基本理念と目標を設定します。また、市全体に関する分野別の方針を設定するとともに、地域別の目標及びまちづくりの方針について整理を行います。



■都市計画マスタープランの構成

第１章　都市の現況及び都市づくりの課題

１　上位計画・関連計画などの整理

都市計画マスタープランに関わる主な上位計画・関連計画の概要を整理します。

（１）上位計画の概要

１）第６次江南市総合計画

【策定主体：江南市　　策定年次：平成 30 年３月】

江南市の将来像を実現するための、市民と行政の“総合的かつ計画的なまちづくりの指針”として、市の最上位計画に位置づけられ、平成 30 年度から平成 39 年度の 10 年間を計画期間として定めた計画です。

《めざす都市の将来像》

地域とつくる多様な暮らしを選べる生活都市
～生活・産業・文化の魅力があふれ、選ばれ続けるまち～

《基本目標》

基本目標１：地域の魅力を活かした機能的なまちづくり

江南市の魅力を活かした生活しやすいまちとして、「生活環境が快適なまち」の実現をめざします。

基本目標２：子どもが生き生き育つ環境づくり

子育て・教育環境づくりを推進し、地域が支える「子どもが生き生き育つまち」の実現をめざします。

基本目標３：生活を支える雇用・就労環境づくり

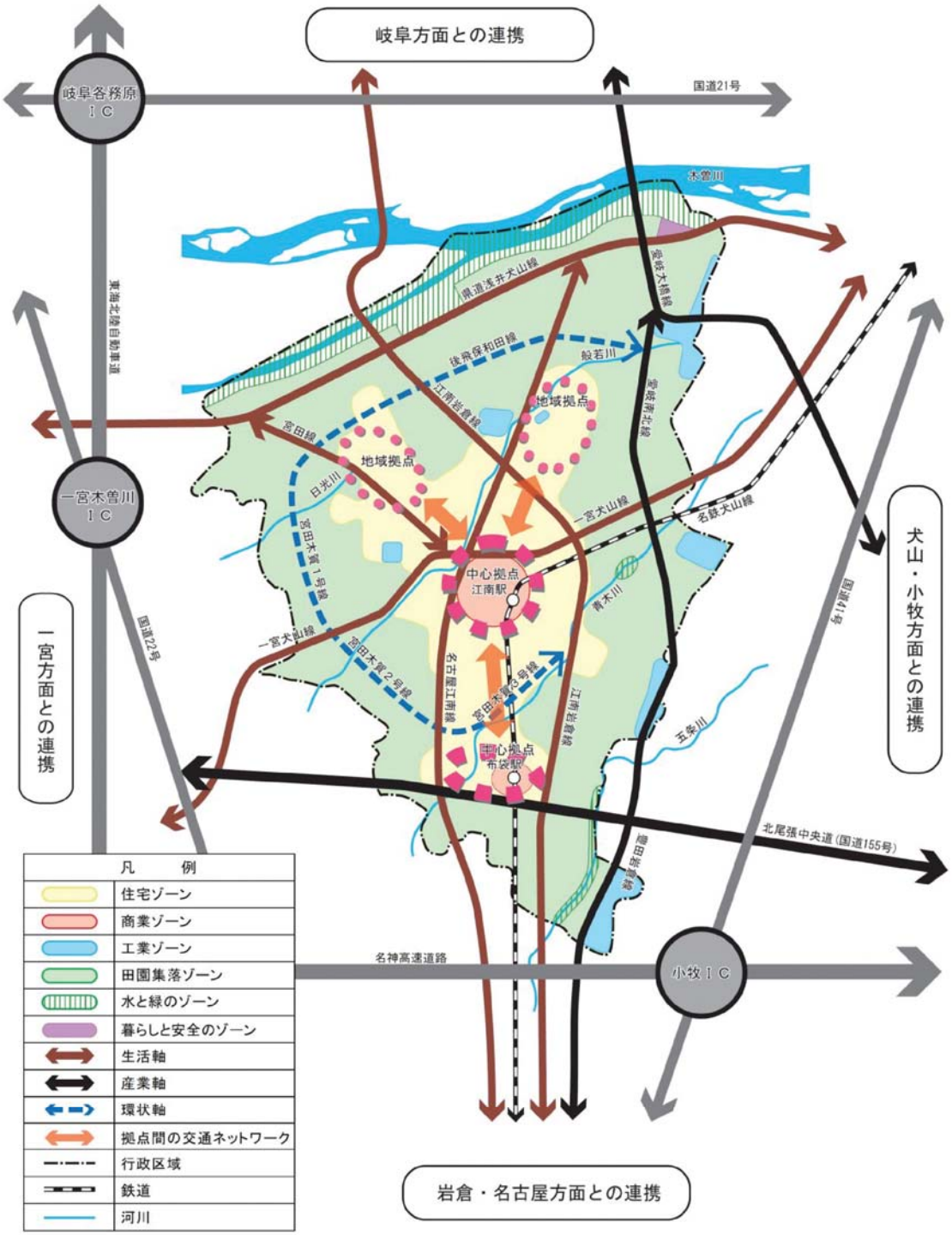
誰もが生涯を通じて社会と関わりをもてる「生涯活躍できるまち」の実現をめざします。

基本目標４：安心・安全の地域づくり

一人ひとりの支え合いの意識の醸成を図り、安心して地域で暮らし続けられることを通じて、健全で持続的なコミュニティの維持による「安心・安全なまち」の実現をめざします。

基本目標５：常に改革を進める行政

市民と行政が協働して的確な施策実現を行うことによる「信頼される行政」の実現をめざします。


岐阜方面との連携
岐阜各務原 IC
国道21号
木曽川
県道淺井犬山線
安桜大橋線
東海北陸自動車道
後飛保和田線
般若川
江南岩倉線
地域拠点
宮田線
地域拠点
日光川
一宮木曽川 IC
一宮犬山線
名鉄犬山線
犬山・小牧方面との連携
中心拠点
江南駅
青木川
宮田木賀1号線
一宮方面との連携
国道22号
一宮犬山線
宮田木賀2号線
名古屋江南線
宮田木賀3号線
江南岩倉線
玉乗川
中心拠点
布袋駅
国道41号
北尾張中央道（国道155号）
新川泉田線
名神高速道路
小牧 IC
凡　例
住宅ゾーン
商業ゾーン
工業ゾーン
田園集落ゾーン
水と緑のゾーン
暮らしと安全のゾーン
生活軸
産業軸
環状軸
拠点間の交通ネットワーク
行政区域
鉄道
河川
岩倉・名古屋方面との連携

■　土地利用構想図

2）尾張都市計画区域マスタープラン

【策定主体：愛知県　　策定年次：平成 30 年度末を予定】

(注)尾張都市計画区域マスタープランについては、計画案の縦覧時（平成 30 年 11 月実施）の内容を記載しています。

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）は、都市計画法第 6 条の 2 の規定に基づき、長期的な視点にたった都市の将来像を明らかにし、その実現に向けての大きな道筋を明確にするため、都市計画区域ごとに都市計画の基本的な方向性を愛知県が広域的見地から定める計画です。

《都市計画区域》

尾張都市計画区域

（江南市、一宮市、春日井市、犬山市、小牧市、稲沢市、岩倉市、大口町、扶桑町）

《計画期間》

基準年次を平成 30 年として、概ね 20 年後の都市の姿を展望したうえで都市計画の基本的方向を定めます。なお、市街化区域の規模などは、平成 42 年（2030 年）を目標年次として定めます。

《都市計画の目標》

基本理念

広域からヒトやモノが集まるとともに、歩いて暮らせる身近な生活圏が形成された都市づくり

都市づくりの目標

○暮らしやすさを支える集約型都市構造への転換に向けた主な目標

・主要な鉄道駅周辺などの中心市街地や生活拠点となる地区を拠点として都市機能の集積やまちなか居住を誘導し、活力あるまちなかの形成を目指します。

・都市機能が集積した拠点およびその周辺や公共交通沿線の市街地には多様な世代の居住を誘導し、地域のコミュニティが維持された市街地の形成を目指します。

○リニア新時代に向けた地域特性を最大限活かした対流の促進に向けた主な目標

・犬山城をはじめとする歴史・文化資源、国営木曽三川公園をはじめとするスポーツ・レクリエーション資源などの地域資源を活かした地域づくりを進め、様々な対流を促進し、にぎわいの創出を目指します。

・リニア開業による首都圏との時間短縮効果を全県的に波及させるため、県内都市間、都市内における交通基盤の整備を進め、質の高い交通環境の形成を目指します。

○力強い愛知を支えるさらなる産業集積の推進に向けた主な目標

・既存産業の高度化や航空宇宙産業などの次世代産業の創出、新たな産業立地の推進を図るため、既存工業地周辺や広域交通の利便性が高い地域、物流の効率化が図られる地域に新たな産業用地の確保を目指します。

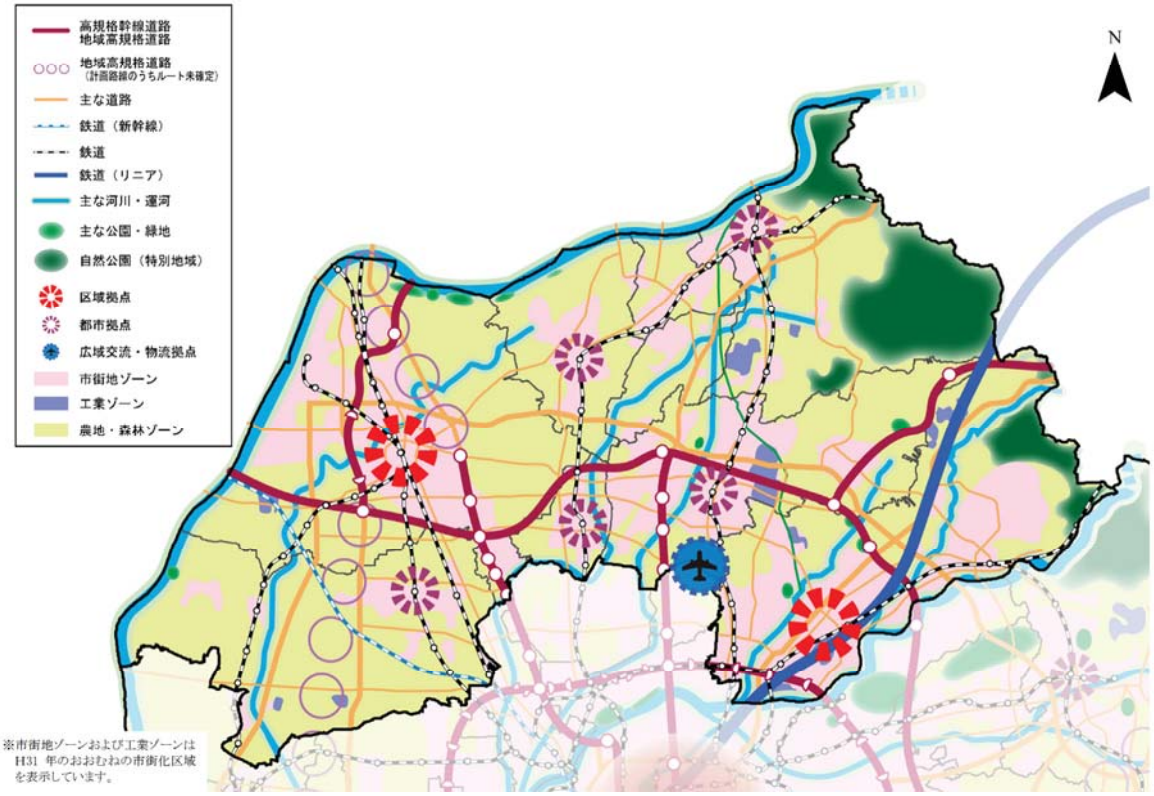
○大規模自然災害等に備えた安全安心な暮らしの確保に向けた主な目標

・都市計画道路の整備や交通安全対策を推進し、また生活関連施設を結ぶ経路を中心に歩行経路のバリアフリー化や自転車利用空間のネットワーク化を進め、安全安心に移動できる都市空間の形成を目指します。

○自然環境や地球温暖化に配慮した環境負荷の小さな都市づくりの推進に向けた主な目標

・公共交通の利用促進により自動車に過度に頼らない集約型都市構造への転換、建築物の低炭素化、緑地の保全や緑化の推進を実施し、都市部における低炭素化を目指します。

将来都市構造図



【都市の拠点】

○一宮駅周辺および鳥居松・ＪＲ春日井駅周辺地区を多くのヒトやモノが活発に動き、広域的な都市機能が集積する区域拠点に位置づけます。

○犬山駅、江南駅、小牧駅、国府宮駅および岩倉駅周辺を商業・業務、医療・福祉などの都市機能が集積し、暮らしやすいまちなかを形成する都市拠点に位置づけます。

○県営名古屋空港周辺を多くのヒトが集まる広域交流拠点に位置づけます。

（２）主な関連計画の概要

１）江南市人口ビジョン

【策定主体：江南市　　策定年次：平成 28 年３月】

人口減少やそれに伴う経済縮小の克服に向けて、人口の現状分析や将来人口推計等をもとに、今後のめざすべき将来の方向と人口の将来展望を示した計画です。

２）江南市まち・ひと・しごと創生総合戦略

【策定主体：江南市　　策定年次：平成 28 年３月】

「江南市人口ビジョン」の将来展望の実現に向け、早期に効果を発現させるための施策などをまとめた計画です。

３）江南市公共施設等総合管理計画

【策定主体：江南市　　策定年次：平成 28 年３月】

公共施設等の全体像を明らかにし、長期的な視点をもって更新・統廃合・長寿命化を実施していくための計画です。

４）改訂版　第二次江南市環境基本計画

【策定主体：江南市　　改訂年次：平成 29 年３月】

環境行政を総合的かつ計画的に推進するため、環境保全に関する取り組みの基本的な方向を示した計画です。

５）江南市公共施設再配置計画

【策定主体：江南市　　策定年次：平成 30 年３月】

公共施設等のうち公共建築物の長期的な視点に立った計画的かつ効果的な再配置を実現させるための計画です。

６）江南市空家等対策計画

【策定主体：江南市　　策定年次：平成 30 年３月】

安心して住み続けられる住環境の確保に向け、空家等に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画です。

７）江南市における地域公共交通の基本的な考え方

【策定主体：江南市　　策定年次：平成 30 年３月】

総合計画で定めるコンパクト・プラス・ネットワーク※の考え方に基づいて、地域公共交通政策の考え方を示したものです。

８）江南市地域防災計画

【策定主体：江南市　　修正年次：平成 30 年３月】

災害発生時における市の対応やその基準、国・県・市内外の様々な防災関係機関との連携などを定めた計画です。

（３）都市づくりに関する社会潮流の整理

近年の都市づくりに関する法改正などの社会潮流を以下に整理します。

H25 年 11 月	**インフラ長寿命化基本計画の策定** 厳しい財政状況が続く中で、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえ、国や地方公共団体、その他民間企業等が管理するあらゆるインフラを対象に、国や地方公共団体等が一丸となってインフラの戦略的な維持管理・更新等を推進するために策定された。 **※平成26年４月に公共施設等総合管理計画の策定要請**
H26 年 8 月	**都市再生特別措置法の改正** 地方都市では拡散した市街地で急激な人口減少が見込まれる中で、健康で快適な生活や持続可能な都市経営の確保が必要となっているため、行政と住民や民間事業者が一体となったコンパクトなまちづくりを推進する立地適正化計画が作成できるよう、改正された。 **※立地適正化計画の根拠法**
H26 年 11 月	**地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正** 人口減少社会において地域の活力を維持、強化するためには、コンパクトなまちづくりと連携して、地域公共交通ネットワークを確保することが重要となっているため、地域の総合行政を担う地方公共団体を中心として、関係者の合意の下に、持続可能な地域公共交通ネットワークの再構築を図るために改正された。 **※地域公共交通網形成計画の根拠法**
H26 年 12 月	**まち・ひと・しごと創生法の制定** 少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくための施策を実施することを目的に制定された。 **※「人口ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の根拠法**
H27 年 2 月	**空家等対策の推進に関する特別措置法の制定** 適切な管理が行われていない空家等が防災、衛生、景観等の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしており、地域住民の生命・身体・財産の保護、生活環境の保全、空家等の活用が必要となっているため、空家等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって公共の福祉の増進と地域の振興に寄与することを目的に定められた。 **※空家等対策計画の根拠法**
H29 年 6 月	**都市緑地法等の一部を改正する法律の制定** 公園、緑地等のオープンスペースは、良好な景観や環境、にぎわいの創出等、うるおいのある豊かな都市をつくる上で欠かせないものであり、災害時の避難地としての役割も担っている。また、都市内の農地も、近年、住民が身近に自然に親しめる空間として評価が高まっていることから、様々な役割を担っている都市の緑空間を、民間の知恵や活力をできる限り活かしながら保全・活用していくために改正された。 **※都市公園の再生・活性化、緑地・広場の創出、都市農地の保全・活用**

(注)年月は法施行

2 都市の現況把握

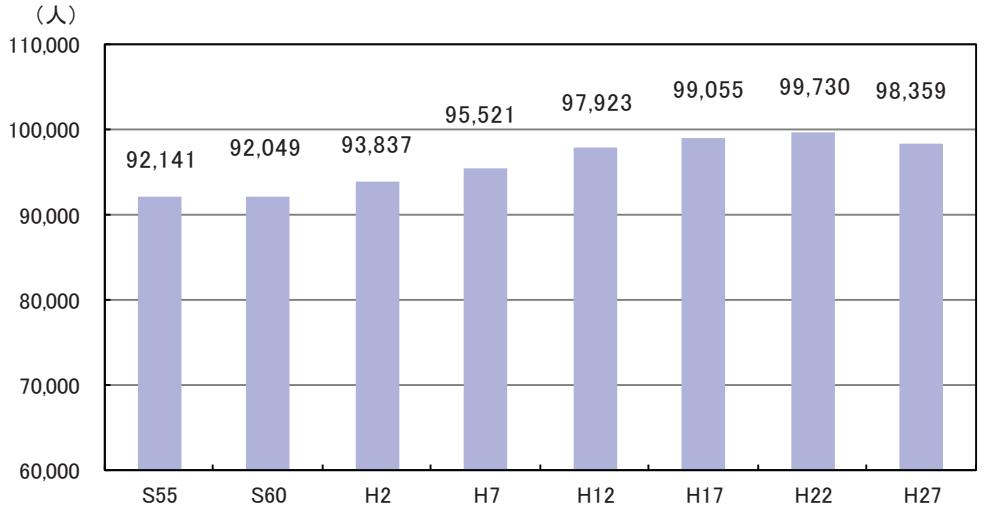
都市づくりの課題抽出に向け、以下のとおり都市の現況を整理します。

（1）人口・世帯数

1）人口・世帯数

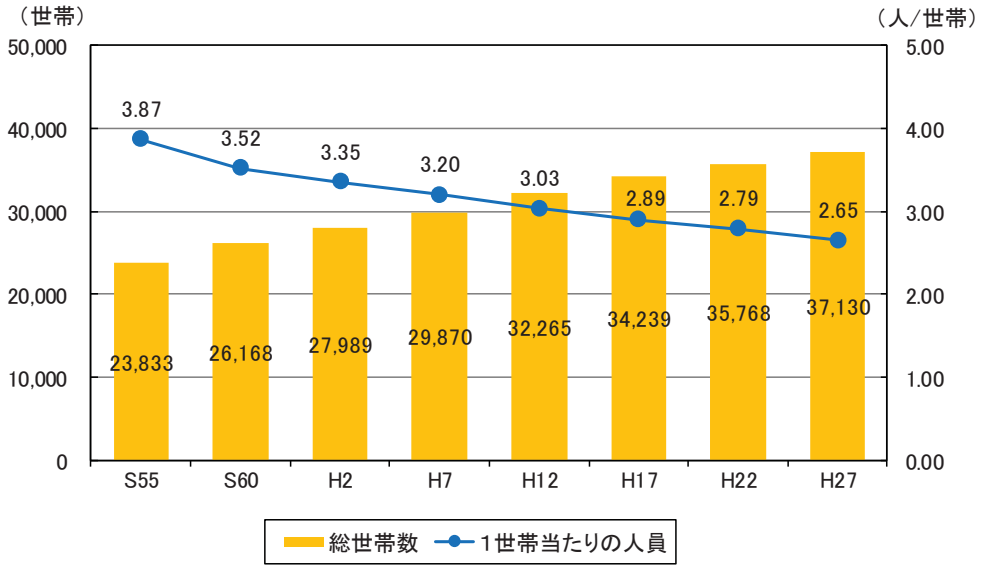
本市の人口は、昭和 60 年以降増加していましたが、平成 22 年をピークとして減少に転じ、平成 27 年では 98,359 人となっています。

また、総世帯数※は、昭和 55 年以降一貫して増加していますが、1 世帯当たりの人員は減少しています。



資料：国勢調査（S 55～H 27）

■人口の推移



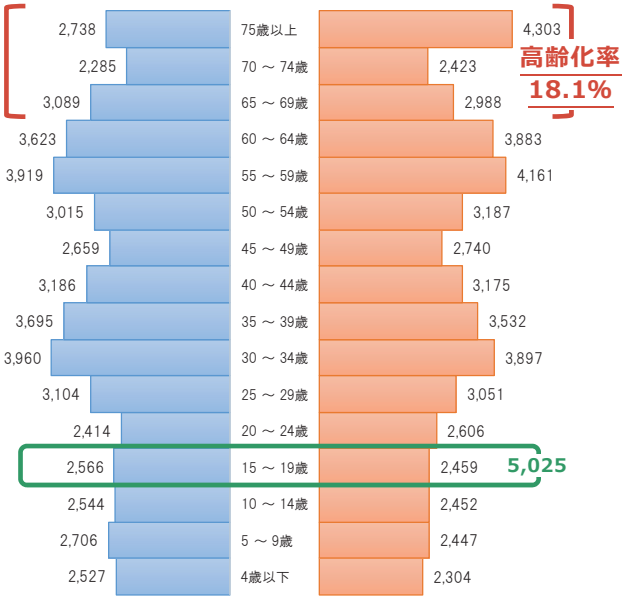
資料：国勢調査（S 55～H 27）

■世帯数・1 世帯当たりの人員の推移

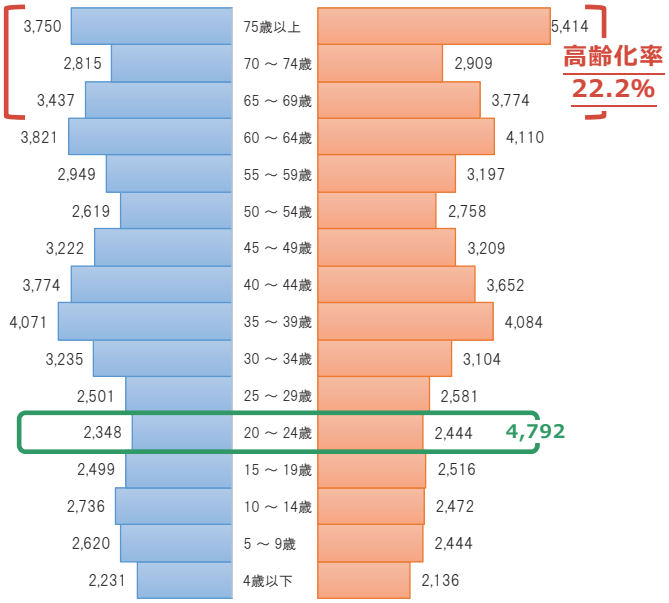
2）年齢別人口構成（5歳階級別）

本市の高齢化率※は平成17年の18.1%から平成27年の26.5%と急激に進展しており、5歳階級別人口の推移をみると、75歳以上の後期高齢者が急激に増加していることがわかります。さらに今後は、平成27年で前期高齢者（65～74歳）に当たる団塊の世代が、後期高齢者になることから、この傾向はより加速すると考えられます。

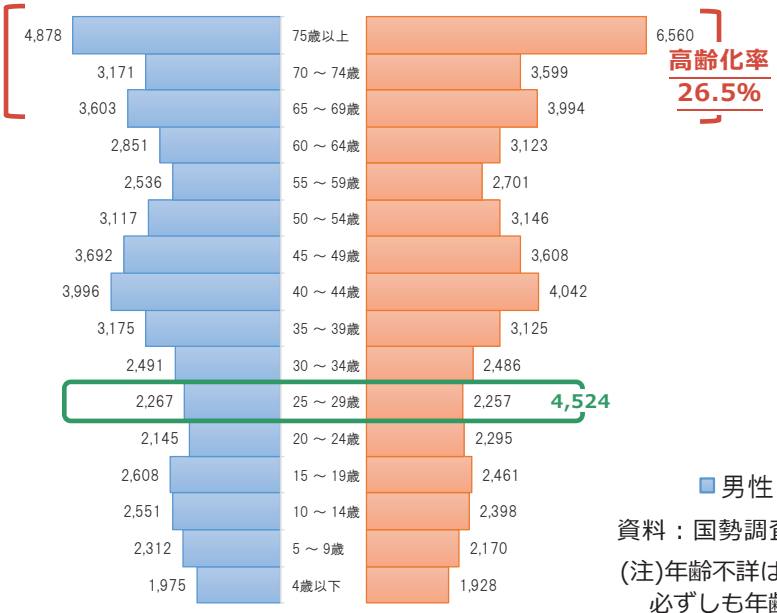
一方、平成17年の15～19歳の人口が平成22年の20～24歳に移行する際、平成27年の25～29歳に移行する際に大きく減少していることから、進学や就職に伴って市外へ転出していると考えられます。



■H17の人口構成



■H22の人口構成



■H27の人口構成

男性　女性

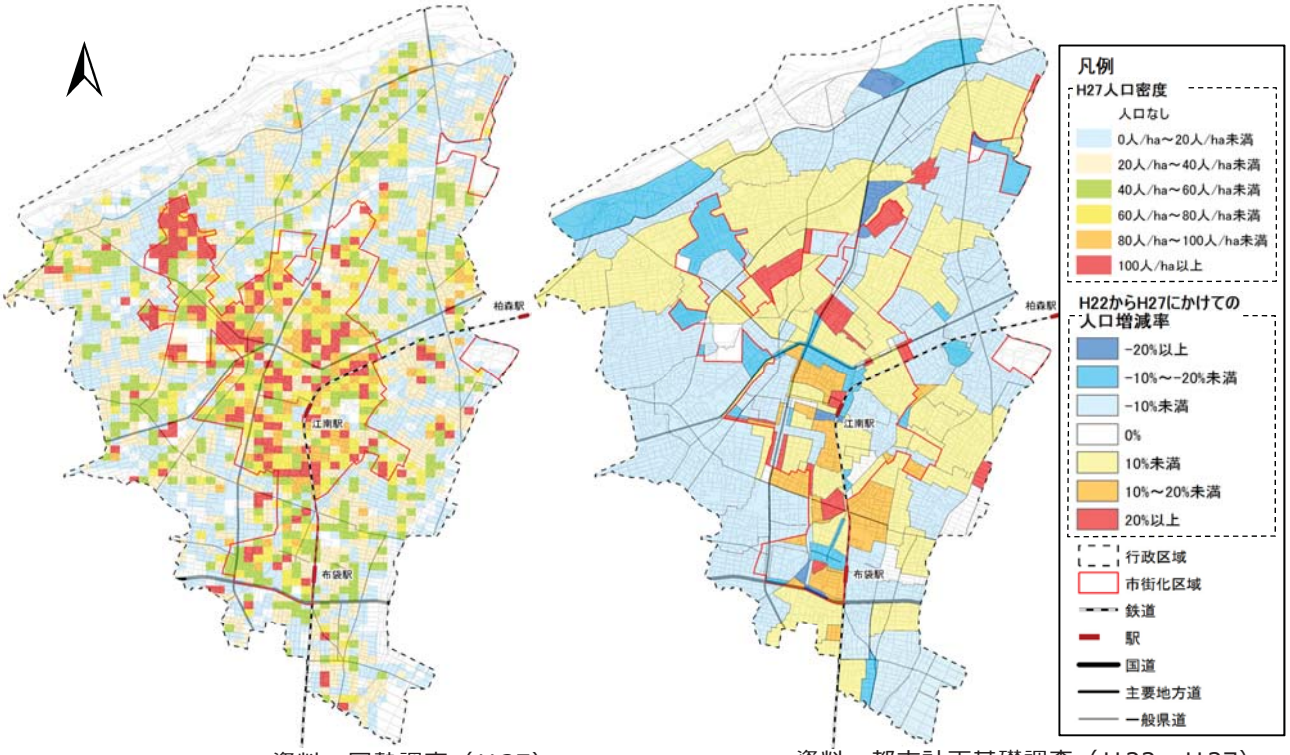
資料：国勢調査（H17～H27）

(注)年齢不詳は含まれていないため、必ずしも年齢階層ごとの合計は市の人口と一致しない

3）人口密度・人口増減

江南駅を含む市街化区域※の中部から北部にかけて、主に 80 人/ha 以上の人口密度である地区が多くなっています。一方で、布袋駅を含む市街化区域の南部では、主に 60 人/ha 未満の人口密度である地区が広がっています。

人口増減率（平成 22 年から平成 27 年）は、江南駅東側の一部や江南団地で減少率が高くなっている一方で、市街化区域の境界付近の増加率が 10%以上と高くなっている地区があり、従来の中心市街地で人口減少が進むとともに、市街化区域周辺では宅地化が進展していると考えられます。



資料：国勢調査（H27）

■H27 の人口密度の状況図

資料：都市計画基礎調査（H22～H27）

■人口増減率（H22～H27）の状況図

平成 27 年の市街化区域内の人口割合は、総人口の 47%であり、周辺都市に比べ市街化区域に居住する人口の割合は低くなっています。一方で、市街化区域の面積は市域の 24%と他都市に比べ低くなっており、市街化区域内の人口割合が低くなっている 1 つの要因と考えられます。

■周辺都市の人口、面積、人口密度（愛知県については都市計画区域内の現況）

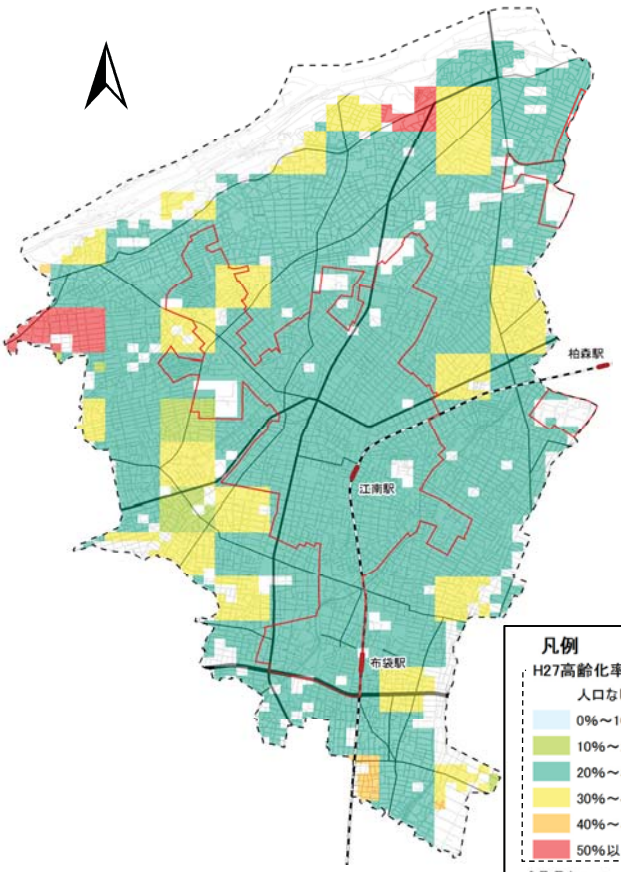
自治体名	人口（H27）			面積（H27）			人口密度（人/ha）		
	総人口（人）	市街化区域内人口（人）	市街化区域の割合	総面積（ha）	市街化区域面積（ha）	市街化区域の割合	市全体	市街化区域内	市街化調整区域内
江南市	98,359	46,221	47%	3,020	735	24%	32.6	62.9	22.8
一宮市	380,868	229,618	60%	11,382	3,802	33%	33.5	60.4	20.0
春日井市	306,508	265,565	87%	9,278	4,709	51%	33.0	56.4	9.0
犬山市	74,308	49,131	66%	7,490	1,057	14%	9.9	46.5	3.9
小牧市	149,462	127,992	86%	6,281	2,849	45%	23.8	44.9	6.3
稲沢市	136,867	57,519	42%	7,935	898	11%	17.2	64.1	11.3
岩倉市	47,562	43,229	91%	1,047	531	51%	45.4	81.4	8.4
大口町	23,274	13,459	58%	1,361	290	21%	17.1	46.4	9.2
扶桑町	33,806	21,163	63%	1,119	405	36%	30.2	52.3	17.7
愛知県	7,431,826	6,249,575	84%	354,095	112,416	32%	21.0	55.6	4.9

資料：【人口】平成27年国勢調査、【面積】平成28年都市計画現況調査（国土交通省）

４）高齢化率

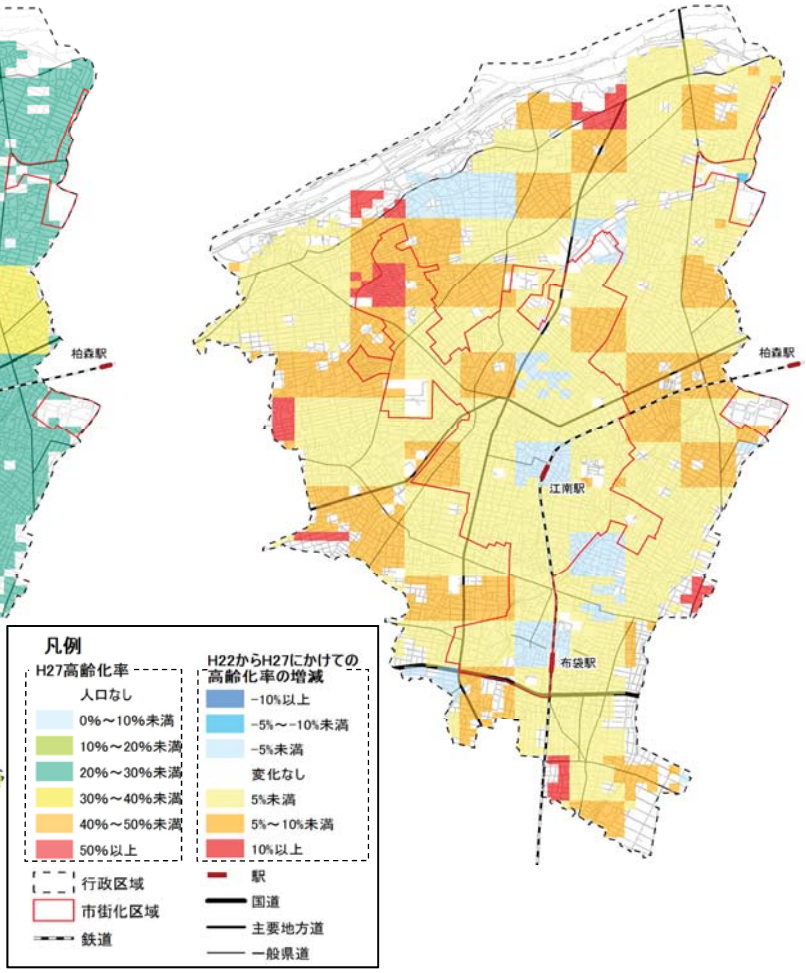
高齢化率の分布をみると、全体的に 20%～30%未満の地区が多い中、市街化調整区域※の一部の地域で 30%～40%未満の地区が多くなっています。市街化区域に比べ、市街化調整区域で高齢化が進展しています。

高齢化率の増減（平成 22 年から平成 27 年）は、市街化区域では江南団地周辺で増加率が 5%以上の地域がみられるほか、市街化調整区域においても、増加率が 5%以上の高い地域がみられます。



資料：国勢調査（Ｈ27）

■Ｈ27 の高齢化率の状況図



資料：国勢調査（Ｈ22～Ｈ27）

■高齢化率の増減の状況図

人口・世帯数の推移からみた注視すべき事項

平成 22 年をピークに人口減少期を迎えており、人口減少に伴う低密度化や空き家・空き地の増加が懸念されます。なお、地域によっては、人口の増減の傾向が異なっています。

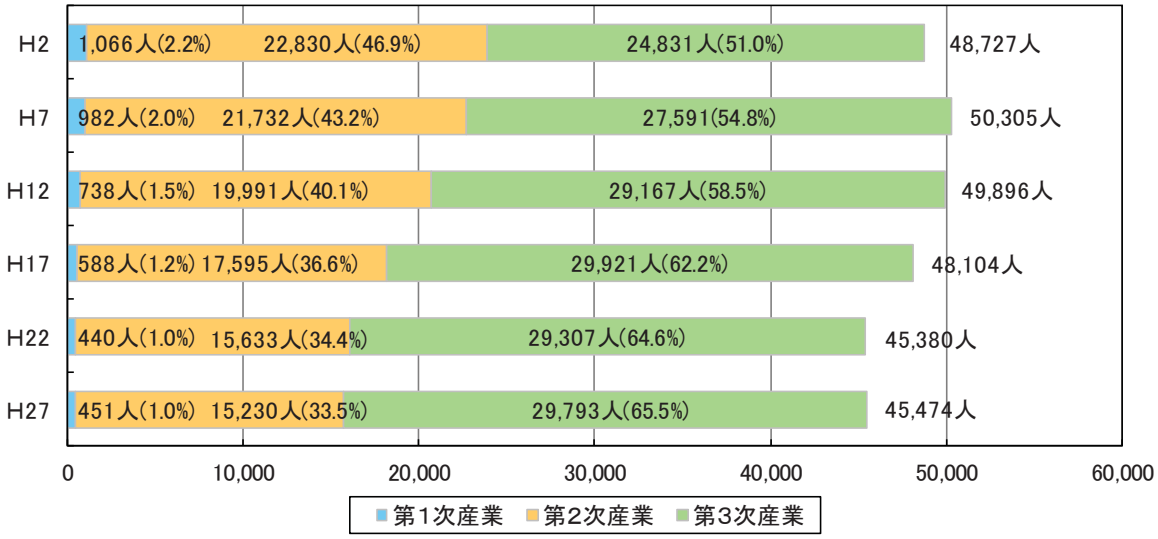
また、高齢化のさらなる進展が今後も想定されます。

市街化調整区域においても一部地域で人口の増加がみられるなど、市街地の拡散も懸念されます。

（２）産業構造

１）産業別就業者数

平成 27 年の産業別就業者数は、第１次産業※451 人（1.0%）、第２次産業 15,230 人（33.5%）、第３次産業 29,793 人（65.5%）となっており、第３次産業の割合が近年増加しています。

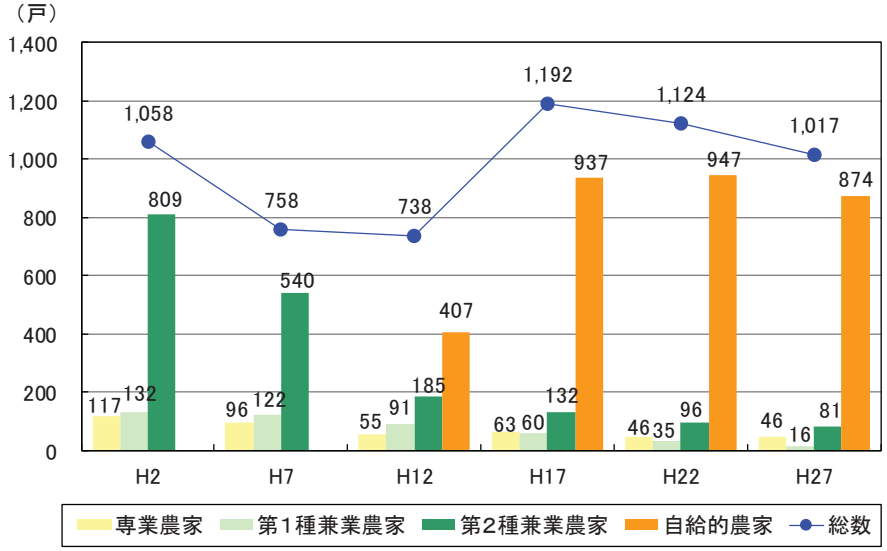


資料：国勢調査、こうなんの統計（Ｈ２～Ｈ27）

■産業別就業者数の構成比率の推移

２）農業

農家数の動向をみると、専業農家、兼業農家※が減少しており、近年は自給的農家※が農家総数の大半の割合を占めています。



資料：こうなんの統計（Ｈ２～Ｈ27）

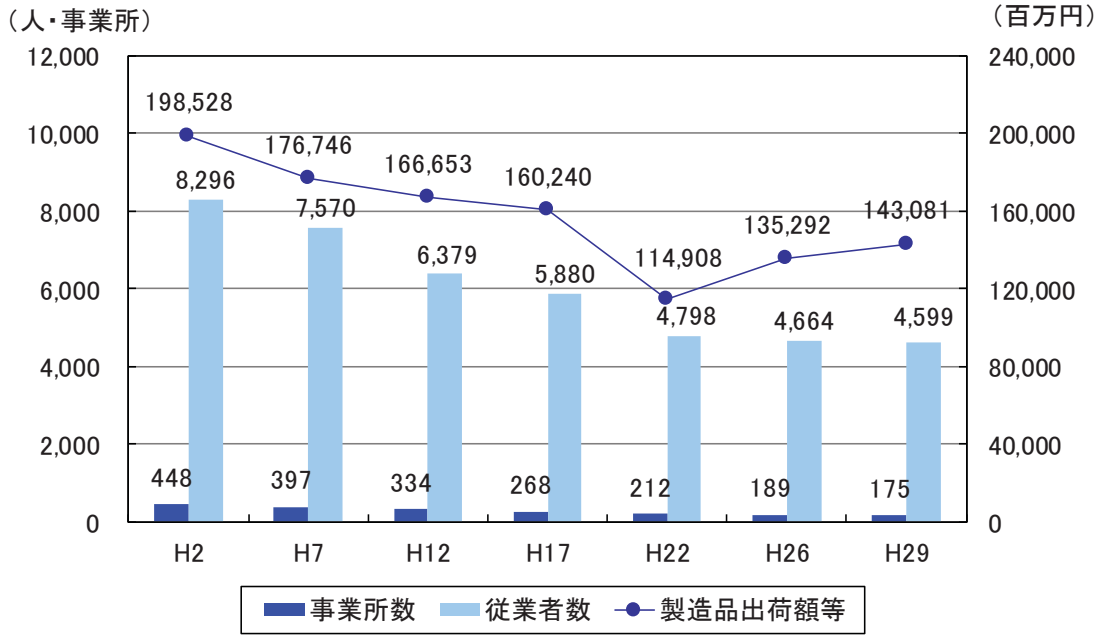
■農家数の推移

3）工業

工業の動向をみると、事業所数・従業者数は、平成２年以降一貫して減少しています。

製造品出荷額等は、平成 17 年から 22 年にかけて大幅に減少しましたが、その後は、増加に転じており、平成 29 年で約 1,431 億円となっています。

また、尾張都市計画区域の他都市と比較すると、本市の製造品出荷額等は扶桑町、岩倉市に続いて３番目に低く、住民１人当たりの製造品出荷額等においても扶桑町、一宮市に続いて３番目に低くなっています。



資料：こうなんの統計、工業統計調査（Ｈ２～Ｈ29）

■事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

■尾張都市計画区域内の都市との比較

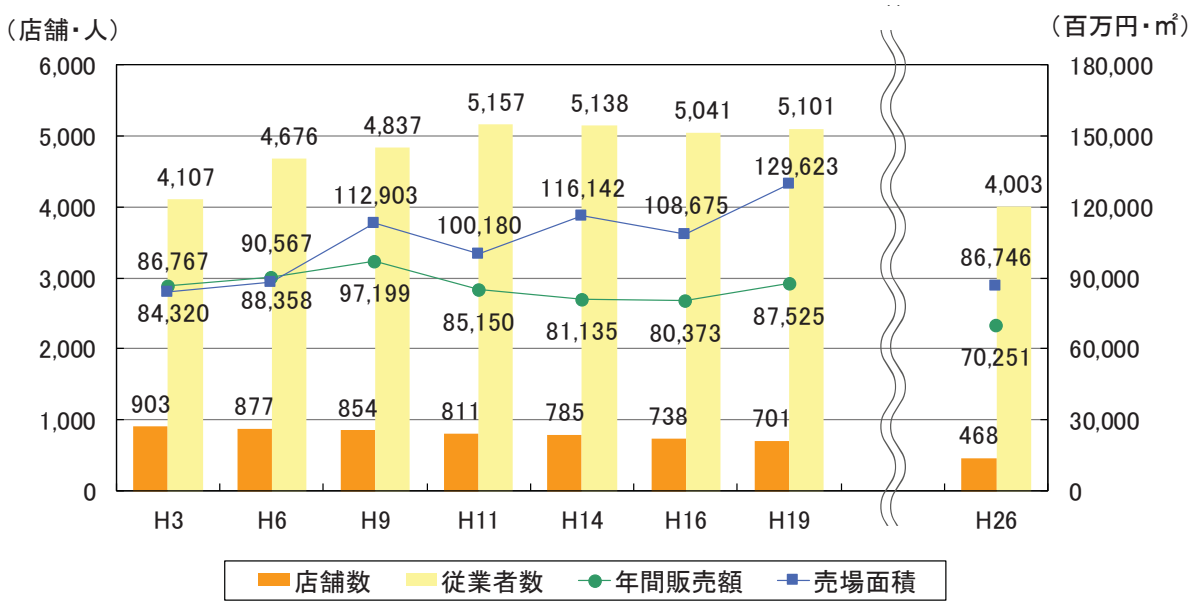
都市名		製造品出荷額等（百万円）	住民1人当たりの製造品出荷額等（百万円/人）
愛知県		44,909,000	6.00
尾張都市計画区域	江南市	143,081	1.45
	一宮市	549,542	1.44
	春日井市	748,281	2.44
	犬山市	445,363	5.99
	小牧市	1,402,939	9.39
	稲沢市	1,141,919	8.34
	岩倉市	73,707	1.55
	大口町	391,313	16.81
	扶桑町	36,750	1.09

資料：工業統計調査（Ｈ29）、国勢調査（Ｈ27）

４）商業

商業（小売業）の動向をみると、従業者数と年間販売額が平成 11 年以降横ばい、売場面積が増加傾向にある一方で、店舗数は平成３年以降減少傾向となっています。

また、尾張都市計画区域の他都市と比較すると、本市の年間販売額は一宮市、春日井市、小牧市、稲沢市に続いて５番目となっているほか、住民１人当たりの年間販売額は犬山市、岩倉市に続いて３番目に低くなっています。



資料：商業統計調査（Ｈ３～Ｈ26）

(注)平成 26 年の商業統計調査結果は、日本標準産業分類の第 12 回改定及び調査設計の大幅変更を行ったことに伴い、平成 19 年の調査の数値とは接続しないため、参考値として表記

■店舗数・従業者数・年間販売額・売場面積の推移

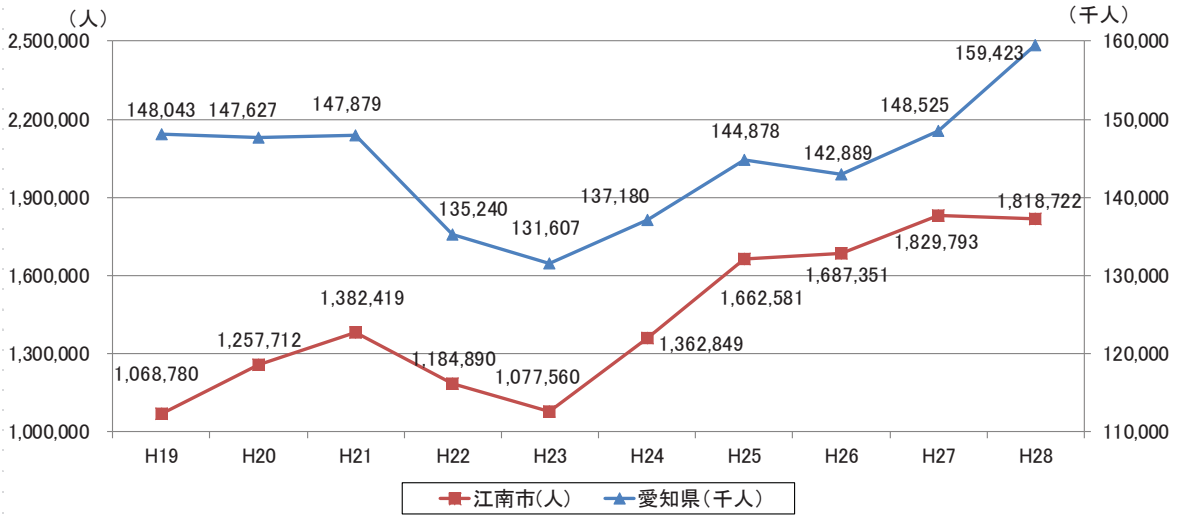
■尾張都市計画区域内の都市との比較

都市名		年間販売額（百万円）	住民1人当たりの年間販売額（百万円/人）
愛知県		7,303,613	0.98
尾張都市計画区域	江南市	70,251	0.71
	一宮市	333,119	0.87
	春日井市	239,960	0.78
	犬山市	41,090	0.55
	小牧市	156,528	1.05
	稲沢市	131,905	0.96
	岩倉市	28,118	0.59
	大口町	24,273	1.04
	扶桑町	30,935	0.92

資料：商業統計調査（Ｈ26）、国勢調査（Ｈ27）

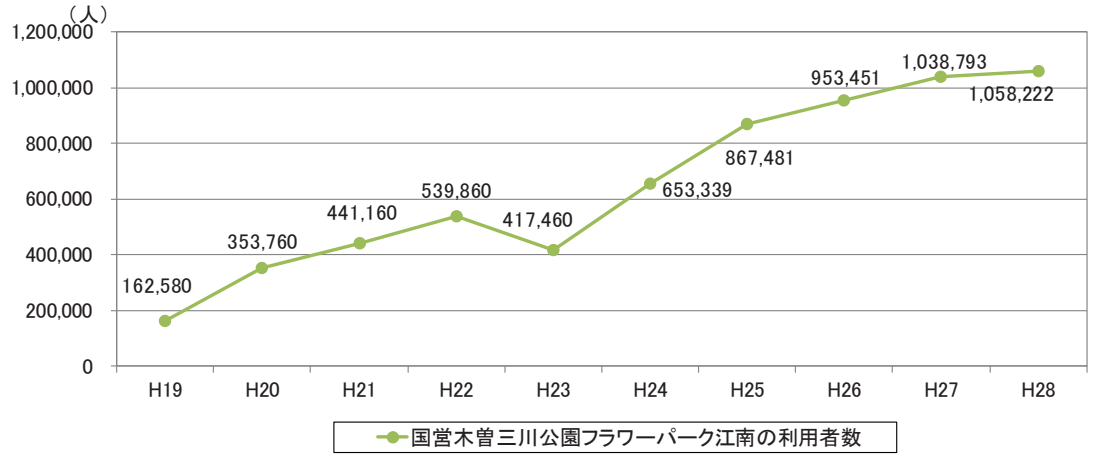
5）観光

主要観光施設における観光入込客数※の推移を整理すると、平成 23 年までは横ばい、それ以降は増加傾向にあります。特に、フラワーパーク江南の利用者は年々多くなっています。



資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計（Ｈ19～Ｈ28）

■観光入込客数の推移



資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計（Ｈ19～Ｈ28）

■国営木曽三川公園フラワーパーク江南の利用者数の推移

産業構造の動向からみた注視すべき事項

農業については、専業農家、兼業農家が減少している中、近年は自給的農家が農家総数の大半の割合を占めています。

工業については、事業所数、従業者数ともに減少傾向にあり、この傾向が続くと市内における雇用の場の縮小が懸念されます。

商業については、店舗数や売場面積の傾向から、大型店舗の立地により店舗が集約化され、小規模な店舗が減少していると推測され、身近にある店舗の撤退による日用品などの買い物に対する利便性の低下も懸念されます。

観光については、増加傾向にある状況を維持するためにも、継続的な動向の把握及び観光ニーズへの対応が求められます。特にフラワーパーク江南の利用者数は年々増加しており、本市の主要な観光施設としてさらなる活用が求められます。

（３）日常生活の動向

１）通勤・通学流動

通勤・通学流動の流入元は、一宮市（4,457 人）のほか、扶桑町、犬山市といった周辺都市が多く、流出先は、大都市である名古屋市（8,510 人）が最も多くなっており、周辺都市では小牧市、一宮市、大口町への流出が多くなっています。また、流出人口※が流入人口※を上回る市町が多く、流出超過となっています。

流入（総数）

流出（総数）

■流入総数

市町村名		H27 流動総数（人）	H27 割合（%）	H17 流動総数（人）	H17 割合（%）
江南市内		19,583	54%	22,521	59%
江南市外		15,416	42%	15,693	41%
上位10自治体	一宮市	4,457	28.9%	4,397	28.0%
	扶桑町	1,415	9.2%	1,402	8.9%
	名古屋市	1,316	8.5%	1,418	9.0%
	犬山市	1,300	8.4%	1,280	8.2%
	各務原市	1,168	7.6%	1,157	7.4%
	大口町	815	5.3%	784	5.0%
	岩倉市	763	4.9%	778	5.0%
	小牧市	758	4.9%	776	4.9%
	北名古屋市	601	3.9%	546	3.5%
	岐阜市	413	2.7%	379	2.4%
市外（その他）		2,410	15.6%	2,776	17.7%
不　詳		1,577	4%	－	－
合　計		36,576	100%	38,214	100%

■流出総数

市町村名		H27 流動総数（人）	H27 割合（%）	H17 流動総数（人）	H17 割合（%）
江南市内		19,583	37%	22,521	42%
江南市外		31,736	60%	31,580	58%
上位10自治体	名古屋市	8,510	26.8%	8,731	27.6%
	小牧市	4,109	12.9%	4,228	13.4%
	一宮市	3,952	12.5%	3,895	12.3%
	大口町	3,139	9.9%	3,216	10.2%
	犬山市	1,951	6.1%	1,869	5.9%
	扶桑町	1,536	4.8%	1,583	5.0%
	各務原市	948	3.0%	859	2.7%
	岩倉市	909	2.9%	985	3.1%
	北名古屋市	874	2.8%	953	3.0%
	春日井市	724	2.3%	644	2.0%
市外（その他）		5,084	16.0%	4,617	14.6%
不　詳		1,227	2%	－	－
合　計		52,546	100%	54,101	100%

(注)人口流動のうち上位 10 市町村を矢印で表示
(注)構成比は、他市町村への流入数の内訳を表示
資料：国勢調査（Ｈ17、Ｈ27）

日常生活の動向からみた注視すべき事項

通勤・通学が流出超過であることは、雇用や就学の場を他都市に置き、本市での居住を選択していることが想定され、自動車及び公共交通を利用する広域的な交通環境を確保することが求められます。また、流出超過は、雇用や就学のニーズに対応できていないことを現していると考えられます。

（４）土地利用の動向

１）土地利用・建物用途

本市の都市計画区域※の区域区分※の面積は、市街化区域が約 24%、市街化調整区域が約 76%の割合となっています。

市街化区域の土地利用の状況をみると、住宅用地が 307.6ha（約 42%）で最も多く、次いで道路用地が 129.1ha（約 18%）、工業用地が 73.3ha（約 10%）の順となっています。未利用地（農地）が 36.0ha（約５%）、低未利用地が 46.2ha（約６%）存在しており、市街化区域内に広く分布しています。

市街化調整区域については、田畑や住宅が全体的に広がっています。

市街化区域における経年的な変化については、平成 19 年度から平成 25 年度にかけて、商業用地や公的・公益用地が増加しています。一方で、田、畑及び住宅用地が減少しています。

■土地利用の状況

種別			H25		H19	
			面積(ha)	割合	面積(ha)	割合
市街化区域	自然的土地利用		44.1	(6.0%)	56.1	(7.6%)
		田	0.3	(0.0%)	0.8	(0.1%)
		畑	35.7	(4.9%)	41.3	(5.6%)
		山林	0.0	(0.0%)	0.0	(0.0%)
		水面	2.7	(0.4%)	3.2	(0.4%)
		その他の自然地	5.5	(0.7%)	10.8	(1.5%)
	都市的土地利用		690.4	(94.0%)	678.3	(92.4%)
		住宅用地	307.6	(41.9%)	312.5	(42.5%)
		商業用地	57.9	(7.9%)	51.1	(7.0%)
		工業用地	73.3	(10.0%)	75.9	(10.3%)
		公的・公益用地	59.3	(8.1%)	51.9	(7.1%)
		道路用地	129.1	(17.6%)	127.5	(17.4%)
		交通施設用地	4.1	(0.6%)	3.3	(0.4%)
		公共空地	12.3	(1.7%)	11.0	(1.5%)
		その他の空地	0.5	(0.1%)	45.0	(6.1%)
		低未利用地	46.2	(6.3%)	－	(－)
市街化区域計			734.5	24.3%	734.4	24.3%
市街化調整区域			2,285.5	75.7%	2,282.6	75.7%
合計			3,020	100.0%	3,017	100.0%

資料：都市計画基礎調査（Ｈ19、Ｈ25）

市街化区域の建物用途をみると、商業系施設が約６%、住宅系施設が約 86%、公共系施設が約３%、工業系施設が約６%と大部分が住宅系施設となっています。

経年的な変化については、平成 24 年度から平成 29 年度にかけて、住宅系施設が増加しています。一方で、商業系施設などそれ以外の施設は減少しています。

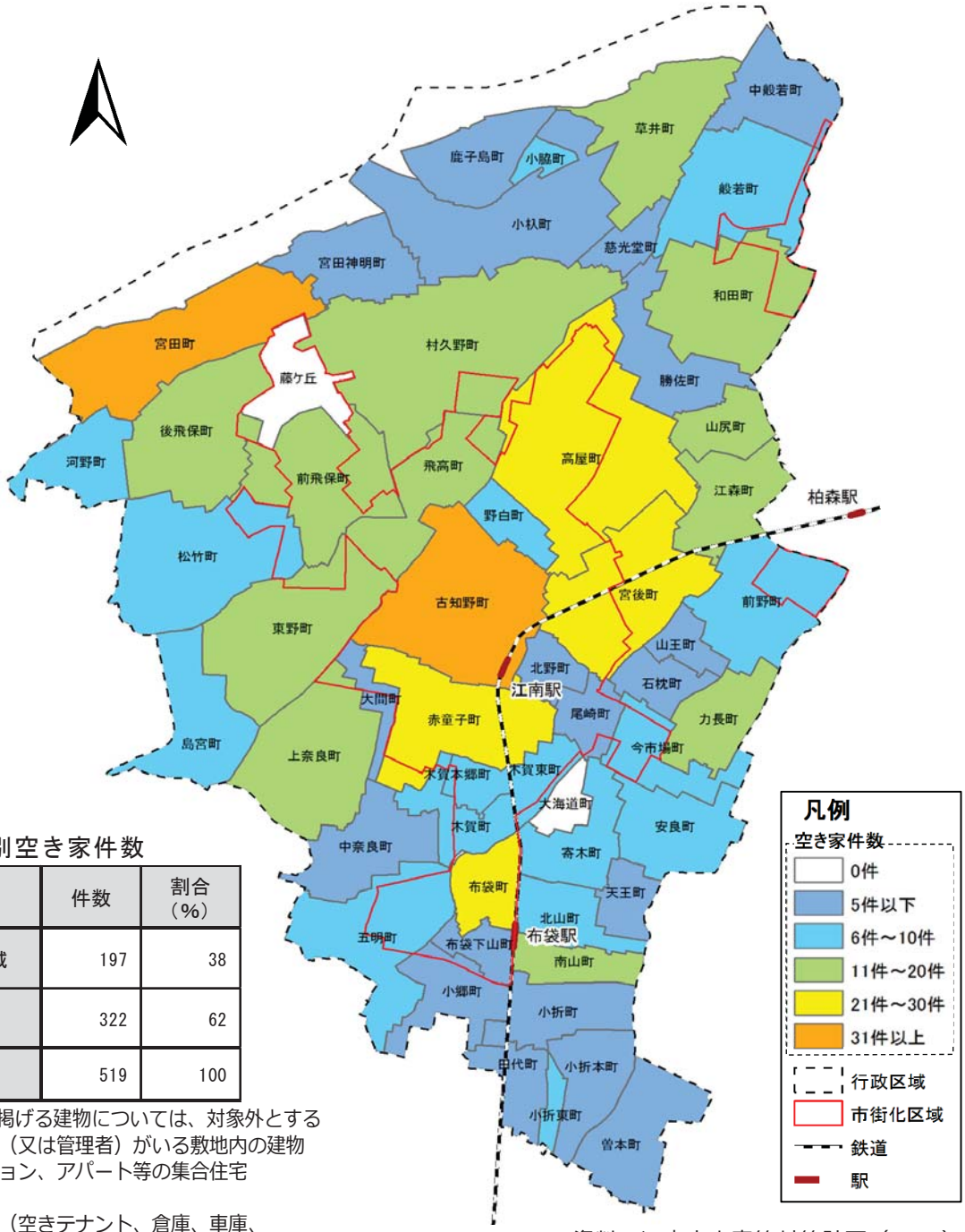
■市街化区域における建物用途の状況

種別	H29		H24	
	棟数(棟)	割合	棟数(棟)	割合
商業系施設	1,152	6.3%	1,207	6.9%
住宅系施設	15,746	85.5%	14,727	83.8%
公共系施設	518	2.8%	542	3.1%
工業系施設	1,011	5.5%	1,097	6.2%
合計	18,427	100.0%	17,573	100.0%

資料：都市計画基礎調査（Ｈ24、Ｈ29）

2）空き家

空き家は、市中心部の古知野町、市街化調整区域の宮田町に多くみられますが、市全域に広く分布しています。また、市街化区域よりも市街化調整区域に多く分布しています。



■区域別空き家件数

	件数	割合（%）
市街化区域	197	38
市街化調整区域	322	62
合計	519	100

(注)以下に掲げる建物については、対象外とする
①居住者（又は管理者）がいる敷地内の建物
②マンション、アパート等の集合住宅
③貸家
④その他（空きテナント、倉庫、車庫、農業用倉庫、ビニールハウス等）

資料：江南市空家等対策計画（H30）

■町単位空き家分布図

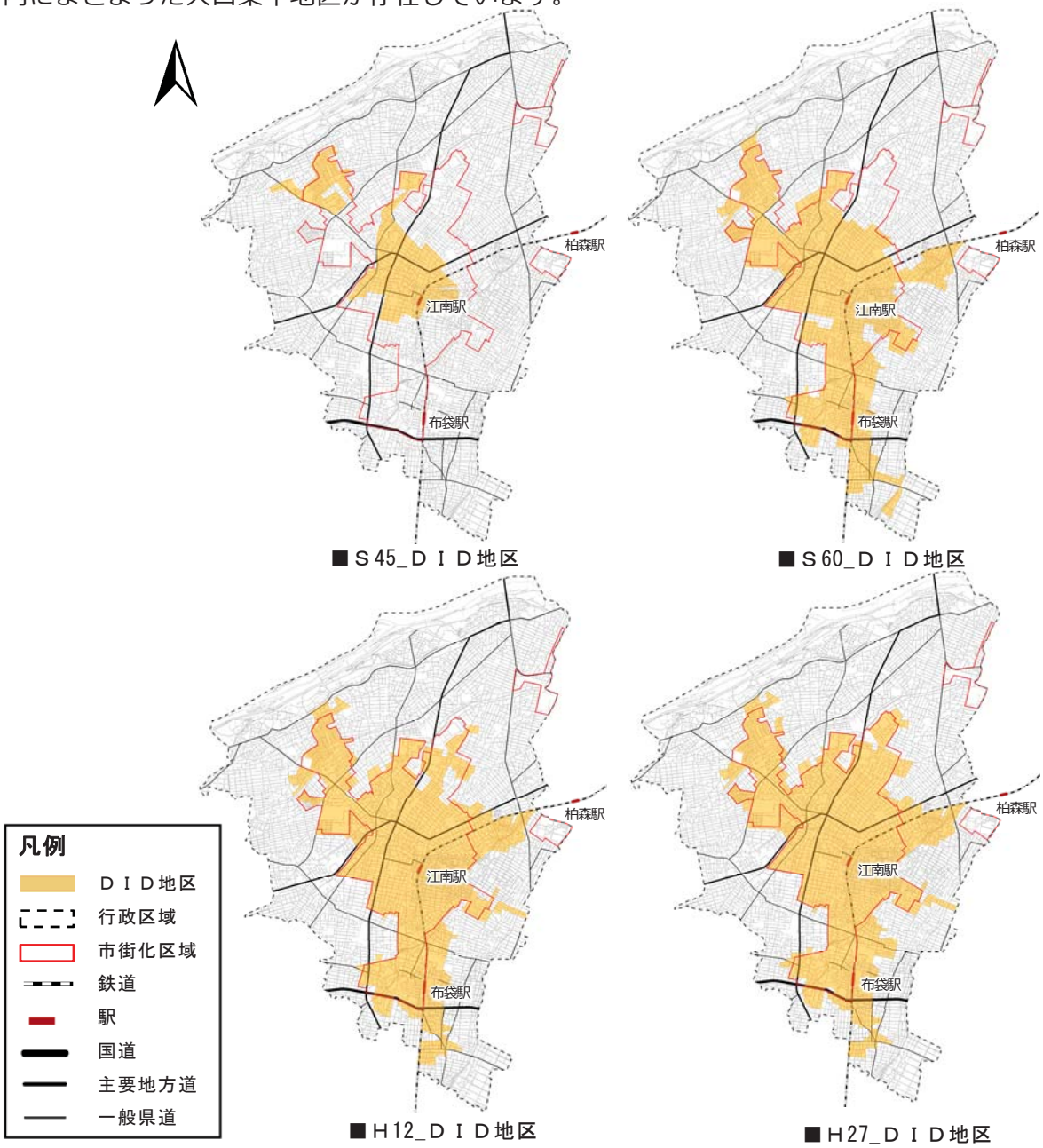
土地利用の動向からみた注視すべき事項

市街化区域内は、住宅地が全体的に広がり、住宅系、工業系が混在する地域も少なく整然とした土地利用が図られています。また、江南駅周辺の市中心部において、空き家の分布が多くみられ、周辺の居住環境の維持のためにも、有効な利活用が求められます。

（５）市街地の動向

１）人口集中地区

人口集中地区（ＤＩＤ）※の推移をみると、昭和 45 年の時点では、江南駅周辺と江南団地周辺のみが人口集中地区であり、その後、昭和 60 年には現在の市街化区域に近い区域が人口集中地区となっています。また、江南駅北東部や布袋駅東側には、市街化調整区域内にまとまった人口集中地区が存在しています。



■Ｓ45_ＤＩＤ地区　■Ｓ60_ＤＩＤ地区　■Ｈ12_ＤＩＤ地区　■Ｈ27_ＤＩＤ地区

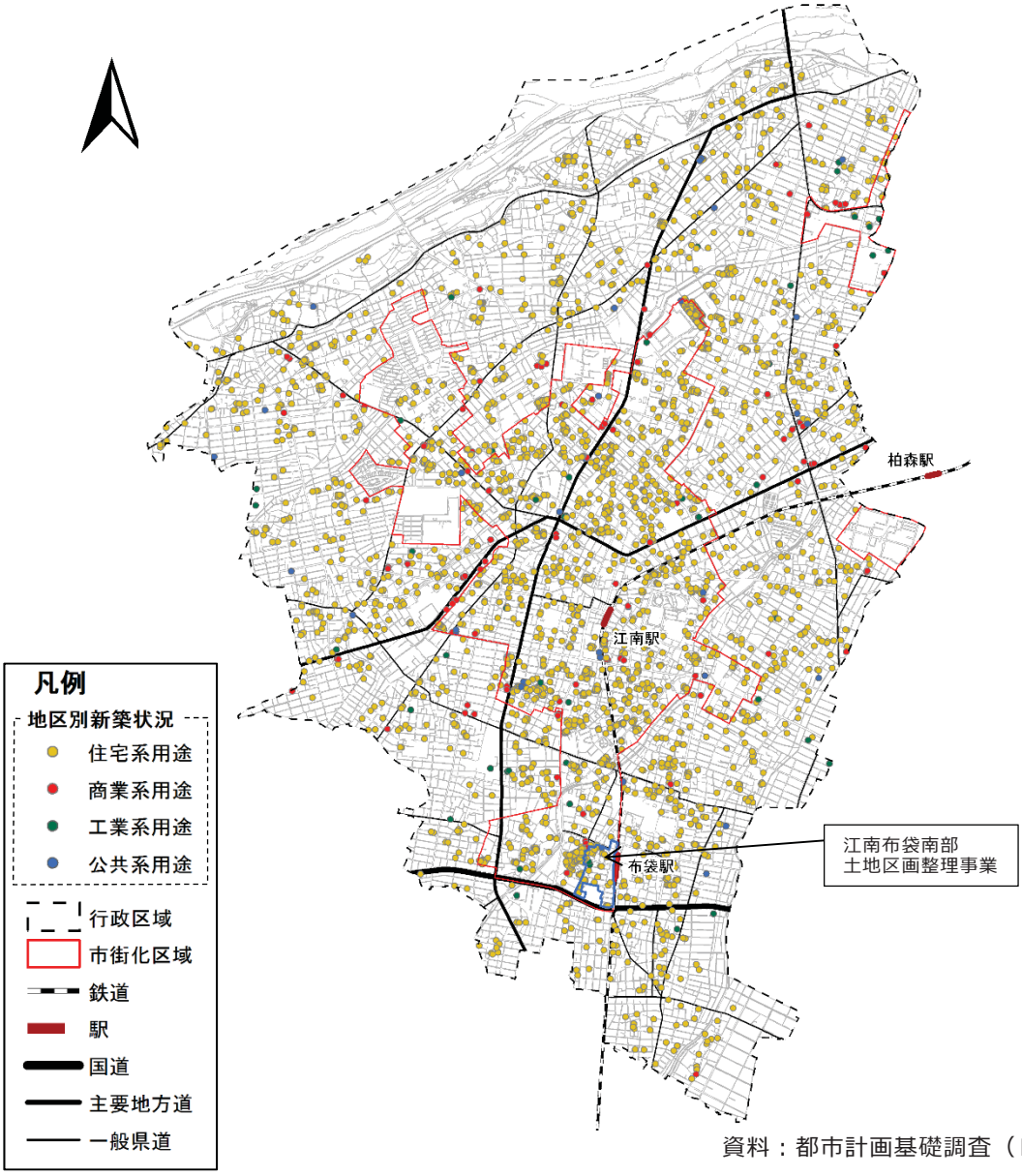
	S45	S60	H12	H27
市街化区域の人口（割合）	－	38,703(42.05%)	46,505(47.49%)	46,815(47.6%)
市街化調整区域の人口（割合）	－	53,346(57.95%)	51,418(52.51%)	51,544(52.4%)
合計	77,996	92,049	97,923	98,359
DID面積（ha）	240ha	781ha	864ha	924ha

資料：国勢調査、都市計画基礎調査（Ｓ45～Ｈ27）

■人口集中地区（ＤＩＤ）の推移

2）建築状況

新築件数の状況（平成 24 年から平成 28 年）をみると、布袋駅西側の土地区画整理事業※地区内に住宅系用途がまとまってみられます。一方で、市街化調整区域内での開発も多くみられ、スプロール※的な市街化が進行しています。



資料：都市計画基礎調査（H29）

■新築件数の状況図（H24～H28）

■新築件数（H24～H28）

	住宅系用途(件)	商業系用途(件)	工業系用途(件)	公共系用途(件)
市街化区域	1,256	41	22	15
市街化調整区域	1,433	70	26	18
合計	2,689	111	48	33

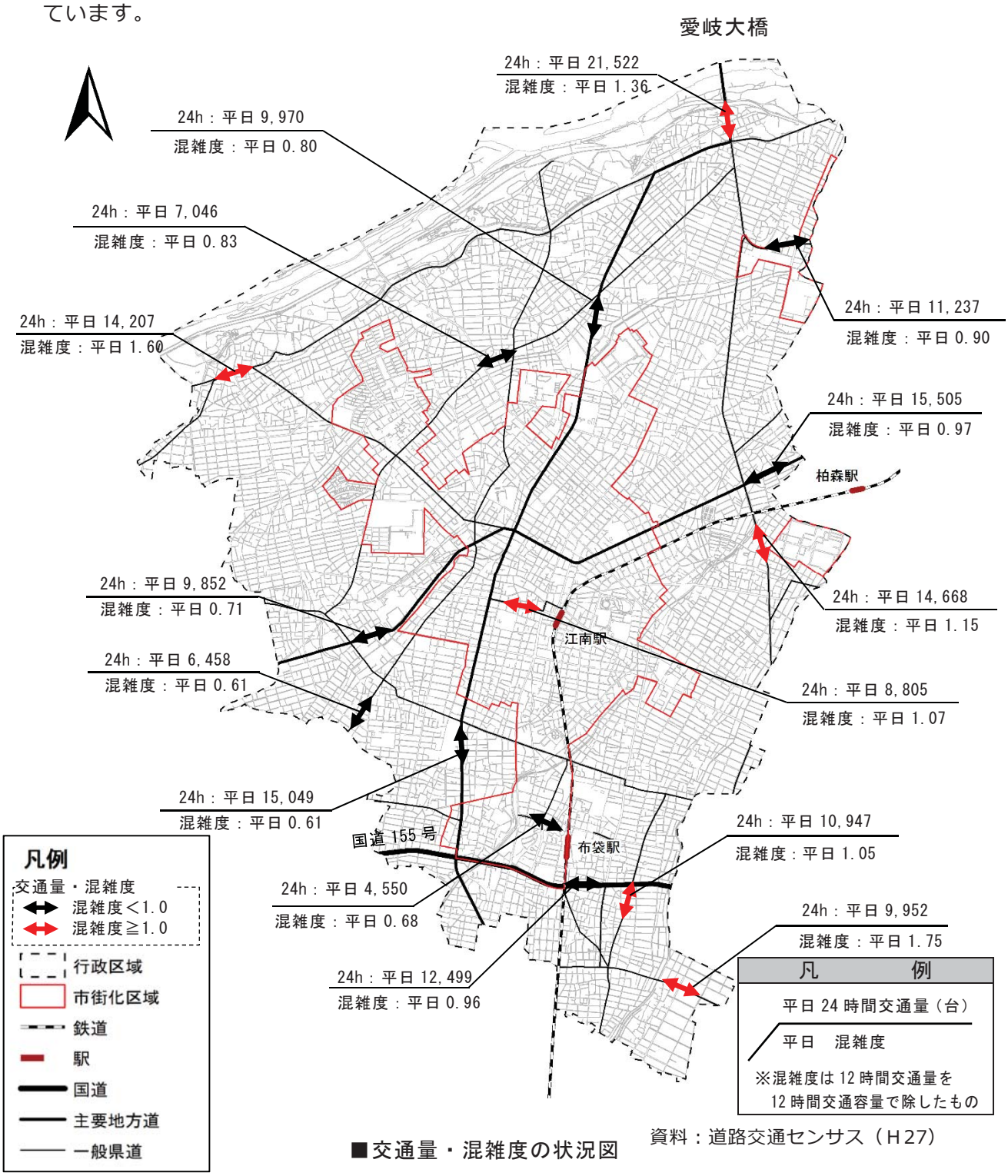
市街地の動向からみた注視すべき事項

市街化区域内では、江南厚生病院や布袋駅西側において一団の開発がみられますが、市街化調整区域においても、住宅系を中心とした開発が点在しており、人口減少期を迎えている中で、市街地の低密度化が懸念されます。

（６）都市基盤の状況

１）交通量・混雑度

平成 27 年度の道路交通センサスでは、木曽川を渡る愛岐大橋につながる(主)[注１]江南関線の箇所で平日の 24 時間交通量が 21,522 台と最も多く、混雑度も 1.36 と高い値を示しています。



■交通量・混雑度の状況図

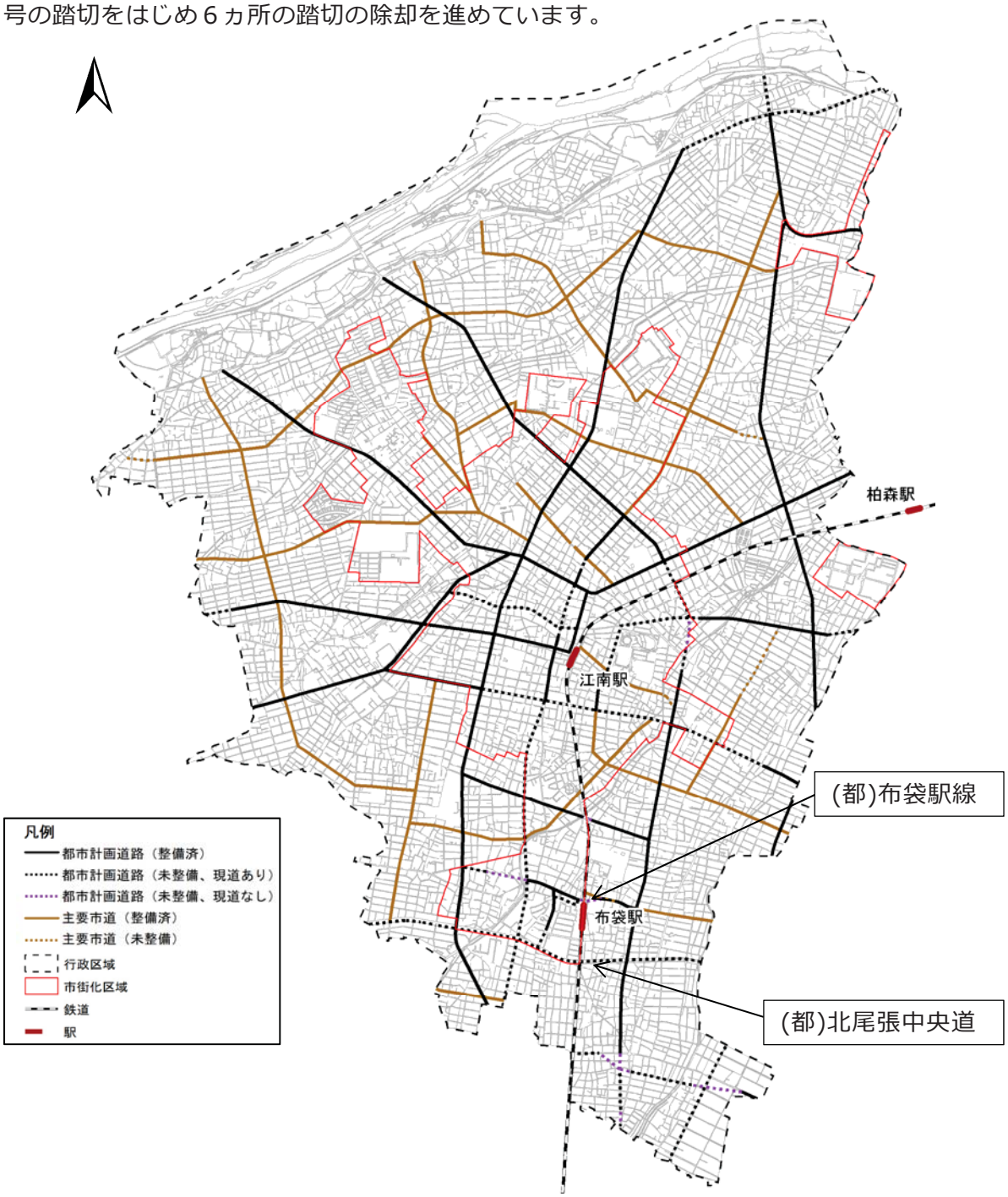
資料：道路交通センサス（H27）

注１：主要地方道の略。

2）都市計画道路

都市計画道路※の整備状況をみると、計画路線は 23 路線で平成 29 年度末の進捗率は 67.5%です。整備済み路線が 6 路線、整備中が 12 路線であるほか、未着手の路線が 5 路線残っています。江南駅や布袋駅周辺に未整備の区間が多く残っています。

また、布袋駅周辺において、鉄道高架化事業が進められており、事業にあわせ(都)[注1]北尾張中央道（国道 155 号）の 4 車線化への拡幅、(都)布袋駅線の整備のほか、国道 155 号の踏切をはじめ 6 ヵ所の踏切の除却を進めています。



資料：江南市資料（H29）

■都市計画道路などの整備状況図

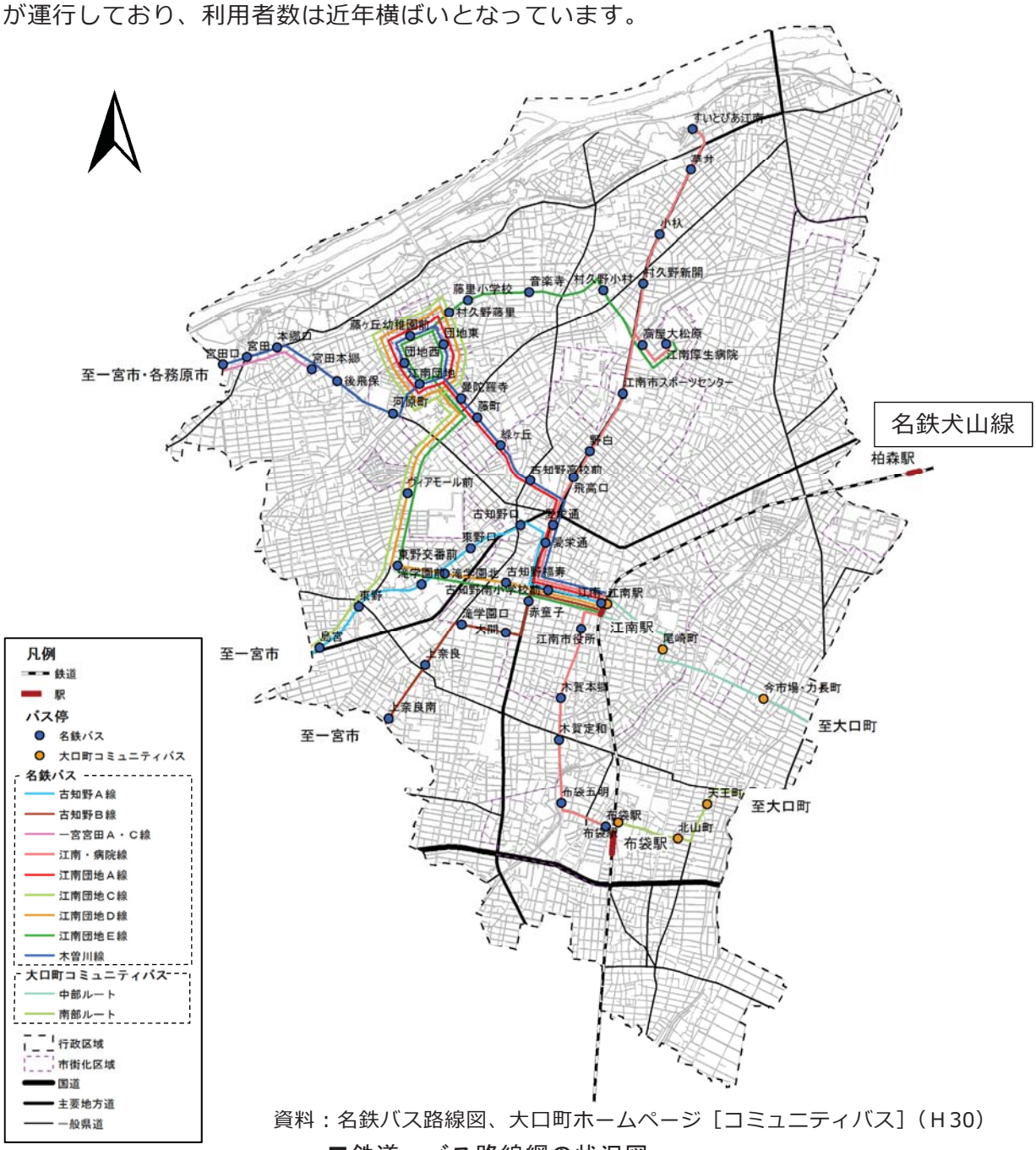
注１：都市計画道路の略。

３）公共交通

市内の鉄道は、名鉄犬山線が通っており、江南駅と布袋駅の２つの鉄道駅が存在しています。名古屋駅などへの広域交通にも対応し、２駅とも利用者は増加傾向にあります。

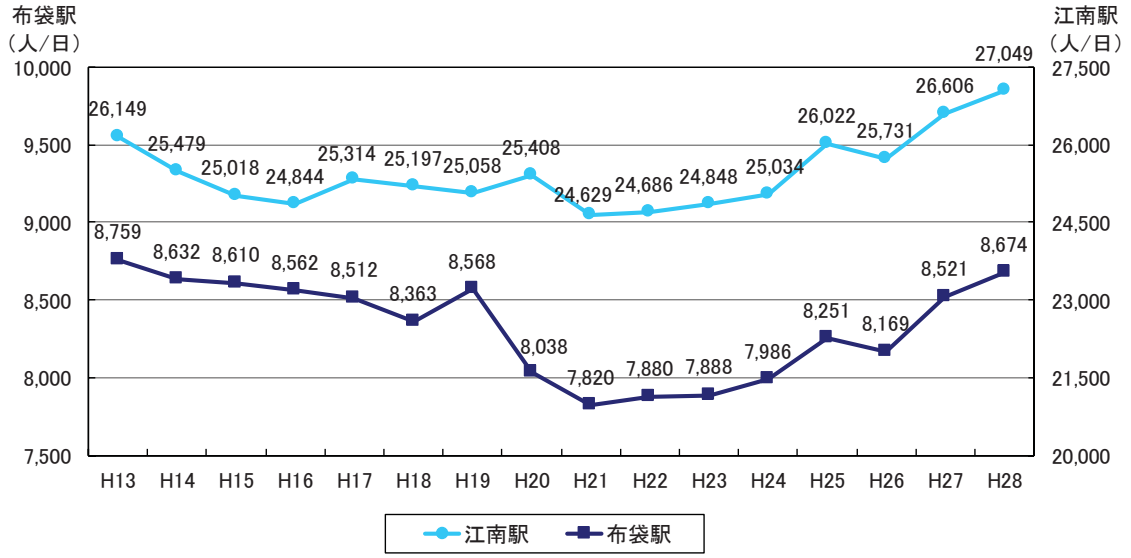
バス路線は名鉄バスと大口町コミュニティバスで形成されています。名鉄バスは、江南駅を中心として、市内を南北に結ぶ路線、本市と一宮市を結ぶ路線などとなっており、大口町コミュニティバスは、江南駅、布袋駅と大口町を結ぶ路線となっています。江南駅が複数の交通手段の結節点となっています。

そのほか、利用者登録により、事前に予約して利用することが可能な「いこまいＣＡＲ※」が運行しており、利用者数は近年横ばいとなっています。



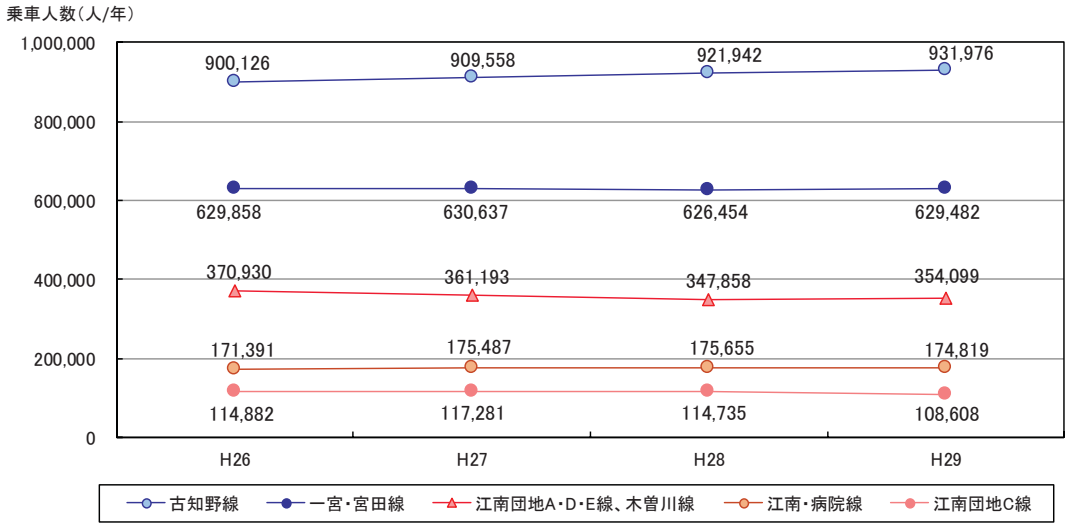
資料：名鉄バス路線図、大口町ホームページ［コミュニティバス］（Ｈ30）

■鉄道・バス路線網の状況図



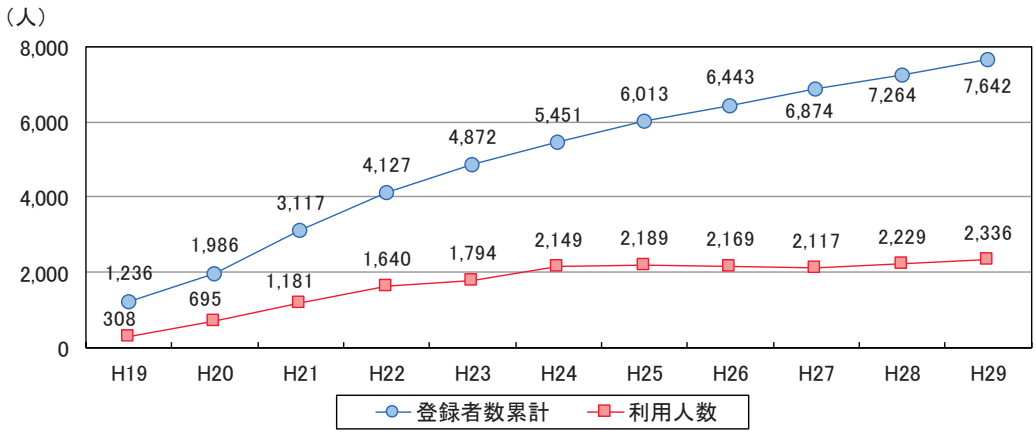
資料：名古屋鉄道（Ｈ13～Ｈ28）

■鉄道駅の乗降客数の推移



資料：名鉄バス（Ｈ26～Ｈ29）、江南市資料（Ｈ26～Ｈ29）

■名鉄バスの利用人数の推移



資料：江南市資料（Ｈ19～Ｈ29）

■いこまいＣＡＲの利用状況の推移

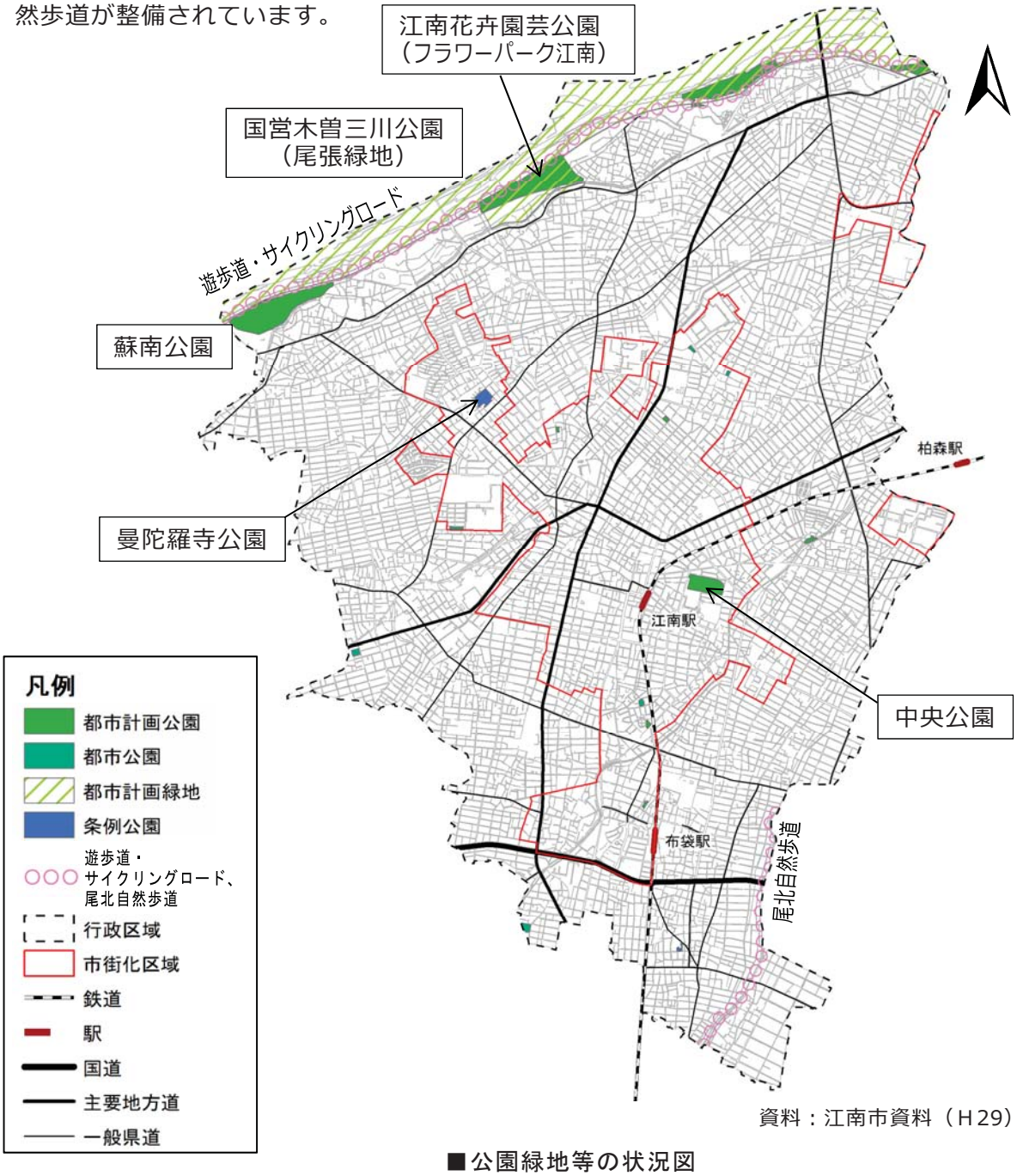
４）公園・緑地

都市公園※は、中央公園や蘇南公園をはじめとして 15 箇所、258,874 ㎡が供用されているほか、国営公園の江南花卉園芸公園（フラワーパーク江南）が供用されていますが、市民１人当たりの都市公園面積（平成 29 年３月現在）は、3.9 ㎡/人と、愛知県の平均の 8.0 ㎡/人を大きく下回っています。

また、江南藤まつりが開催される曼陀羅寺公園など条例公園※が２箇所、15,546 ㎡が供用されています。

都市緑地※は、木曽川に沿って、国営木曽三川公園（尾張緑地）が指定されています。

木曽川に沿って遊歩道・サイクリングロードが整備されており、五条川沿いには尾北自然歩道が整備されています。

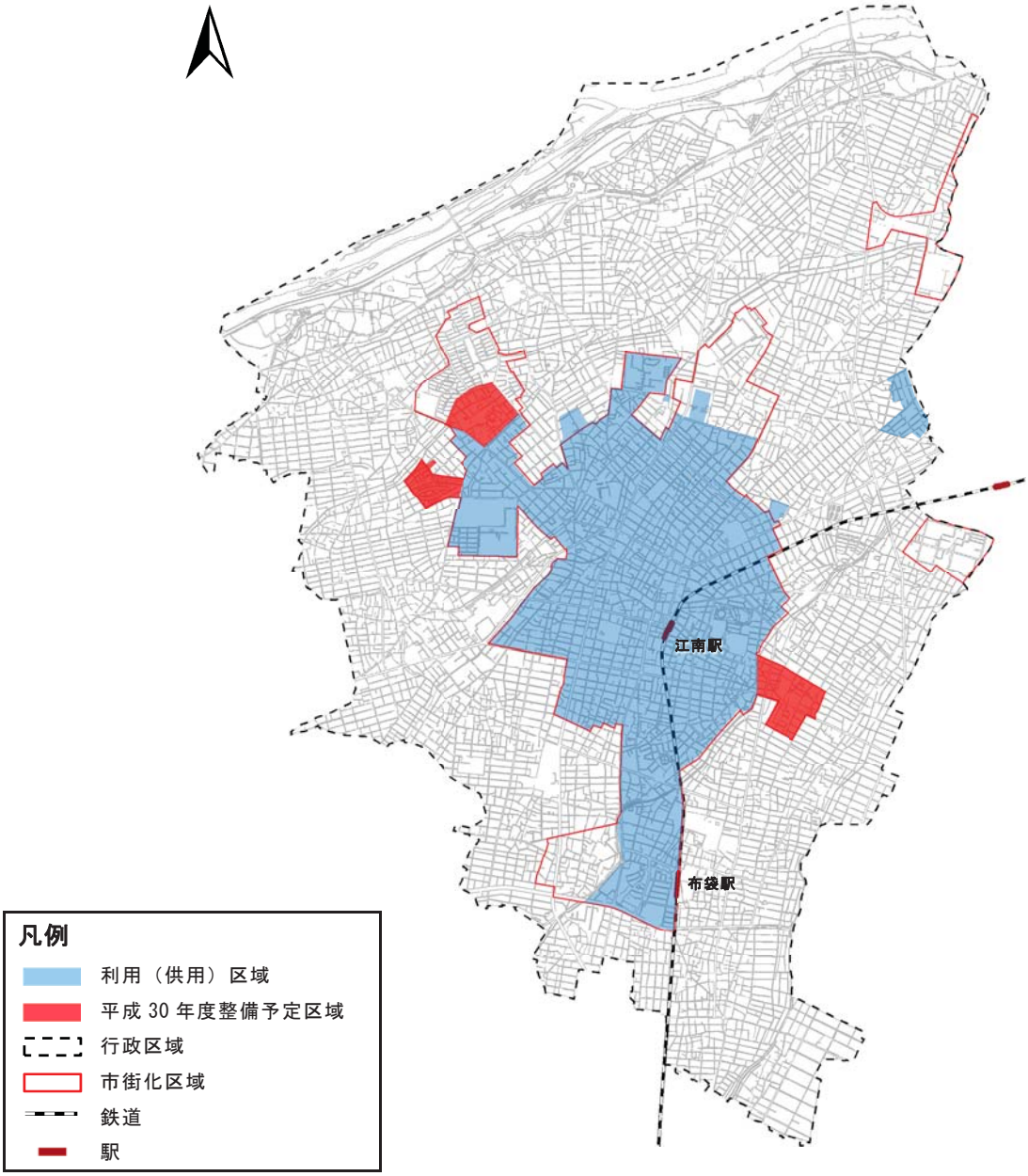


資料：江南市資料（Ｈ29）

■公園緑地等の状況図

５）下水道

下水道の整備状況をみると、市街化区域を中心に供用が進んでいます。



出典：江南市資料（Ｈ30）

■下水道の整備状況図（平成 30 年３月末現在）

都市基盤の状況からみた注視すべき事項

渋滞箇所の常態化により、移動利便性に関する満足度の低下が懸念されます。また、布袋駅付近の鉄道高架化事業では、交通流動の変化にあわせた効果的な取り組みが求められます。

公共交通は、拠点となる鉄道駅を中心に路線バスなどが運行しています。また、一部地域において網羅できていない地域が存在しており、それら地域を補完する意味合いも含め、デマンド交通（いこまいＣＡＲ）が運行しています。

公園・緑地は、市民１人当たりの都市公園面積の水準が低い状態となっています。また、大規模公園が北部に集中しており、分布に地域格差がみられます。

（7）公共公益施設（平成 30 年 12 月現在）の現況

1）行政サービス施設

行政サービス施設は 7 施設あり、市役所及び支所が 5 箇所、その他の施設が 2 箇所となっています。江南駅周辺に市役所や江南市防災センター、江南市保健センターが集積しているほか、支所や公民館は市内に点在しています。

2）教育施設

教育施設は、小学校 10 校、中学校 5 校、中高一貫校 1 校、高等学校 3 校、短期大学 1 校であり、市内全域に点在しています。

また、児童・生徒数については、小中高等学校、短期大学ともに減少傾向となっています。

3）保育施設・子育て支援施設

保育施設・子育て支援施設は、幼稚園などが 5 園、保育園が 18 園、認可外保育施設※が 3 施設、学童保育所が 10 施設、児童館が 5 施設、子育て支援センター※が 3 施設であり、市内全域に点在しています。

4）文教施設

文教施設は、江南市スポーツセンター、江南市民文化会館・歴史民俗資料館、布袋ふれあい会館、江南市立図書館が立地し、学習等供用施設※が 5 箇所、公民館が 3 箇所分布しています。

5）福祉施設

市内には、福祉施設※が 38 箇所あり、広く立地していますが、市北西部の県営松竹住宅周辺や、市南部の布袋駅周辺の地域で、他の地域と比べ施設立地の密度が低くなっています。

6）医療施設

医療施設※は、病院※が 3 箇所、診療所※が 56 箇所あります。

医療施設は、市街化区域内の立地が多いものの、3 つの病院（江南厚生病院、布袋病院、佐藤病院）の内、 2 つが市街化調整区域に立地しています。

公共公益施設の現況からみた注視すべき事項

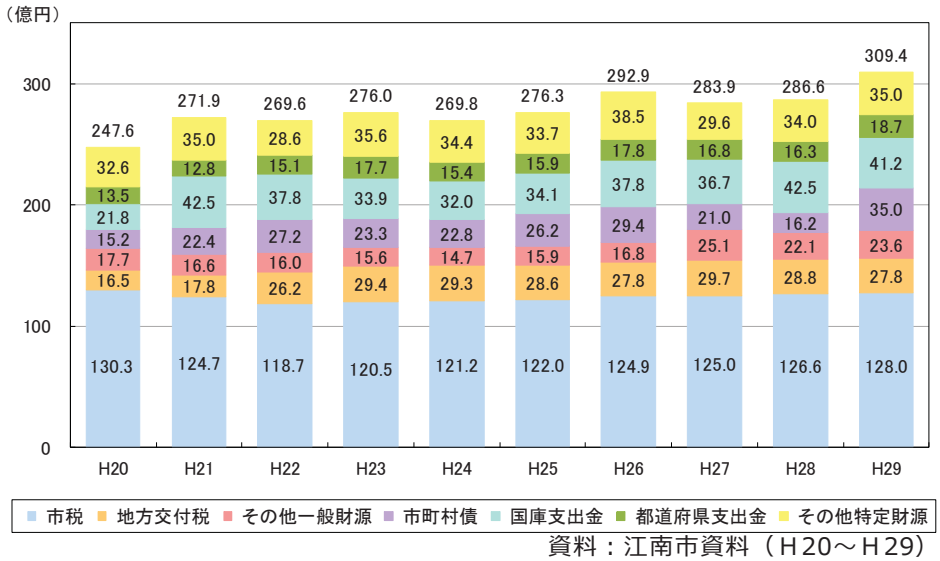
公共公益施設については、これまでの人口増加に伴い市内全域に立地が進んだと想定され、人口減少期を迎えている中では、人口密度の低下により、効率的な都市経営に向けた施設の統廃合なども想定されます。

これら施設周辺の居住者の世代構成の変化に伴い、生活ニーズと施設立地の整合性についても把握が必要と考えられます。

（８）財政の動向

１）歳入

平成 29 年度の歳入総額は、約 309 億円となっており、近年で最も高くなっています。主な自主財源※である市税は、120～130 億円程度で推移しています。

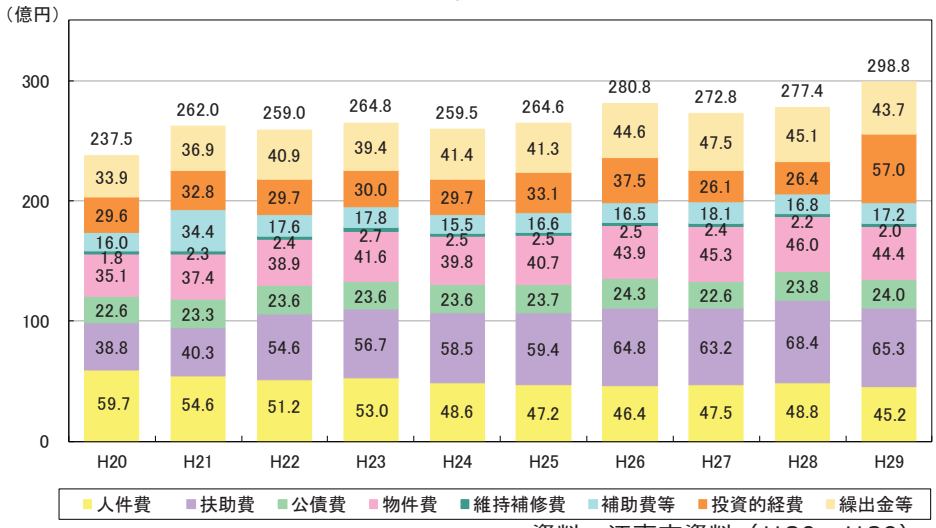


資料：江南市資料（Ｈ20～Ｈ29）

■歳入の推移

２）歳出

平成 29 年度の歳出総額は、約 299 億円となっています。歳出のうち、義務的経費※の一部である扶助費※は、高齢化によって増加傾向を示しており、平成 20 年度の約 39 億円から、平成 29 年度には約 65 億円と 1.7 倍に増加しています。



資料：江南市資料（Ｈ20～Ｈ29）

■歳出の推移

財政の動向からみた注視すべき事項

主な自主財源である市税が横ばいで推移している中、今後の人口減少・少子高齢化による所得の減少などにより市税の減少が懸念されます。

また、公共施設等総合管理計画において、今後の公共施設の維持・更新費の予測がされており、その費用も含め、持続可能な都市経営に向けた、効率的な建設投資が求められます。

（９）防災関連

１）地震による被害予測

愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査（平成 26 年５月）では、東海地震・東南海地震・南海地震が連動して発生した場合、市内のほぼ全域で震度５強以上の揺れが想定されています。

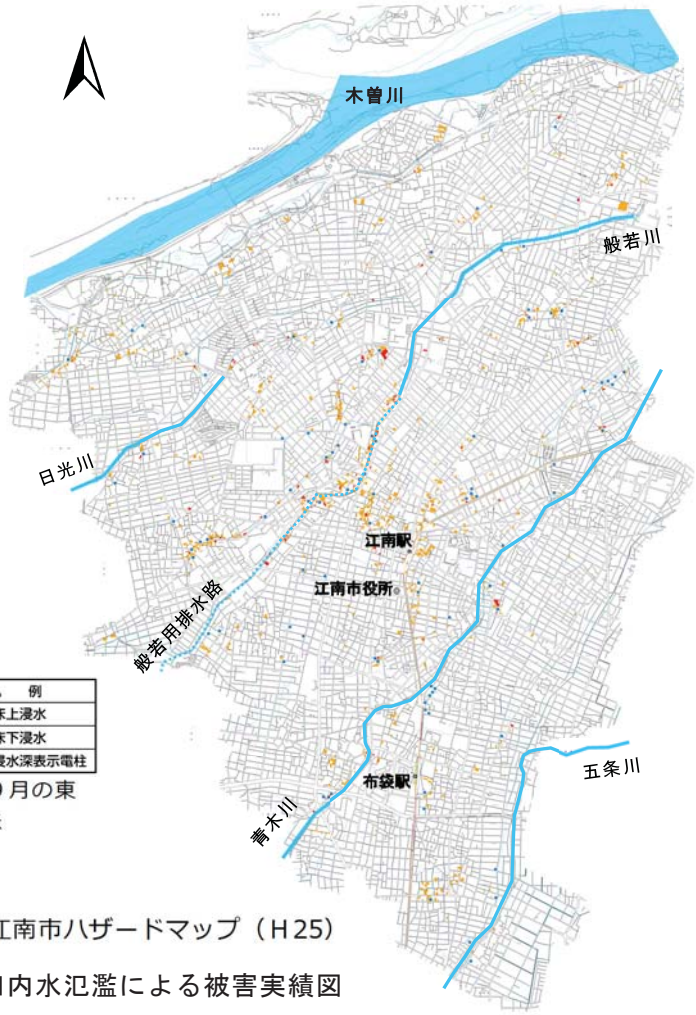
液状化の危険度は、極めて低いことが予測されている一方で、帰宅困難者が約 5,200 人発生することが予測されています。

２）浸水災害履歴

内水氾濫※の被害実績をみると、床下浸水は市全域に点在しているほか、床上浸水は市北部で比較的多く発生しています。

以下５回の豪雨時の被害実績を図示したもの
平成12年９月11日（東海豪雨）
平成20年８月28日
平成21年６月22日
平成23年８月23日
平成23年８月27日

●の場所の電柱には、平成 12 年９月の東海豪雨により浸水した高さを表示



資料：江南市ハザードマップ（H25）

■内水氾濫による被害実績図

防災関連からみた注視すべき事項

本市は地震による津波の心配がないほか、液状化の危険度も低いことから、地震災害に対し、被災のリスクが比較的低くなっています。しかし、日中の人口流動が多い特性を有していることから、発災時における帰宅困難者の発生が懸念されます。

一方で、内水氾濫の被害実績において、床上浸水の被害が発生しているなど、近年、常態化しつつある局地的大雨や集中豪雨による浸水被害が懸念されます。

（10）都市構造評価

1）都市構造の評価方法

本市の都市構造の現状を客観的に評価するため、「都市構造の評価に関するハンドブック（平成 26 年 8 月 国土交通省）」に即した手法により、生活利便性、健康・福祉、地域経済の各指標について評価を行いました。

また、各指標をもとに、本市の現状を評価するため、三大都市圏※の平均値及び全国平均との比較をしました。

2）都市構造の評価結果

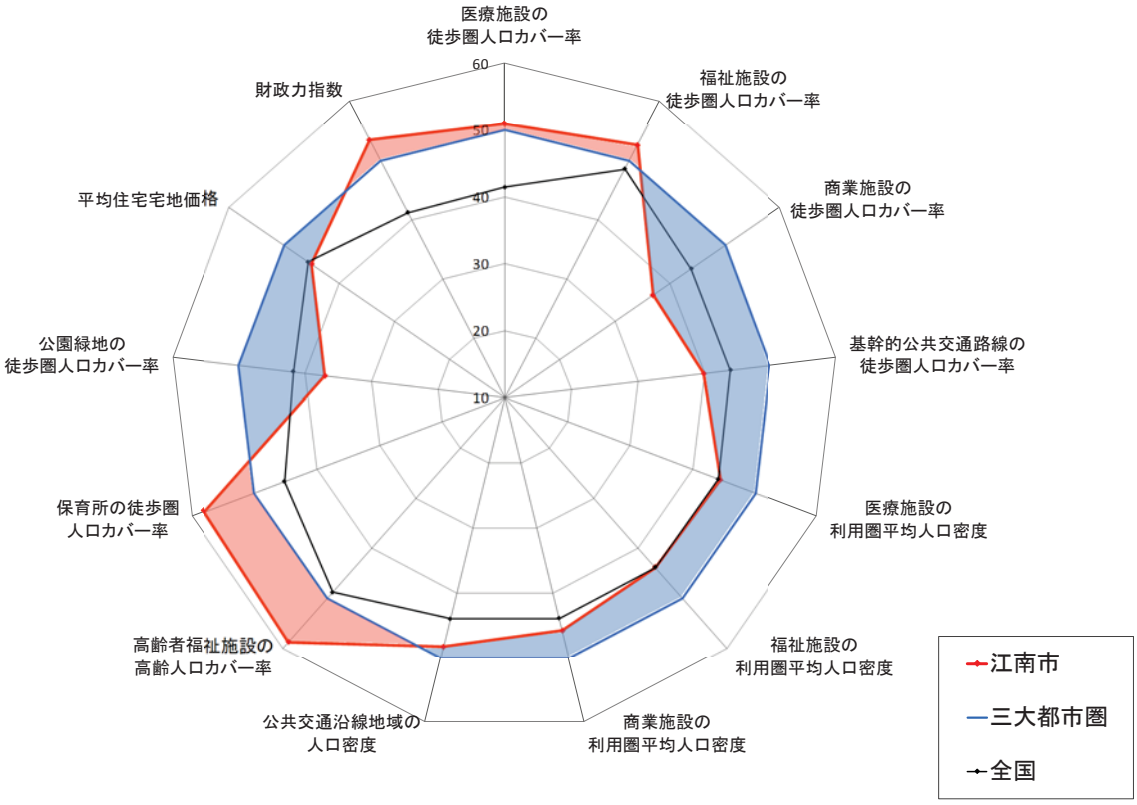
本市の現状を三大都市圏や全国の平均と比べると、医療施設、福祉施設の徒歩圏人口カバー率※は三大都市圏や全国の平均を上回っていますが、商業施設、基幹的公共交通路線利用圏の徒歩圏人口カバー率は、三大都市圏や全国の平均を下回っています。また、医療施設、福祉施設、商業施設周辺の人口密度は、三大都市圏平均を下回っています。これは、本市が人口密度の比較的低い市街化調整区域内にも施設が広く立地していることが要因であると考えられます。今後、人口密度の低下が進展することになれば、各施設の撤退につながるおそれがあります。

また、平均住宅宅地価格は、三大都市圏や全国の平均より低く、財政力指数※では三大都市圏や全国の平均を上回っています。

評価指標			江南市	三大都市圏平均	全国平均
生活利便性	生活サービス施設の徒歩圏人口カバー率	医療施設徒歩圏人口カバー率(800m)	92.4（%）	91.6（%）	84.5（%）
		福祉施設徒歩圏人口カバー率(800m)	89.4（%）	82.7（%）	79.0（%）
		商業施設徒歩圏人口カバー率(800m)	66.0（%）	82.5（%）	74.7（%）
	基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率(%)		47.1（%）	66.3（%）	54.7（%）
	生活サービス施設の利用圏平均人口密度	医療施設の利用圏平均人口密度(800m)	39.6（人/ha）	56.3（人/ha）	38.6（人/ha）
		福祉施設の利用圏平均人口密度(800m)	37.6（人/ha）	55.9（人/ha）	37.6（人/ha）
		商業施設の利用圏平均人口密度(800m)	47.9（人/ha）	60.2（人/ha）	42.4（人/ha）
	公共交通沿線地域の人口密度		48.3（人/ha）	53.5（人/ha）	34.9（人/ha）
健康･福祉	高齢者福祉施設(1km)の高齢人口カバー率(65歳以上)		97.3（%）	75.6（%）	72.4（%）
	保育所の徒歩圏(800m)人口カバー率(0～5歳)		93.5（%）	81.6（%）	74.4（%）
	公園緑地の徒歩圏(800m)人口カバー率		77.4（%）	91.6（%）	82.6（%）
地域経済	平均住宅宅地価格(市街化区域)		86,600（円/㎡）	124,788（円/㎡）	91,405（円/㎡）
	財政力指数		0.81	0.72	0.49

資料：都市構造評価指標例データリスト（国土交通省）、江南市資料（H30）

以下のグラフは、各指標の数値について、三大都市圏の数値を偏差値 50 として江南市と全国の数値を換算し、グラフ化したものです。



■都市構造評価における他都市との比較（三大都市圏・全国）

都市構造評価からみた注視すべき事項

医療施設や福祉施設は、施設の立地も多く、他都市と比較しても人口カバー率が高くなっていますが、それら施設周辺における人口密度が他都市より低いことから、今後の人口減少によって、施設が撤退した場合に、現在の人口カバー率が維持できなくなることが懸念されます。

商業施設は、市東部の地域において当該施設がなく人口カバー率が低くなっていることから、生活利便性の確保に向けた検討が求められます。

また、公共交通については、運行頻度片道 30 本/日以上の運行サービス（基幹的公共交通路線）を有する範囲のカバー率が低くなっており、この状況が続くと、自動車を運転できない市民の外出機会が減少することが懸念されます。

また、これら生活利便施設周辺の居住者の世代構成の変化に伴い、生活ニーズと施設立地の整合性についても把握が必要と考えられます。

3 前計画の検証

平成 21 年３月に策定した前都市計画マスタープランの都市づくりの方針に基づいて、実施・検討を進めてきた様々な取り組みの実施状況の主な検証結果を以下に整理します。

❖方針のとおり実施された主な取り組み

«土地利用»

(都)名古屋江南線の沿道をはじめとした商業系用途地域内において商業施設が立地しており、商業用地は微増傾向にあります。周辺住民に対する利便性の向上に向けた維持・充実が図られています。

布袋駅周辺は、鉄道高架化事業にあわせ、西側は土地区画整理事業などが進捗したことにより、良好な住宅地の形成が図られました。また、東側は良好な市街地形成に向け、新たな住宅地及び商業地を位置づけるための取り組みを実施しています。

«施設整備»

道路施設は、環状軸である市道後飛保和田線の未整備区間の整備を実施したほか、江南駅周辺においては、自転車専用通行帯カラー整備工事を実施しました。

公園緑地は、緑の軸として位置づけている木曽川沿いの遊歩道・サイクリングロードが完成しています。

«防災»

浸水の軽減を図るための市内の青木川放水路の整備が完了しました。

市内の小学校や中学校について、耐震化を実施しました。

❖方針のとおり実施中である主な取り組み

«施設整備»

道路施設は、(都)江南通線が整備中であるほか、布袋駅の鉄道高架化事業にあわせ、(都)布袋本町通線などの周辺道路の整備を進めています。

布袋駅の東側では、新たなにぎわいや交流を創出するための施設として、図書館や保健センターを備えた複合公共施設の整備に向けた検討を進めています。

«自然環境・景観»

身近な緑の創出に向け、市内の公園や駅前ロータリーなどの公共スペースにおいて花いっぱい運動を継続的に実施しています。

«防災»

農地などの保水機能を有する土地の開発の場合について、雨水流出抑制対策の指導を実施しています。

❖方針に位置づけたが、実施されなかった主な取り組み

≪土地利用≫

緑化機能や保水機能を有する一団の農地については、農用地の指定などで保全に努めているものの、宅地への転換等により減少傾向であり、保全に向けた取り組みが必要となっています。

≪施設整備≫

江南駅周辺については、駅へのアクセス道路の交通環境改善を進め、利用者の円滑かつ安全な移動環境を確保できるよう施策の検討が必要となっています。

≪自然環境・景観≫

本市を代表する自然景観であり、木曽川の水の流れと緑あふれる河川敷がつくりだす景観について、保全・活用に向けた取り組みが必要となっています。

「ふるさと江南歴史散策道」を中心に、文化・歴史的景観の形成の充実に向けた取り組みが必要となっています。

4 市民意向調査の概要

都市計画マスタープラン、緑の基本計画及び、立地適正化計画の策定に向けて、市民意向調査を実施しました。調査の概要及び調査結果については以下のとおりです。

（1）調査の概要

1）調査の目的

都市計画マスタープランについては、日常生活（通勤、通学、通院、買い物・娯楽、子育てなど）における移動実態の把握のほか、都市づくり方向性、利便性の高い生活環境、緑を身近に感じるための方策、まちづくりへの参画のあり方などに関する意向を把握することを目的として実施しました。

【調査のねらい】

① 前計画策定後の 10 年間における市民意識の変化を把握
② 変化する都市づくりへの考え方を把握
③ 集約化の中心となる拠点（江南駅・布袋駅）に必要な都市機能を把握
④ 都市構造の検討や効果的な施策の検討に向け、居住選択、施設利用、移動などの実態を把握
⑤ 生活環境における必要な都市基盤を把握
⑥ 生活にゆとりとうるおいを生む公園緑地等に関する意向を把握

2）実施期間

平成 29 年 10 月 5 日～平成 29 年 10 月 20 日

3）配布票数と回収票数

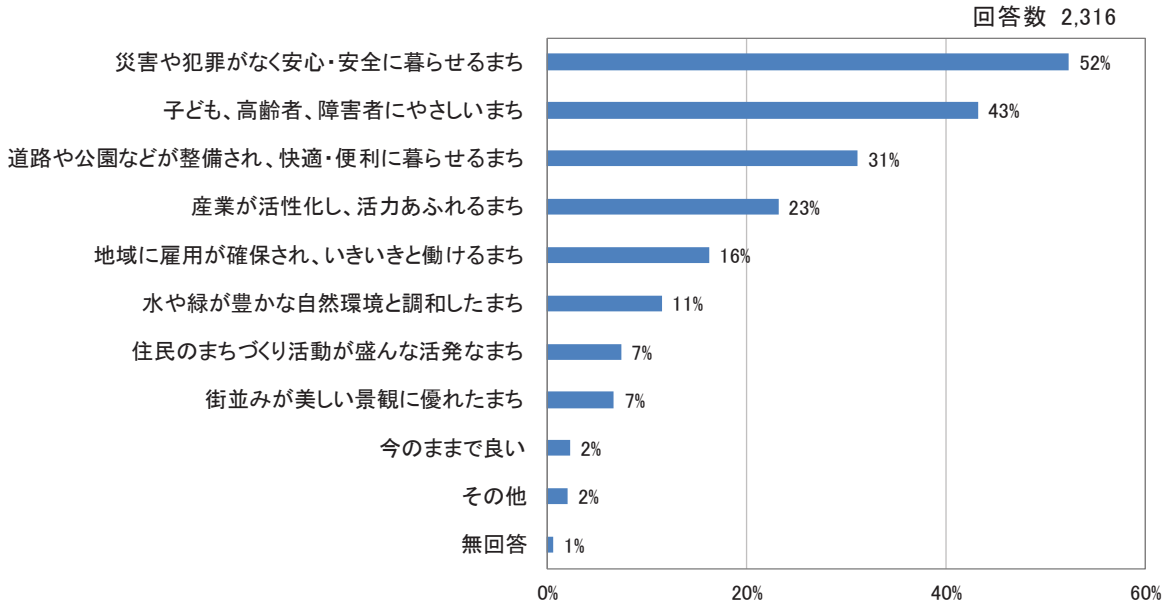
配布票数	回収票数	回収率
3,000	1,179	39.3%

（２）調査結果

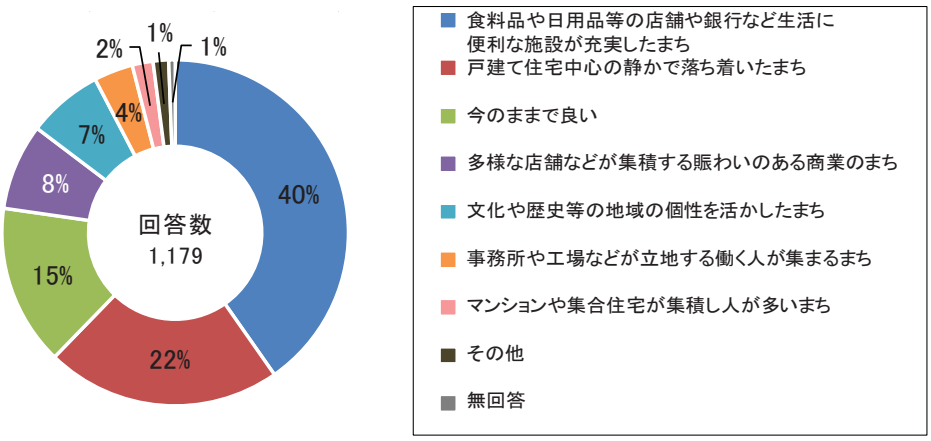
市全体の今後の「まち」の方向性について

市全体の今後のまちの姿については、「災害や犯罪がなく安心・安全に暮らせるまち」と「子ども、高齢者、障害者にやさしいまち」の回答が多いです。前回策定時の市民意向調査結果（平成 19 年実施）とも同様の傾向であり、市外に通勤・通学する人が多いことから、安心して日常生活を送れる「生活の場」であることを重視する回答となっています。

居住している小学校区の今後のまちの姿については、食料品の店舗や銀行などの生活利便施設が充実したまちが 40%、戸建て中心の静かなまちが 22%と高くなっています。前回策定時の市民意向調査結果でも同様の傾向であるなど、依然として、生活サービス施設が集積した良好な居住環境を望む回答となっています。



■市全体において、今後（おおむね 10 年後）なったら良いと思う「まち」の姿について

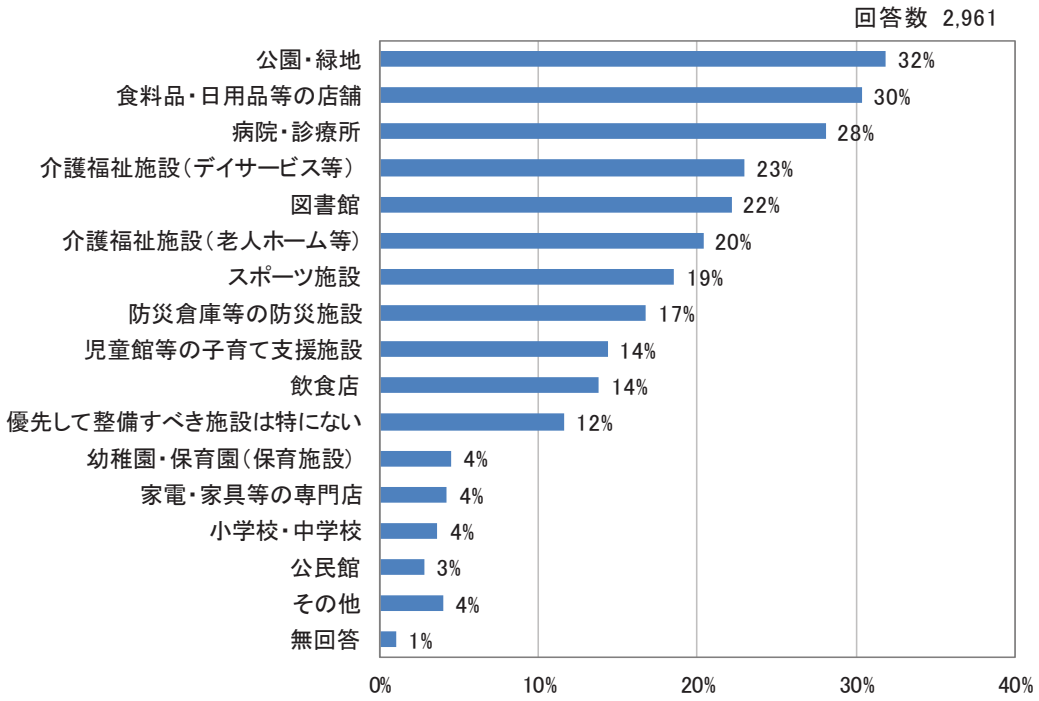


■居住している小学校区において、今後（おおむね 10 年後）なったら良いと思う「まち」の姿について

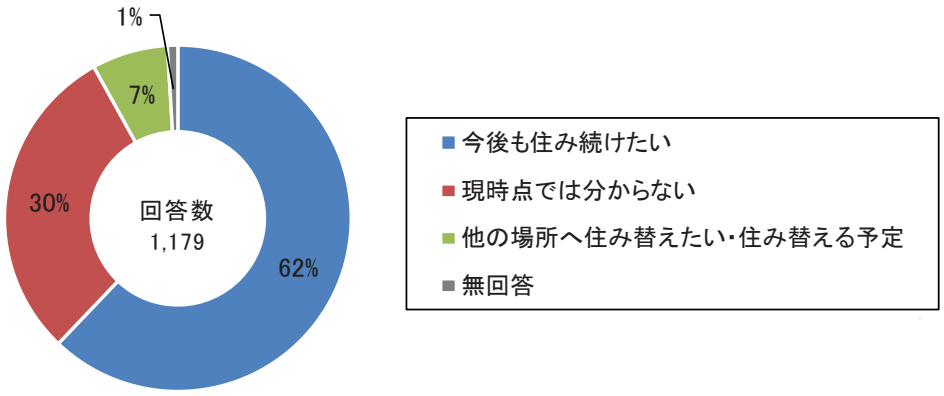
居住地周辺の生活サービス施設及び、定住や住替えに対する考え方について

居住している小学校区に整備すべき施設については、公園・緑地、食料品・日用品などの店舗、病院・診療所の順となっています。公園・緑地が商業施設や病院・診療所を上回ることから、生活に必須のサービス施設とあわせて、生活の質をより高めるための施設立地の意向があると考えられます。

定住意向は 62%と過半数以上になっていますが、高齢で独り暮らしが出来なくなった場合や介護や通院が必要になった場合には、住み替える可能性があるとの回答が多いです。住み続けられる環境づくりのためには、医療・福祉施設へのアクセスを確保する必要があります。



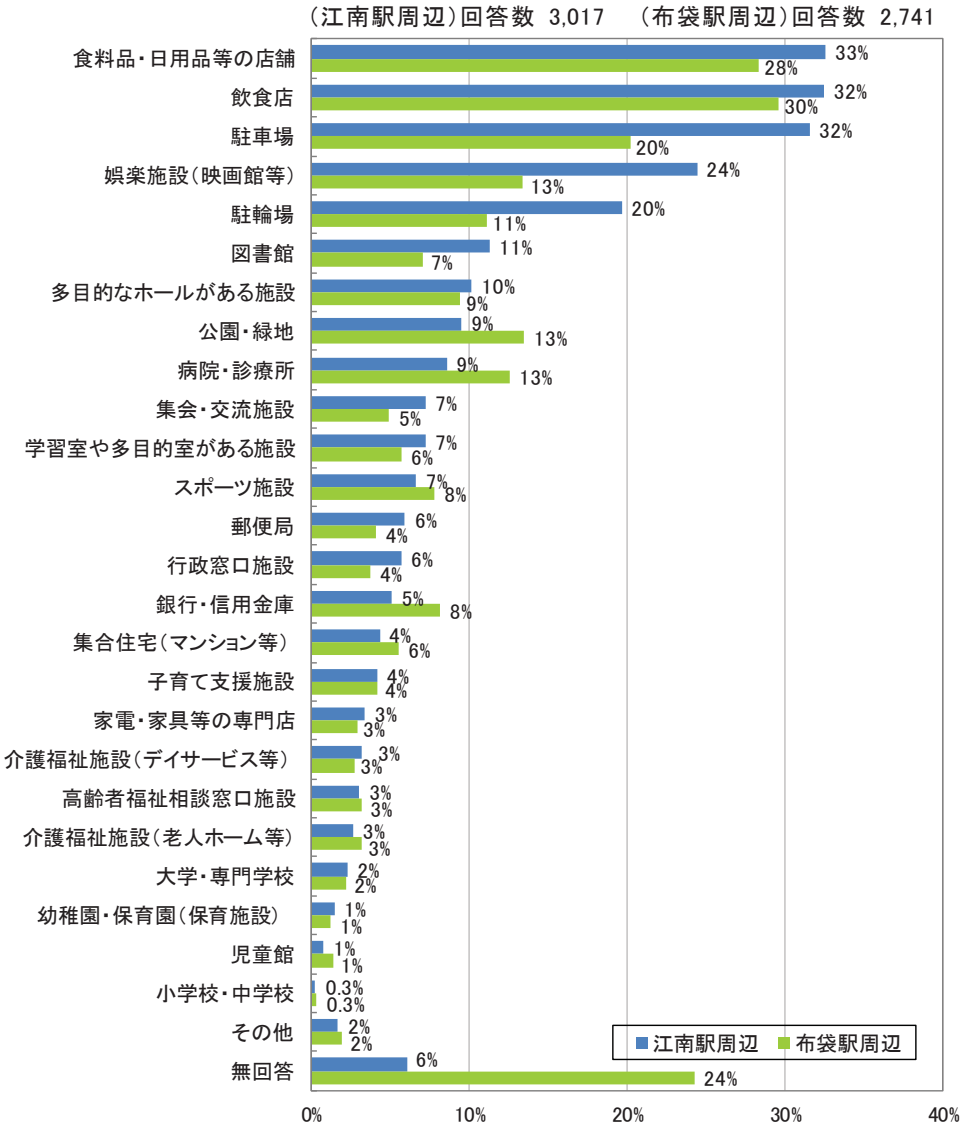
■居住している小学校区において、優先して整備すべきだと思う施設について



■現在居住している場所に対する定住意向について

駅周辺の機能向上について

駅周辺に充実してほしい施設については、江南駅、布袋駅とも食料品・日用品などの店舗、飲食店を希望する回答が多いです。また、駐車場や駐輪場を希望する回答も多く、江南駅、布袋駅が買い物などの生活の中心であるとともに、市外への乗継拠点としても考えられていることがわかります。前回策定時の市民意向調査結果では、駐車場が最も多い回答（江南駅 41%、布袋駅 33%）であり、民間の駐車場も含め、駐車場が一定程度整備されたことで意向の変化に繋がったと考えられます。



■江南駅・布袋駅周辺において、今後、充実させたら良いと思う施設について

徒歩圏域について

許容できる徒歩での移動時間については、自宅から鉄道駅までは 15 分以内が全体の 65%、自宅からバス停までは 10 分以内の回答が全体の 74%と多く、鉄道駅に比べ、バス停の方が許容できる所要時間が短くなっています。

生活環境について

現在の生活環境の満足度と今後の重要度については以下のとおりです。

回答の分類	選択項目
満足度・重要度がともに高い	・幼稚園や保育園が充実し、子育てがしやすい環境になっている ・学校施設や設備が整備され、快適で安全な教育環境の中で、子どもたちが学習している ・医療施設が整備され、安心して医療サービスを受けられている
満足度が高く重要度が低い	・住宅環境や公営住宅が整備され、快適な生活が確保されている ・都市内に適度な農地があり、うるおいのある空間を形成している
満足度が低く重要度が高い	・駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている ・駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている ・身近な生活道路の整備がされ、人や車が安全に通行できている ・自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている ・バス等の公共交通網が充実し、車がなくてもスムーズに移動できている
満足度・重要度がともに低い	・工業地や工業団地が確保され、江南市の産業を牽引している ・市外からの来訪者が楽しめる空間が形成されている

駅前や市街地の整備、商業施設の適切な配置、生活道路の整備、自転車の利用がしやすい環境及び公共交通の充実といった都市基盤施設※や交通環境の整備に関する項目が重要でありながら、満足度が低い内容の項目となっています。

前回策定時の市民意向調査結果では、今後必要な土地利用として、「工場の跡地を有効に活用する」、「市の中心部にもっと商業地を増やす」、「農地を維持・保全する」の回答が多く、駅前や市街地の整備については共通して必要とされています。

移動実態について

移動の目的地については、「通勤・通学」は回答者のうちの 59%が市外へ通勤、通学しています。また、「買物・娯楽」についても市外の割合が多いものの、その割合は 28%です。市内については、アピタ江南西店が立地する宮田小学校区への移動が多いです。「通院」については、市外の割合は 11%であり、江南厚生病院が立地する古知野東小学校区への移動が多いほか、地域内の診療所への内々の移動も多いです。

交通手段については、「通勤・通学」や「買物・娯楽」、「通院」のいずれの項目でも自家用車が最も多いです。「通勤・通学」については自転車、徒歩、鉄道、「買物・娯楽」については徒歩、自転車も 20%～30%程度利用されています。

名古屋市や一宮市といった周辺大都市へのアクセスを確保するとともに、今後は高齢化の進展に伴う自動車を運転できない市民の増加への対応が必要になると考えられます。

「通勤・通学」時の市外上位 10 市町

主な市外の市町（上位10市町）	回答数
名古屋市	102
一宮市	46
大口町	40
小牧市	32
犬山市	21
北名古屋市	13
扶桑町	11
岐阜県各務原市	10
春日井市	9
岩倉市	8

「買物・娯楽」時の市内外の上位 10 施設

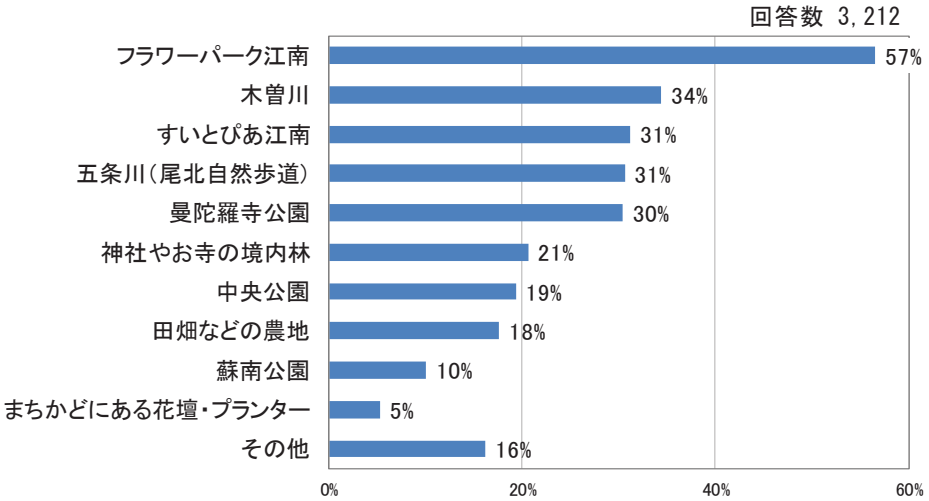
主な施設名（上位10施設）	回答数
アピタ江南西店	260
ピアゴ布袋店	80
イオンモール扶桑	76
ピアゴ江南店	67
平和堂江南店	52
アピタ大口店	41
SEIYU江南店	27
トップワン江南店	25
スーパーマーケットバロー江南店	22
カネスエ大口店	20

「通院」時の市内の上位 10 施設

主な施設名（上位10施設）	回答数
江南厚生病院	298
平成クリニック	31
水谷内科	29
YOUクリニック	26
すばるクリニック	20
三ツ口医院	16
丹羽内科	16
渡部内科医院	16
たかクリニック	15
なかむらファミリークリニック	15
ふくもとクリニック	15

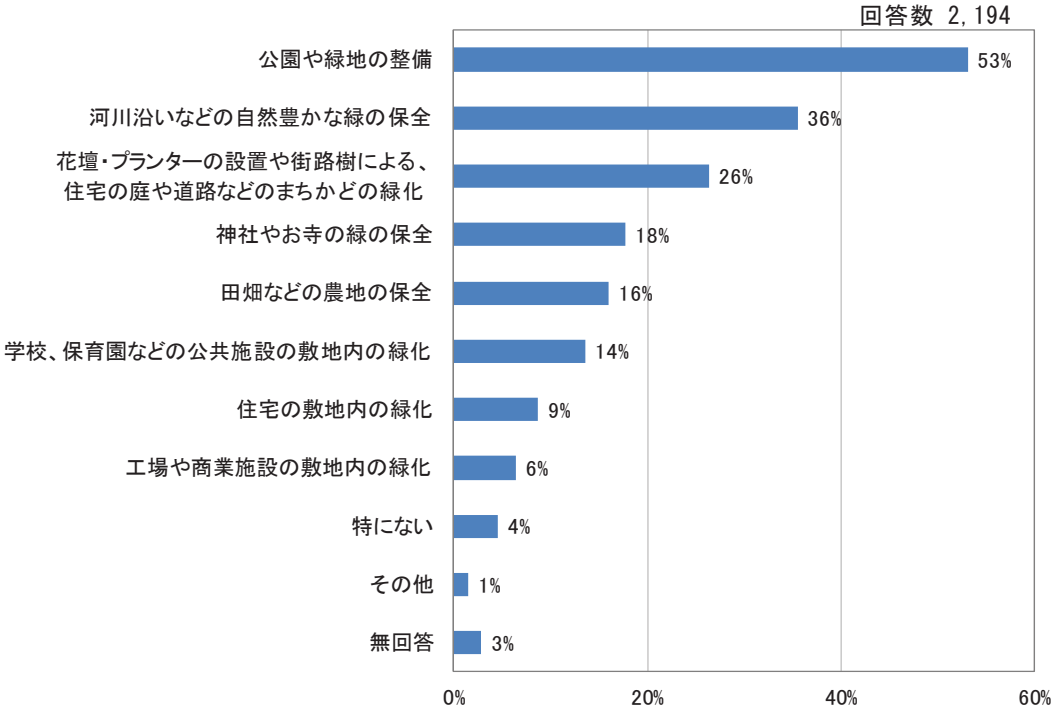
特徴的な緑について

特徴的な緑については、フラワーパーク江南が 57%と高く、次いで木曽川や五条川となっており、河川に関連する場所や施設が特徴的な緑として認識されています。



緑を守り・増やすために行うべきことについて

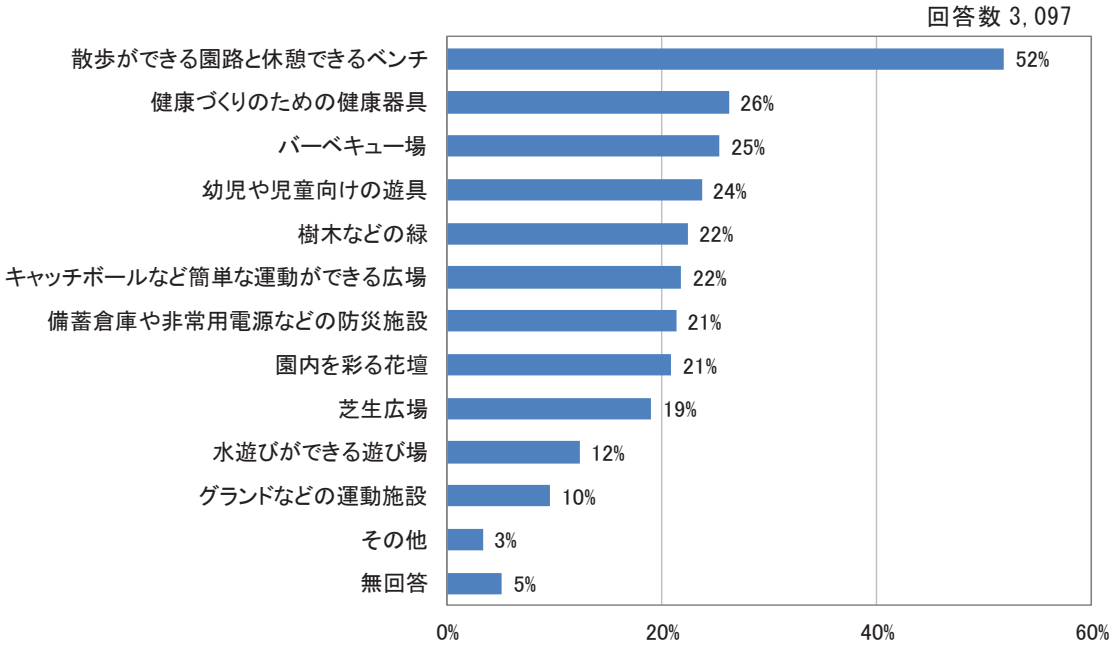
緑を守り増やすために行うべきこととして、「公園や緑地の整備」が過半数を超えています。前回策定時の市民アンケート調査結果（平成 21 年実施）も同様の傾向であり、現在も継続して公園緑地等の整備が求められています。



公園緑地等の整備について

整備を望む施設については、園路やベンチ（52%）が最も高くなっています。次いで同程度の割合で、健康器具、遊具、樹木などの緑、簡単な運動ができる広場、花壇（21～26%）などの整備が求められています。

整備を望む施設についても、ニーズの多様化がみられる結果となっています。



5 都市づくりの課題

今後の都市政策の検討に向け、捉えるべき社会潮流、現況調査における地域特性や今後の見通し及び前計画の検証を整理し、市民意向調査による地域の声を踏まえ、対応すべき都市づくりの課題を整理しました。

【課題検討に向けた、検討実施項目】

- 捉えるべき社会潮流（上位・関連計画の整理など）
- 現況調査からの特性
- 前計画の検証
- 市民意向調査による地域の声

→ **都市づくりの課題**

都市づくりの課題の整理に当たっては、第６次総合計画において位置づけた『生活都市』の要素である「住む」、「働く」、「学ぶ」、「楽しむ」、「憩う」、「交流する」を基本としたうえで、それら要素に共通して必要となる「動く」を加えた５つの視点を設定しました。以下に、５つの視点ごとに整理した都市づくりの課題を示します。

「住む」

捉えるべき社会潮流、現況調査からの特性、前計画の検証

捉えるべき特性

○平成 22 年をピークに人口減少期を迎えており、人口減少に伴う低密度化や空き家・空き地の増加が懸念されます。
○地域によって、人口の増減の傾向が異なっています。
○高齢化のさらなる進展が今後も想定されます。
○市街化調整区域においても一部地域で人口の増加がみられるなど、市街地の拡散も懸念されます。
○人口減少期を迎えている中で、人口密度の低下により、効率的な都市経営に向けた施設の統廃合なども想定されます。
○公園や医療・福祉施設などは、周辺の居住者の世代構成の変化に伴い、生活ニーズと施設立地の整合性についても把握が必要と考えられます。
○近年、常態化しつつある局地的大雨や集中豪雨による浸水被害が懸念されます。

市民意向調査結果

○安心して日常生活を送れる「生活の場」であることを重視する意向が高い。
○居住地の周辺の身近な地域においては、食料品の店舗や銀行など生活利便施設が充実したまちへの意向が高い。
○定住意向は６割と過半数以上になっているが、高齢で独り暮らしが出来なくなった場合や介護や通院が必要になった場合における、住み替えの意向も多くなっている。

都市づくりの課題

「住む」に関する課題

全国的な人口減少社会の到来を迎える中、本市に住み続けたい、新たに住みたいと思われる都市づくりが必要となっています。
そのためには、選ばれる居住地となるための要素を把握し、地域の特性に応じた居住環境の維持・改善が必要となっています。

- **①利便性の高い魅力的な地域への居住の誘導**
- **②安心・安全な居住環境の提供**
- **③既存住宅団地（江南団地など）の利活用**
- **④Ｕターン、Ｉターンの促進（制度の検討）**

「働く」、「学ぶ」

捉えるべき特性

○通勤・通学が流出超過であることは、雇用や就学の場を他都市に置き、本市での居住を選択していることが想定されます。
○農業については、専業農家、兼業農家が減少している中、近年は自給的農家が農家総数の大半の割合を占めています。
○工業については、事業所数、従業者数ともに減少傾向にあり、この傾向が続くと市内における雇用の場の縮小が懸念されます。
○商業については、店舗数や売場面積の傾向から、大型店舗の立地により店舗が集約化され、小規模な店舗が減少していると推測され、身近にある店舗の撤退による日用品などの買い物に対する利便性の低下も懸念されます。
○人口減少期を迎えている中で、人口密度の低下により、効率的な都市経営に向けた施設の統廃合なども想定されます。

○「産業が活性化し、活力あふれるまち」と「地域に雇用が確保され、いきいきと働けるまち」の回答の合計が全体の４割を占めており、市内での雇用の場の確保についても高い意向を示している。
○満足度と重要度の意向では、「工業地や工業団地が確保され、産業を牽引している」との項目について、満足度が低くなっている。
○「学校施設や設備が整備され、快適で安全な教育環境の中で、子どもたちが学習している」との項目について、満足度・重要度ともに高い意向を示している。

「働く」、「学ぶ」に関する課題

通勤・通学が流出超過となっているほか、農業、工業、商業ともに周辺都市と比較し、産業規模が小さい状況です。『生活都市』をめざす本市においては、通勤・通学先を他都市とし、居住地を本市とする選択は望ましいことであります。さらに、本市において就業・就学する市民も含め、環境整備は必要となります。
一方で、職住近接のニーズも存在することから、市内で雇用できる環境の創出に向けた産業振興も必要となります。

- **①企業の誘致に向けた、新たな産業用地の確保**
- **②立地ポテンシャルを活かした企業の誘致**
- **③自給的農家の農地を活かした農業振興の検討**
- **④学習環境の維持・拡充の検討**

捉えるべき社会潮流、現況調査からの特性、前計画の検証	市民意向調査結果	都市づくりの課題

「楽しむ」、「憩う」

捉えるべき特性

○高齢化のさらなる進展が今後も想定されます。

○公園・緑地は、市民１人当たりの都市公園面積の水準が低い状態となっています。また、大規模公園が北部に集中しており、分布に地域格差がみられます。

市民意向調査結果

○緑を守り増やすために行うべきこととして、公園や緑地の整備が過半数を超えている。

○整備を望む施設については、園路やベンチ、健康器具など、散歩や休憩、健康づくりのための施設整備が望まれている。

「楽しむ」、「憩う」に関する課題

高齢者が元気に活動することは、まちの活気に繋がることから、高齢者にも活用しやすい公園の整備・リニューアルが必要となります。

また、市内の各所に点在する豊かな自然資源を活かした憩い空間の創出が必要となります。

①計画的な公園緑地等の整備

②地域ニーズに応じた既存施設の維持・更新などによる有効活用

③駅前広場などの憩い空間の創出

「交流する」

捉えるべき特性

○観光については、増加傾向にある状況を維持するためにも、継続的な動向の把握及び観光ニーズへの対応が求められます。

○フラワーパーク江南の利用者数は年々増加しており、本市の主要な観光施設としてさらなる活用が求められます。

○高齢化のさらなる進展が今後も想定されます。

○布袋駅付近の鉄道高架化事業では、交通流動の変化にあわせた効果的な取り組みが求められます。

市民意向調査結果

○江南駅や布袋駅の駅周辺に充実してほしい施設として、飲食店、食料品・日用品などの店舗を希望する意向が高い。

○生活環境の満足度と今後の重要度について、「駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている」との項目で満足度が低く、重要度が高くなっており、市民の要望の高さが伺える。

○特徴的な緑として、フラワーパーク江南との意向が高い。

「交流する」に関する課題

近年、観光客が増加傾向にあり、江南藤まつりやフラワーパーク江南は多くの割合を占めています。それら来訪者は本市に活力を生み出す要素となっています。中でも、地域に根づく「祭り」は、市民自身が市に愛着を感じる機会を与えることとなり、その継続が都市の活力となります。

また、今後、市民同士が交流し、支え合う環境の創出は、永住意向の醸成のほか、災害時の助け合いにも繋がる要素となります。

①人々が集う観光資源を活かした魅力的な交流環境の形成

②人々が行き交う駅周辺における交流空間の創出

③歴史や伝統、文化の活用の維持・継承（地域への愛着度の醸成）

上記４要素の共通項目として「動く」を追加

「動く」

捉えるべき特性

○通勤・通学が流出超過である特性を有していることから、自動車及び公共交通を利用する広域的な交通環境を確保することが求められます。

○渋滞箇所の常態化により、移動利便性に関する満足度の低下が懸念されます。

○布袋駅周辺の鉄道高架化事業では、交通流動の変化にあわせた効果的な取り組みが求められます。

○人口減少期を迎えている中で、人口密度の低下により、効率的な都市経営に向けた施設の統廃合なども想定されます。

○工業については、事業所数、従業者数ともに減少傾向にあり、この傾向が続くと市内における雇用の場の縮小が懸念されます。

○拠点となる鉄道駅を中心に路線バスなどが運行しているが、一部地域において網羅できていない地域が存在しており、それら地域を補完する意味合いも含め、デマンド交通（いこまいＣＡＲ）が運行しています。

○運行頻度片道 30 本/日以上の運行サービスを有する範囲のカバー率が低くなっており、この状況が続くと、自動車を運転できない市民の外出機会が減少することが懸念されます。

市民意向調査結果

○「通勤・通学」は名古屋市や一宮市などの市外への移動が多い。

○「買物・娯楽」は、アピタ江南西店への移動が多い一方で、市東部の店舗の立地が少ない地域からは、大口町などの市外へ移動している。

○「通院」については、市内移動が多く、その多くが江南厚生病院となっている。

○許容できる徒歩での移動時間については、鉄道駅までは 15 分以内、バス停までは 10 分以内との意向が高い。

○生活環境の満足度と今後の重要度について、「自転車のための交通基盤が整備されている」や「公共交通網が充実し、スムーズに移動できる」との項目のほか、「行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている」や「人や車が安全に通行できている」との項目で満足度が低く、重要度が高くなっており、市民の移動に対する要望の高さが伺える。

「動く」に関する課題

「住む」、「働く」、「学ぶ」など、人々が生活するうえで、便利で安全に移動できる環境を確保することは、『選ばれ続けるまち』を実現するうえでも重要な要素となります。本市は、通勤・通学が流出超過にあるなど、自動車や鉄道等の広域的な交通環境の確保が重要となります。

一方で、通学路をはじめとした安全な歩行環境の確保や、自動車を運転できない市民でも安心して移動できる移動手段の確保は同様に重要な要素となります。

■道路網（交通処理機能の確保）の形成

①隣接市町との広域交通も含めた混雑の緩和

②市街地の歩行者、自転車の安全確保
（主に鉄道駅周辺や通学路周辺の歩道未設置区間）

■公共交通の利便性確保

③バス交通網（路線バス・いこまいＣＡＲなど）の路線・サービス維持

④交通結節点※における乗換え利便性の確保（バリアフリー※化など）

⑤自動車・自転車と公共交通を効率的に使い分ける交通行動への転換

■周辺都市との連携強化

⑥周辺都市との交通網の整備などを踏まえた広域アクセスの向上

第２章 都市づくりの基本理念と目標

1 将来都市像

本市は、木曽川の恵みを受けた肥沃な扇状地であり、木曽川沿いの樹林地や市域を南北に流れる五条川、青木川などの豊かな自然を有するまちとなっています。古くは養蚕業で栄え、その後インテリア織物の産地として発展してきました。また、名古屋市への交通利便性が高いことからベッドタウンとしての性格を有し、高度経済成長期には江南団地の誘致などをきっかけとして大きく人口を増やしてきました。

しかし、平成 22 年をピークに人口が減少に転じ、今後も一層の人口減少・少子高齢化の進展が想定されています。

今後は、人口減少・少子高齢化の動向を的確に捉え、効率的かつ持続可能な都市経営に向けた戦略的なまちづくりの推進が必要となるため、魅力的な市街地、選ばれる住宅地、移動しやすい交通環境及び利便性の高い広域ネットワークを活かした産業の活性化などの実現に向け、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方に基づき、交通利便性の高い鉄道駅などの拠点を中心とした都市機能と自然環境が調和した機能的なまちづくりの推進をめざします。

2 都市づくりの基本理念

上記の将来都市像を踏まえつつ、第６次江南市総合計画における将来像との整合を図り、以下のように定めます。

まちと自然が調和した多様な暮らしを選べる生活都市

～笑顔・活気・うるおいがあふれた、選ばれ続けるまち～

3 都市づくりの目標

第１章で整理した都市づくりの課題をもとに、都市づくりの基本理念の実現をめざすための具体的な都市づくりの目標を以下に示します。

都市づくりの課題

「住む」に関する課題

①利便性の高い魅力的な地域への居住の誘導
②安心・安全な居住環境の提供
③既存住宅団地（江南団地など）の利活用
④Ｕターン、Ｉターンの促進（制度の検討）

「働く」、「学ぶ」に関する課題

①企業の誘致に向けた、新たな産業用地の確保
②立地ポテンシャルを活かした企業の誘致
③自給的農家の農地を活かした農業振興の検討
④学習環境の維持・拡充の検討

「楽しむ」、「憩う」に関する課題

①計画的な公園緑地等の整備
②地域ニーズに応じた既存施設の維持・更新などによる有効活用
③駅前広場などの憩い空間の創出

「交流する」に関する課題

①人々が集う観光資源を活かした魅力的な交流環境の形成
②人々が行き交う駅周辺における交流空間の創出
③歴史や伝統、文化の活用の維持・継承（地域への愛着度の醸成）

「動く」に関する課題

■道路網（交通処理機能の確保）の形成

①隣接市町との広域交通も含めた混雑の緩和
②市街地の歩行者、自転車の安全確保
（主に鉄道駅周辺や通学路周辺の歩道未設置区間）

■公共交通の利便性確保

③バス交通網（路線バス・いこまいＣＡＲなど）の路線・サービス維持
④交通結節点における乗換え利便性の確保（バリアフリー化など）
⑤自動車・自転車と公共交通を効率的に使い分ける交通行動への転換

■周辺都市との連携強化

⑥周辺都市との交通網の整備などを踏まえた広域アクセスの向上

基本理念

まちと自然が調和した多様な暮らしを選べる生活都市

～笑顔・活気・うるおいがあふれた、選ばれ続けるまち～

都市づくりの目標

目標１

「住む」に関する目標

住み続けたい、住みたくなる魅力のあるまちづくり

◆利便性の高いコンパクトな住宅地の形成
◆魅力ある拠点の形成
◆安心して暮らせる安全な居住環境の提供

目標２

「働く」、「学ぶ」に関する目標

働く場所、学ぶ場所が選べるまちづくり

◆職住近接を実現する産業振興
◆安心して学べる環境づくり

目標３

「楽しむ」、「憩う」に関する目標

豊かな自然環境が身近に感じられるまちづくり

◆水と緑に触れ合えるまちづくり
◆安らぎが感じられる憩い空間の形成

目標４

「交流する」に関する目標

多様なコミュニケーションが生まれるまちづくり

◆地域特性を活かした愛着を醸成できるまちづくり
◆交流が生まれる拠点の形成
◆主体となって協働できるまちづくり

目標５

「動く」に関する目標

ライフスタイルに応じた移動しやすいまちづくり

◆生活・産業を支える交通基盤の整備
◆安心・快適な交通環境の提供
◆公共交通サービスの維持

前述した都市づくりの目標について、具体的な方針を示します。

目標１	「住む」に関する目標
	住み続けたい、住みたくなる魅力のあるまちづくり

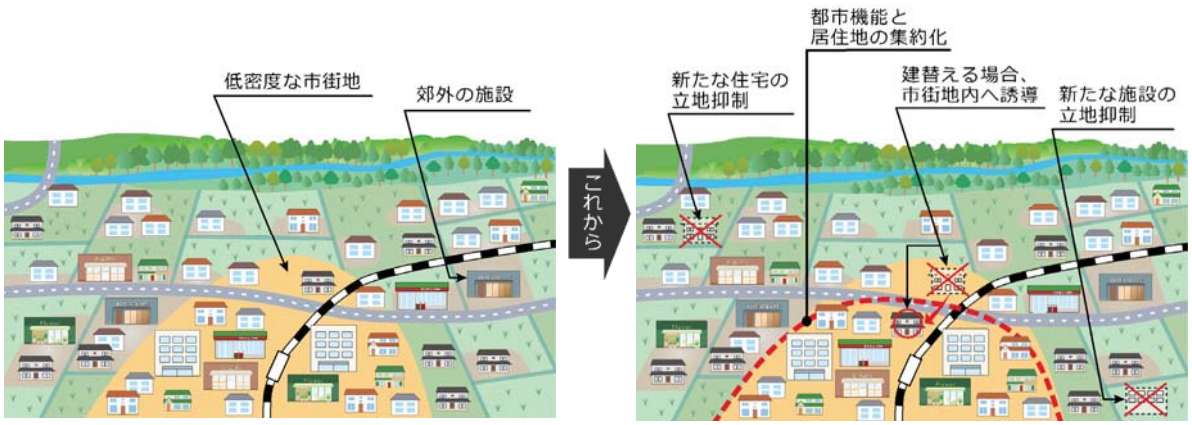
◆利便性の高いコンパクトな住宅地の形成

本市では、少子高齢化・人口減少の進展に加えて、市街化調整区域へ拡散していく住宅開発などが進んでいる中、人口密度の低下、空き家・空き地の増加などが懸念されるとともに、その影響により生活サービス施設の撤退などによる既存市街地の魅力の低下が懸念されています。

そのため、利便性の高い地域における低未利用地の活用促進や住宅団地の利活用などにより、人が住む場所を一定の地域に誘導することで人口密度を維持し、都市のスポンジ化※を抑制し、利便性が確保された住宅地の形成・維持を図ります。

住み続けたい、住みたくなる魅力のあるまちづくりのイメージ

利便性の高いコンパクトな住宅地のイメージ



◆**魅力ある拠点の形成**

通勤・通学流動で流出入が多い特性を有する本市が、居住地として選びたくなる都市となるためには、交通拠点である市民や来訪者が日常的に利用する鉄道駅周辺が、魅力的な拠点となることが必要となります。

江南駅周辺は、行政施設や金融施設などが集積する日常生活の拠点となっていることから、市内各地からのアクセスの良さを活かした魅力ある拠点形成のため、日常生活に必要な都市機能の誘導や駅までの交通手段の維持・充実など魅力ある中心市街地の再構築を図ります。

布袋駅周辺については、施行中の鉄道高架化事業や土地区画整理事業の進捗とあわせ、既存資源などの活用や新たな魅力づくりによって南部の拠点としての魅力と活気の創出を図ります。

また、本市は広域的な移動利便性が高く住宅地としても高いポテンシャルを有することから、持続可能なまちづくりを推進するため、子育て世代をはじめとした新たな市民の居住促進を図ります。

一方で、交通の中心的な拠点となる鉄道駅周辺だけでなく、日常生活において中心的な機能を有する地域について利便性を確保することが必要となります。

そのため、それら地域周辺については日常生活に密着した施設やスポーツ施設などの娯楽施設等の維持確保を図るほか、江南団地などの住宅団地周辺については、周辺住民の日常生活を支えるために必要となる都市施設の整備・改善を図り、居住環境の充実に努めます。

◆**安心して暮らせる安全な居住環境の提供**

本市は、地震による津波の心配が少なく、地震災害に対して比較的強い地域性を有している一方で、日中の人口流動が多い特性を有していることから、発災時に発生が懸念される帰宅困難者への対応が必要となってきます。そのほか、近年、常態化しつつある局地的大雨や集中豪雨による浸水被害の軽減に向けた対応も必要となります。

そのため、河川改修などの被害軽減に向けた基盤整備を促進するほか、発災時に適切な避難行動が可能となる体制の構築をめざします。

目標２	「働く」、「学ぶ」に関する目標
	働く場所、学ぶ場所が選べるまちづくり

◆**職住近接を実現する産業振興**

本市の活力となる雇用の場の創出のため、交通アクセスに優れた特性を活かし、新たな企業の誘致、市内事業者への支援、事業用地周辺の基盤整備などにより、働き方を選択できる産業振興を図ります。

また、本市の農業は、自給的農家が大半を占め、後継者不足など不安定な営農状況にあることから、市民菜園や地場産品の特産化など、農地の活用や営農環境の改善をめざします。

産業軸である(都)愛岐大橋線周辺に位置する和田工業団地

◆**安心して学べる環境づくり**

人口の転出超過による社会減の抑制だけでなく、人口の自然増を促進するためにも安心して子育てできる環境の提供が重要となります。

そのため、子育て支援施設や教育施設の充実及び通学環境の安全性を確保するほか、子どもだけでなく多様な世代が学習できる環境の創出をめざします。

目標３	「楽しむ」、「憩う」に関する目標
	豊かな自然環境が身近に感じられるまちづくり

◆**水と緑に触れ合えるまちづくり**

公園緑地等、社寺林、農地といった緑や、木曽川に代表される水面は、生活にうるおいを与えてくれる身近な自然環境となっています。

そのため、利用者ニーズに応じた親水空間の創出、身近な公園緑地等の整備やリニューアル、社寺林・農地の保全など、水と緑に触れ合えるまちづくりをめざします。

木曽川沿いに整備された江南緑地公園（草井）

◆**安らぎが感じられる憩い空間の形成**

多くの市民が身近に緑と触れ合える環境の提供に向け、多くの人々が集う鉄道駅周辺などの市街地において、緑が感じられる憩い空間の創出を図ります。

江南駅前広場の緑が感じられる憩い空間

目標４	「交流する」に関する目標
	多様なコミュニケーションが生まれるまちづくり

◆地域特性を活かした愛着を醸成できるまちづくり

本市には、フラワーパーク江南などの観光資源や織田信長などにゆかりのある社寺・史跡などの歴史文化資源が点在しているほか、江南藤まつりなどの地域に根づく「祭り」は、市民が地域に愛着を感じる機会を与えることに繋がります。

これらの資源を維持・活用し、市民や来訪者が本市の魅力を体感し、愛着を醸成できるまちづくりをめざします。

多くの市民や来訪者でにぎわう江南藤まつり（曼陀羅寺公園）

◆交流が生まれる拠点の形成

市民や来訪者が日常的に利用する鉄道駅周辺は、多くの人々が行き交う空間であることから、既存の交通機能に人々が集いたくなる魅力的な交流空間を生み出し、拠点に新たな活気の創出をめざします。

新たな交流空間となる布袋駅西側駅前広場のイメージ

◆主体となって協働できるまちづくり

地域コミュニティの維持・活性化や交流空間の創出などにより、地域ごとに異なる特性をもつ課題に対して、市民や事業者、行政が連携して主体的に取り組めるまちづくりをめざします。

目標５	「動く」に関する目標
	ライフスタイルに応じた移動しやすいまちづくり

◆生活・産業を支える交通基盤の整備

本市は、通勤・通学や買い物、物流など周辺都市との結びつきが強いことから、市内及び市内外を結ぶ移動手段の確保が重要となっています。

多様な移動を円滑にするために重要となる、本市と周辺都市を結ぶ幹線道路の整備など、交通基盤の充実を図ります。

鉄道高架下を通過する(都)布袋駅線のイメージ

◆安心・快適な交通環境の提供

人々が生活するうえで、便利で安全に移動できる環境を確保することは、『選ばれ続けるまち』を実現するうえでも重要な要素となります。

通学路や鉄道駅及び主要施設周辺における安全な歩行環境を確保するほか、気軽に市内を回遊できる安全で快適な自転車走行環境の創出をめざします。

また、本市は通勤・通学の流動が多い特徴を有することから、多くの人が行き交う鉄道駅周辺については、利便性の高い乗換え環境などの確保に向けた交通基盤の充実を図ります。

◆公共交通サービスの維持

今後想定される高齢化の進展に伴い、自動車を運転できない市民の増加が懸念されます。また、中心部のにぎわい創出に向けても、気軽に行き来できる利便性の高い交通環境の提供が重要となります。

そのため、居住地と行きたい施設を効率的に移動できる、ニーズに応じた公共交通サービスの維持確保をめざします。

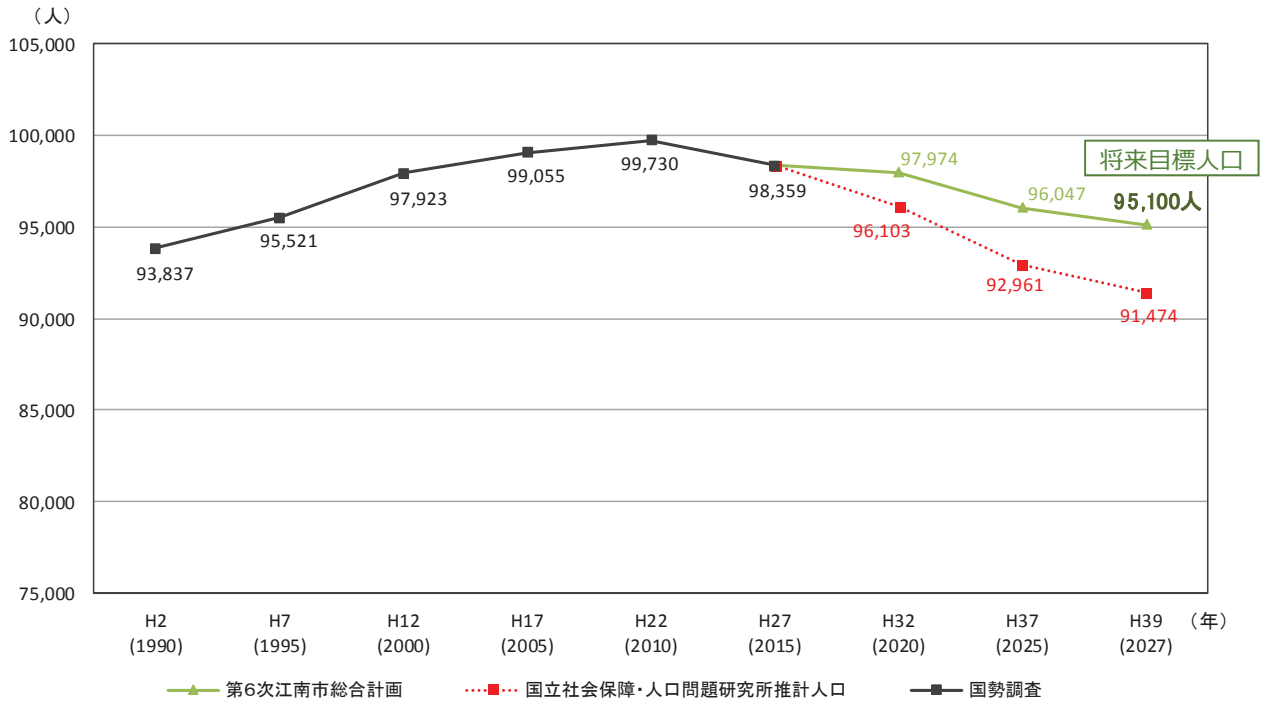
鉄道・路線バスなどの公共交通が整備された江南駅

また、市民が多様な移動手段を選択できる公共交通サービスの維持・確保に向け、公共交通の利用促進に向けた市民への意識啓発を図ります。

4 将来目標人口

本市の平成 39 年度（2027 年度）における将来目標人口は、平成 27 年現在の人口が 98,359 人となっている中、将来的に人口減少が続くことが見込まれることから、第６次江南市総合計画における将来目標人口を踏まえ、本計画の目標人口を以下のように設定します。

将来目標人口　95,100 人（平成 39 年度：2027 年度）



(注)平成 28 年以降は推計値

資料：実績値（国勢調査）
推計値（第６次江南市総合計画、国立社会保障・人口問題研究所）

■江南市の人口の推移と将来目標人口

5 将来都市構造

将来都市像の実現には、市民や来訪者にとって利便性と魅力を提供できる都市機能の集積・維持を図る鉄道駅を中心とした中心拠点や、日常生活において中心的な施設を有する地域などを位置づけた地域拠点を明確化するとともに、中心拠点及び地域拠点及び周辺都市とを有機的に結ぶ都市軸を明確化し、必要となる土地利用や都市施設などを配置していくことが重要となります。

このため、本市の拠点及び都市軸などを以下のように設定します。

（1）拠点（エリア）の形成

本市の拠点は、都市機能の集積した中心拠点及び地域や日常生活の拠点となる地域拠点のほか、余暇や観光機能の充実を図るレクリエーションエリアで構成します。

さらに、中心拠点と地域拠点間や、中心拠点同士を交通ネットワークで結ぶことにより、住みやすく、利便性の高いコンパクトなまちづくりをめざします。

1）中心拠点

中心拠点は、これまでも本市の中心地として機能してきた江南駅周辺のほか、市の南玄関である布袋駅周辺を位置づけます。

江南駅周辺は、居住・商業・業務施設や交通施設などの充実を図ります。また、布袋駅周辺は、鉄道高架化事業にあわせた都市施設の整備・改善を図るとともに、地域資源※を活かした居住環境の充実を図ります。

2）地域拠点

地域拠点は、江南厚生病院や江南市スポーツプラザをはじめとした生活に密着した施設が集積した地域と、一団の住宅基盤が整った江南団地、団地周辺の生活利便施設及び観光名所である曼陀羅寺公園などが集積した地域を位置づけ、周辺住民の日常生活を支えるために必要となる都市施設の整備・改善を図るとともに、居住環境の充実を図ります。

3）レクリエーションエリア

レクリエーションエリアは、フラワーパーク江南、蘇南公園、江南市スポーツプラザ、曼陀羅寺公園、中央公園、久昌寺公園の周辺を位置づけ、施設の充実や整備を図ります。

（2）都市軸の形成

1）生活軸

通勤・通学などを支える生活軸は、名古屋方面・岐阜方面とつながる路線として(都)名古屋江南線及び(都)江南岩倉線を、一宮方面、犬山・小牧方面とつながる路線として(県)浅井犬山線及び (都)一宮犬山線を位置づけます。

また、拠点と木曽川沿いの地域をつなぐ路線として、(都)宮田線、(都)名古屋江南線、(都)江南岩倉線を位置づけます。

2）産業軸

本市南部を東西方向に横断している(都)北尾張中央道を、本市と一宮市、国道 41 号及び東名・名神高速道路の小牧インターチェンジとを結ぶ路線として、東西の産業軸と位置づけます。

また、本市東部を南北方向に縦断している(都)愛岐大橋線、(都)愛岐南北線及び(都)豊田岩倉線は、岐阜方面（各務原市、関市、美濃市など）と、名古屋方面や東名・名神高速道路の小牧インターチェンジを結ぶ路線として、南北の産業軸と位置づけます。

3）環状軸

本市の都市計画道路は、中心拠点を中心に放射状に広がっていることから、その都市計画道路を有機的に結び、市街地の交通環境の向上を図ることなどを目的として、(市)後飛保和田線等を環状軸と位置づけます。

4）公共交通軸（バス軸・鉄道軸）

自動車以外の交通手段でも主要施設や広域的な交通拠点となる鉄道駅まで安心して移動できる交通環境の確保に向け、中心拠点・地域拠点と周辺都市を結ぶバス路線をバス軸として位置づけます。また、名古屋方面などの広域的な移動手段の確保に向け、名鉄犬山線を鉄道軸として位置づけます。

■拠点配置と都市軸の形成イメージ

（３）土地利用の配置

◆住宅ゾーン

中心拠点・地域拠点周辺に配置し、利便性の高い住宅系の土地利用を図ります。

◆商業ゾーン

鉄道駅周辺に配置し、交通結節点の機能を活かした商業系の土地利用を図ります。

◆工業ゾーン

産業軸沿道や市街地の外周部に配置し、産業振興に向けた効率的な土地利用を図るとともに、市街地における住宅地と工業地の混在を抑制する土地利用を図ります。

◆田園集落ゾーン

市街地の周辺に位置し、農地と既存集落が共生した土地利用の保全に努めます。

◆水と緑のゾーン

木曽川沿いに位置し、水と緑に包まれた自然環境の形成に努めます。

◆暮らしと安全のゾーン

暮らしと安全のために必要な公共公益施設用地として活用します。

（４）市街地規模の考え方

１）住宅地

住宅地は、現在の市街化区域内にある低・未利用地の有効活用を促進するとともに、計画的に市街地整備を進めている布袋駅周辺については、効果的な土地利用に向け、新たな住居系用途地域を位置づけます。

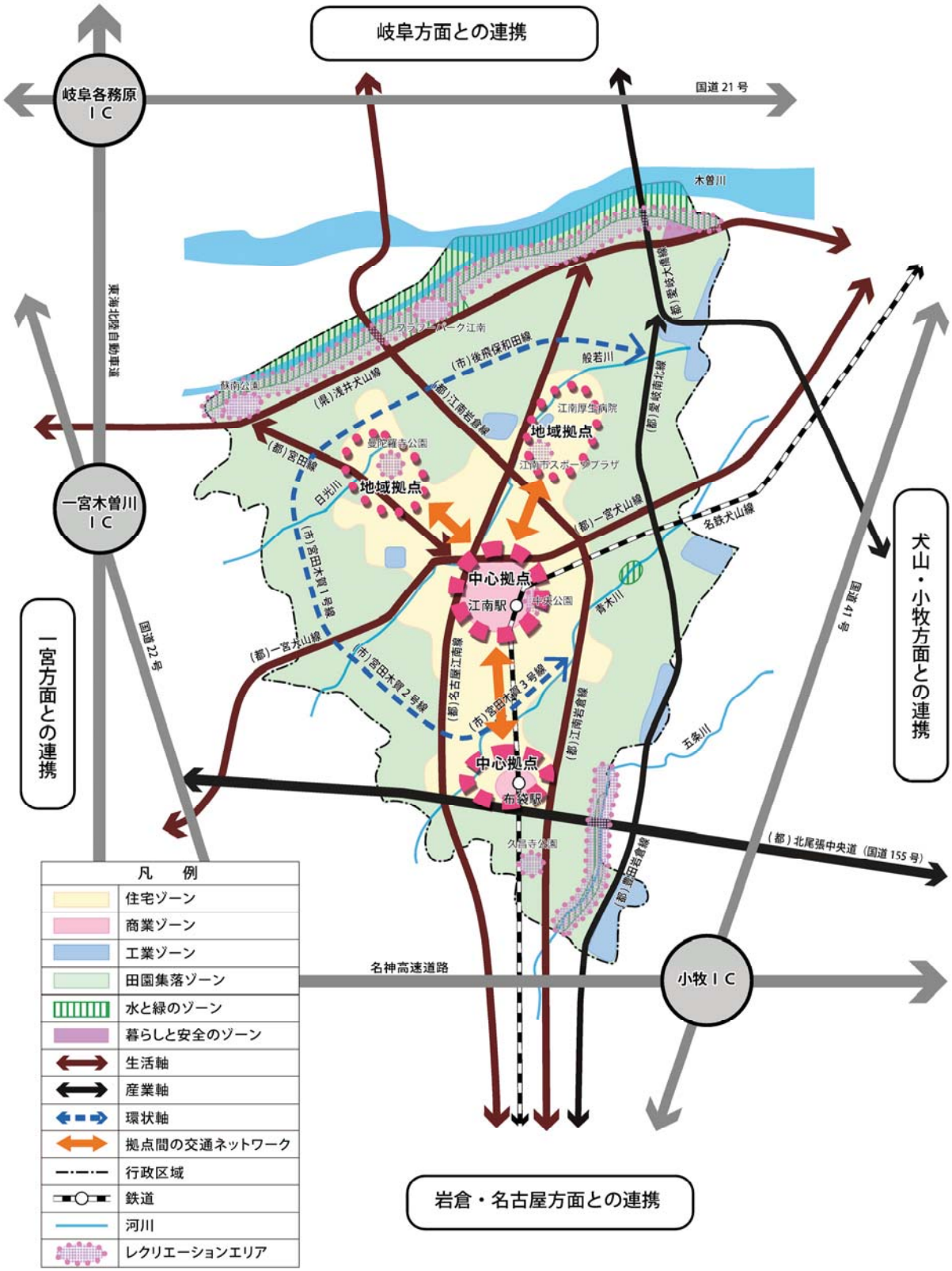
２）商業地

商業地は、現在の商業用地の規模を維持することを基本とし、計画的に市街地整備を進めている布袋駅周辺については、効果的な土地利用に向け、新たな商業系用途地域を位置づけます。

３）工業地

工業地は、産業軸の沿道を中心に工業地を配置します。また、周辺環境と調和して、新たな工業地を位置づけます。

以上を踏まえ、本市の将来の都市構造を次頁の図のとおり設定します。


岐阜方面との連携
岐阜各務原IC
国道21号
木曽川
東海環状自動車道
(都)愛岐大橋線
(市)後飛保和田線
般若川
(県)浅井犬山線
(都)江南岩倉線
江南厚生病院
地域拠点
(都)愛知南北線
(都)宮田線
日光川
地域拠点
江南市スポーツプラザ
一宮木曽川IC
(都)一宮犬山線
名鉄犬山線
(市)宮田木賀1号線
中心拠点
江南駅
中央公園
青木川
国道41号
犬山・小牧方面との連携
一宮方面との連携
国道22号
(都)一宮犬山線
(市)宮田木賀2号線
(都)名古屋江南線
(市)宮田木賀3号線
(都)江南岩倉線
五条川
中心拠点
布袋駅
久昌寺公園
(都)北尾張中央道（国道155号）
(都)勝田岩倉線
名神高速道路
小牧IC
岩倉・名古屋方面との連携
凡　例
住宅ゾーン
商業ゾーン
工業ゾーン
田園集落ゾーン
水と緑のゾーン
暮らしと安全のゾーン
生活軸
産業軸
環状軸
拠点間の交通ネットワーク
行政区域
鉄道
河川
レクリエーションエリア

■将来都市構造図

第３章 都市づくりの方針

１ 土地利用の方針

（１）土地利用に関する基本的な考え方

１） 拠点を中心とした効率的な土地利用の誘導

本市の都市構造は、これまでの人口増加による宅地開発や産業振興に向けた企業立地を背景に、郊外へと拡大して都市構造を形成してきました。しかし、人口減少、少子高齢社会の到来や、中心市街地の魅力向上に対するニーズへの対応などの課題を抱える中で、今後も持続可能なまちづくりを推進するには、集約型のコンパクトな都市構造への転換が必要となっています。

このため、将来都市構造で示した各拠点における都市機能の充実と、公共交通を中心に拠点間の移動利便性を確保する集約型都市構造の実現をめざし、本市の拠点を中心として、居住、商業、医療、福祉などの都市機能を集積させるとともに、その周辺に居住機能を配置する土地利用の誘導を図る方針とします。

２） 農地などの未利用地の活用

今後、少子高齢化・人口減少が進展する中において、市街地の低密度化を抑制していくためには、人口密度が高く生活サービス施設が多く立地する市街化区域内への居住の誘導が必要となります。一方で、本市は他都市よりも市街化調整区域における人口の分布が比較的多い状況となっていることから、市街化調整区域での無秩序な開発などを抑制し、コンパクトな市街地の形成を進めるためにも、市街化区域内における魅力的な居住環境の創出が求められます。

そのため、市街化区域内における農地などの未利用地について、災害時の避難場所や生活の中で身近に緑に触れ合える場としての機能の維持に配慮しつつ、駅周辺の利便性の高い地域では住宅地への転換など、有効な土地利用の促進を図る方針とします。

３） 空き地などの低未利用地の活用

人口減少期を迎えた本市においては、都市の内部において、空き地などの低未利用の空間が、小さな敷地単位で、時間的・空間的にランダムに発生する都市のスポンジ化が懸念されています。

このため、市街化区域内における低未利用地については、駐車場などの現状の活用状況を踏まえつつ、生活サービス施設が維持された利便性の高い市街地の形成に向け、拠点周辺の魅力を高めるための活用や住宅地への転換など、有効な土地利用の誘導を図る方針とします。

4） 既存資源の保全と活用

一団の農地などについては、現状の土地利用の保全に努め、既存コミュニティの維持や定住人口の確保が必要な既存集落などの区域では、地域の実情にあった適正な土地利用を図ります。幹線道路沿いの一部の農地などについては、本市の活力を向上するために、周辺環境と調和して、産業振興に向けた土地利用を図ります。

狭あい道路などを有する一部の既存集落では、防災機能の向上を図る観点から、土地利用上の対策が必要となる場合も考えられるため、農地などの自然環境の保全を図ることを前提としたうえで、道路の拡幅等により安全性を確保します。

既存の住宅団地については、関係機関などと連携を図り、適切な維持及び利活用に努めます。

（２）土地利用の区分及び方針

1） 土地利用の区分

土地利用の用途に見合った方針を定めるに当たって、以下のように土地利用区分を設定します。

■土地利用の区分

区分	土地利用のイメージ
①低層住宅地	２階程度の低層の戸建て住宅が中心となる土地利用
②中高層住宅地	戸建て住宅や共同住宅（マンション・団地）が立地する土地利用
③一般住宅地	住宅と小規模な店舗・事務所（約 1,500 ㎡程度）などが立地する土地利用
④商業地	商業・業務施設が立地する土地利用
⑤近隣商業地	周辺住民が必要とする日用品を販売する店舗などが立地する土地利用
⑥工業地	工場などが立地する土地利用
⑦沿道複合地	飲食店や事務所など、沿道サービス施設が充実した土地利用
⑧田園集落地	農地と既存集落が共存している土地利用
⑨レクリエーションエリア	多くの人が集い、憩いや安らぎを享受できる施設が立地する土地利用
⑩暮らしと安全のエリア	暮らしと安全のために必要な公共公益施設が立地する土地利用

2） 土地利用の方針

土地利用は、前述の区分に応じて、本市のめざす将来都市構造図をもとに配置するとともに、都市づくりの目標の実現に向け、以下の土地利用を形成する方針とします。

① 低層住宅地

低層住宅地は、中心拠点である江南駅に近接しており、生活軸として位置づけた(都)名古屋江南線と(都)江南岩倉線に挟まれた区域に配置し、低層の戸建て住宅を中心とした緑豊かで落ち着きのある良好な居住環境を有した住宅地の形成を図ります。

低層住宅地のイメージ

② 中高層住宅地

中高層住宅地は、中心拠点である江南駅に近接しており、生活軸として位置づけた(都)名古屋江南線や(都)江南岩倉線の沿道及び地域拠点の周辺を中心に配置し、戸建て住宅のほか、共同住宅（マンション・団地）などの中高層の住宅の立地を誘導する土地利用の形成を図ります。

中高層住宅地のイメージ

③ 一般住宅地

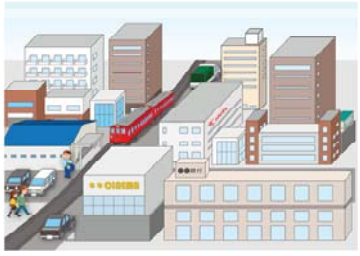
一般住宅地は、主に中心拠点及び地域拠点の周辺部に配置し、公共公益施設、小規模な店舗、事務所などの多様な立地を許容する住宅地として、暮らしやすく利便性が高い居住環境の維持・形成を図ります。

布袋駅の東側については、駅に近接する高い利便性を活かした新たな住宅地の形成を図ります。

一般住宅地のイメージ

④ 商業地

商業地は、中心拠点となる江南駅周辺に配置し、市内各地からのアクセスの良さを活かした魅力ある拠点形成のため、ニーズに応じた多様な都市機能の維持や集積を図ります。



商業地のイメージ

⑤ 近隣商業地

近隣商業地は、中心拠点となる江南駅周辺の商業地の周囲及び布袋駅周辺に配置します。

江南駅西側は、幹線道路の沿道に位置する特性とあわせ、周辺住民の生活利便性の向上に資する商業施設の維持・充実を図ります。

近隣商業地のイメージ

布袋駅周辺については、市の南部地域の新たな拠点施設となる布袋駅東複合公共施設を中心として、都市機能を集積し、新たな近隣商業地の形成を図ります。

⑥ 工業地

工業地のイメージ

工業地は、産業軸沿道や市街地の外周部に配置し、本市の活力を向上する産業振興に向けた効率的な土地利用を図るとともに、市街地における住宅地と工業地の混在を抑制する土地利用を図ります。

産業軸である(都)北尾張中央道、(都)愛岐大橋線、(都)愛岐南北線及び(都)豊田岩倉線沿道の周辺の区域については、無秩序な開発を防ぎ、周辺環境と調和した工業地の形成を図ります。

⑦ 沿道複合地

沿道複合地のイメージ

沿道複合地は、中心拠点と地域拠点を結ぶ (都)名古屋江南線や(都)江南通南線の沿道のほか、東西方向に形成されている(都)江南池之内線や(都)北尾張中央道の沿道などに配置し、商業施設や生活サービス施設と住宅地が調和した土地利用の形成を図ります。

⑧ 田園集落地

田園集落地のイメージ

田園集落地は、既存集落と共生して、一団の農地の保全に努め、緑化機能の確保を図ります。

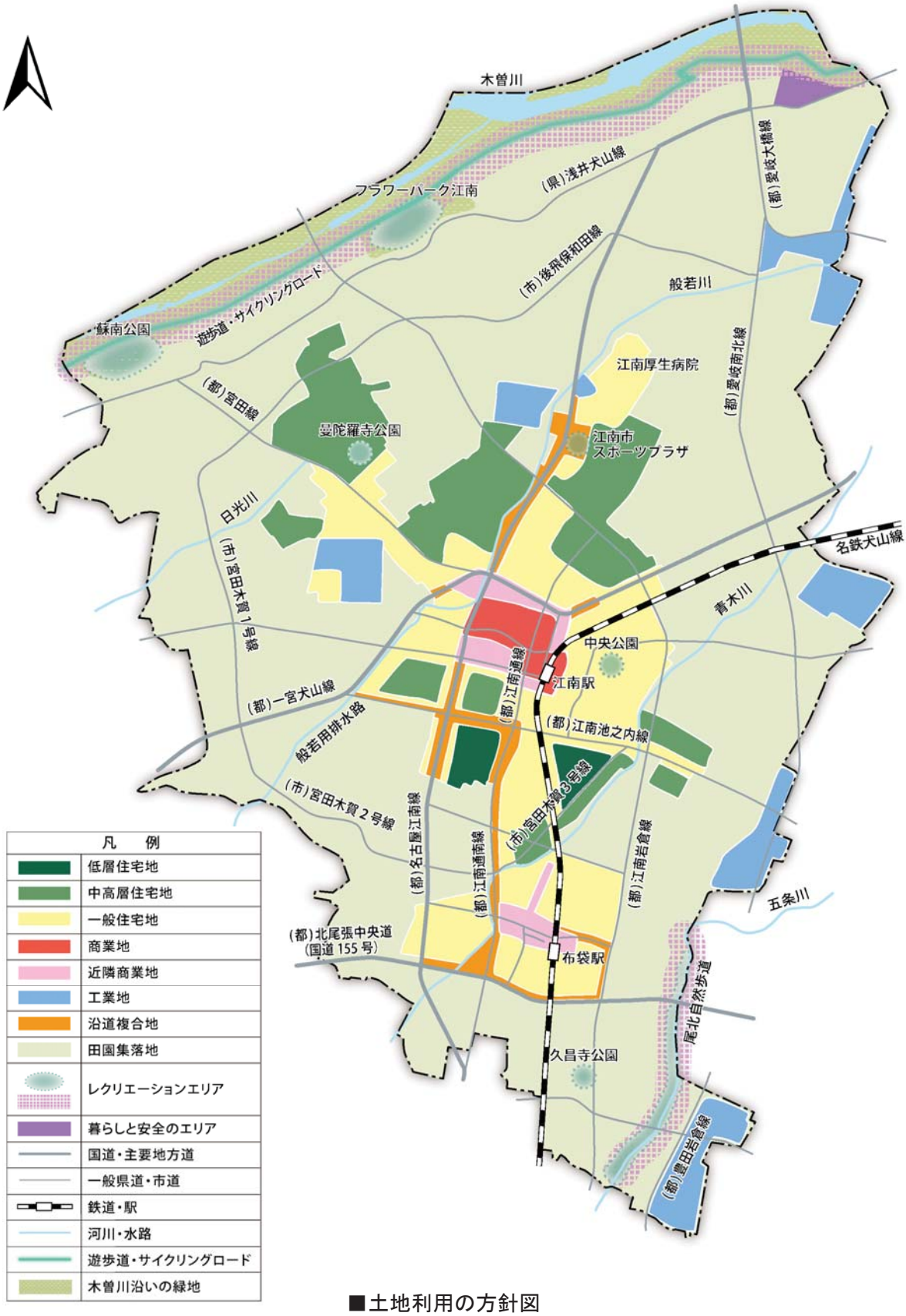
⑨ レクリエーションエリア

北部の木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロードや南部の五条川沿いに位置する尾北自然歩道は、周辺都市につながる広域的な健康・レクリエーションの場として、環境の保全に努めるとともに、機能の維持及び活用を図ります。

江南藤まつりが開催される曼陀羅寺公園、遊歩道・サイクリングロード沿いに位置するフラワーパーク江南については、広域的な健康・レクリエーションの場として、機能の維持及び活用を図ります。

⑩ 暮らしと安全のエリア

暮らしと安全のために必要な公共公益施設用地として、広域処理する新ごみ処理施設や災害時の防災拠点など、適切な土地利用の形成を図ります。


木曽川
フラワーパーク江南
(県)浅井犬山線
(都)愛岐大橋線
(市)後飛保和田線
般若川
遊歩道・サイクリングロード
蘇南公園
江南厚生病院
(都)愛岐南北線
(都)宮田線
曼陀羅寺公園
江南市
スポーツプラザ
日光川
名鉄犬山線
(市)宮田木賀1号線
青木川
中央公園
(都)江南通線
江南駅
(都)一宮犬山線
(都)江南池之内線
般若用排水路
(市)宮田木賀3号線
(市)宮田木賀2号線
(都)名古屋江南線
(都)江南通南線
(都)江南岩倉線
五条川
(都)北尾張中央道
(国道155号)
布袋駅
尾北自然歩道
久昌寺公園
(都)豊田岩倉線
凡　例
低層住宅地
中高層住宅地
一般住宅地
商業地
近隣商業地
工業地
沿道複合地
田園集落地
レクリエーションエリア
暮らしと安全のエリア
国道・主要地方道
一般県道・市道
鉄道・駅
河川・水路
遊歩道・サイクリングロード
木曽川沿いの緑地

■土地利用の方針図

2 施設整備の方針

2－1 交通施設の方針

（1）交通施設に関する基本的な考え方

1） 道路交通の円滑化

広域の自動車交通にも対応した円滑な移動環境を確保するため、道路交通ネットワークの骨格となる都市計画道路などの整備を推進するとともに、鉄道駅周辺の移動円滑化や周辺地域の回遊性の向上に向け、関係機関と連携を図り、鉄道高架化事業を推進します。

2） 公共交通の利便性の確保

本市の中心拠点間及び中心拠点と地域拠点間を結ぶネットワークとして、鉄道や路線バスを中心とする公共交通を維持確保します。

鉄道は、本市にはリニア中央新幹線の開業が予定される名古屋駅と直結する名鉄犬山線が通っており、広域的な移動手段として重要な役割を担っています。通勤・通学が流出超過となっている本市の特性を踏まえ、市内外への移動利便性の確保に向けて交通結節点となる江南駅や布袋駅では、路線バスとの交通ネットワークを確保します。

バスなどについては、路線バス、いこまいＣＡＲ等の交通機関の連携により、誰もが安心して移動できる交通環境の維持確保をめざします。

また、利用者の利便性の向上を図るため、駅前広場などの駅周辺の施設については、ユニバーサルデザイン※・バリアフリー化など、誰もが利用しやすい交通環境の形成をめざします。

3） 防災機能などの向上

防災機能や環境形成機能など、道路が有する多面的な機能を活用し、火災時における延焼防止や健全な住宅地の形成に向けて、都市計画道路や身近な生活道路の整備を図ります。

また、災害時の緊急輸送道路※の機能確保のため、未整備区間の整備などにより緊急輸送道路ネットワークの形成を推進します。

4） 安心・安全な歩行者の通行と自転車利用の促進

歩行者と自転車がお互いに安心して通行できるよう、歩道の設置やバリアフリー化などを推進します。

また、自転車利用のルールやマナー向上に向けた取り組みを実施するとともに、地域のニーズに応じた自転車等駐車場の配置や木曽川沿いのサイクリングロードを活用したイベントなどによる啓発活動など、まちづくりに自転車を活用する施策の検討を進め、自転車の利用促進を図ります。

（２）整備方針

１）道路

以下のとおり道路を区分し、広域的な道路網と整合を図るとともに、土地利用などと連携して、適切に組みあわせて配置し、本市の道路網及び骨格を形成します。

■道路の区分

区分	道路区分のイメージ
①主要幹線道路	主として地方生活圏及び主要な都市圏域の骨格を形成するとともに地方生活圏を相互に連絡する、多量の自動車交通に対応した道路
②幹線道路	都市の骨格を形成し、都市の出入り及び都市内の交通を受けもつ道路
③補助幹線道路	幹線道路と生活道路を連絡し、交通を分散させる機能をもつ道路
④特殊道路	自転車や歩行者などの専用の交通に対応した道路

各道路の整備方針を以下のとおり示します。

① 主要幹線道路

尾張都市計画区域の一宮市、小牧市、春日井市などの主要都市を相互に結ぶ広域道路網の役割を担うよう、(都)北尾張中央道の４車線化整備を図ります。

（都）北尾張中央道

② 幹線道路

本市と隣接市町や市内の各地域を結ぶ幹線道路は、市内の円滑な交通処理や市街地の良好な環境を形成するため、接続する隣接市町とも連携を図り、(都)江南通線、(都)江南大口線、(都)江南岩倉線、(都)豊田岩倉線などの整備を図ります。

（都）江南岩倉線

③ 補助幹線道路

幹線道路と生活道路を連絡する補助幹線道路は、地域の円滑な交通処理や良好な環境を形成するため、(都)布袋駅線、(都)本町通線などの整備を図ります。

（都）布袋駅線

④ 特殊道路

自転車・歩行者専用道路となる(都)布袋駅西通線の整備を図ります。

⑤ その他の道路

(市)[注1]後飛保和田線、(市)宮田木賀１号線、(市)宮田木賀２号線、(市)宮田木賀３号線は放射状に広がる幹線道路を結び、市街地を取巻く軸となる環状道路として、適切な維持管理を実施します。

鉄道駅周辺では、駅前広場及び駅へのアクセス道路など、交通結節点としての機能強化を図るための整備を推進します。

地域や集落における通学路を含む身近な生活道路については、安全性の向上を図るため、歩道の設置、狭あいな道路の拡幅及び照明灯や反射鏡などの交通安全施設の設置を推進します。

道路の安全性・信頼性を確保するため、「江南市道路施設長寿命化計画」に基づいた計画的な道路施設の維持管理を実施します。

⑥ 都市計画道路の見直し

都市計画決定から長期未着手となっている都市計画道路のうち、既存道路で機能の代替が可能となる路線などについては、必要に応じて見直しを検討します。

注１：主要市道の略。

(注)市街化区域については、平成30年度末現在の概ねの市街化区域を表示

■道路整備の方針図

2） 公共交通

① 鉄道

名鉄犬山線

鉄道は、リニア中央新幹線の開業が予定されている名古屋駅や周辺都市との広域的な交通ネットワークとして、利便性の確保に向け、鉄道事業者への働きかけを行います。

また、踏切渋滞、踏切事故の問題を解消するため、愛知県など関係機関と連携を図り、布袋駅付近の鉄道高架化事業を推進します。

江南駅周辺については、駅利用者の円滑かつ安全な移動利便性の確保に向け、駅へのアクセス道路の交通環境改善など都市基盤の整備・検討を進めます。

布袋駅周辺では鉄道高架化事業の進捗にあわせ、駅前広場や駅へのアクセス道路の整備を推進するとともに、布袋駅ではバリアフリー法に対応したエレベーターのほか、利便性向上を図るためエスカレーターの整備を推進します。

② バス・いこまいＣＡＲ

名鉄バス

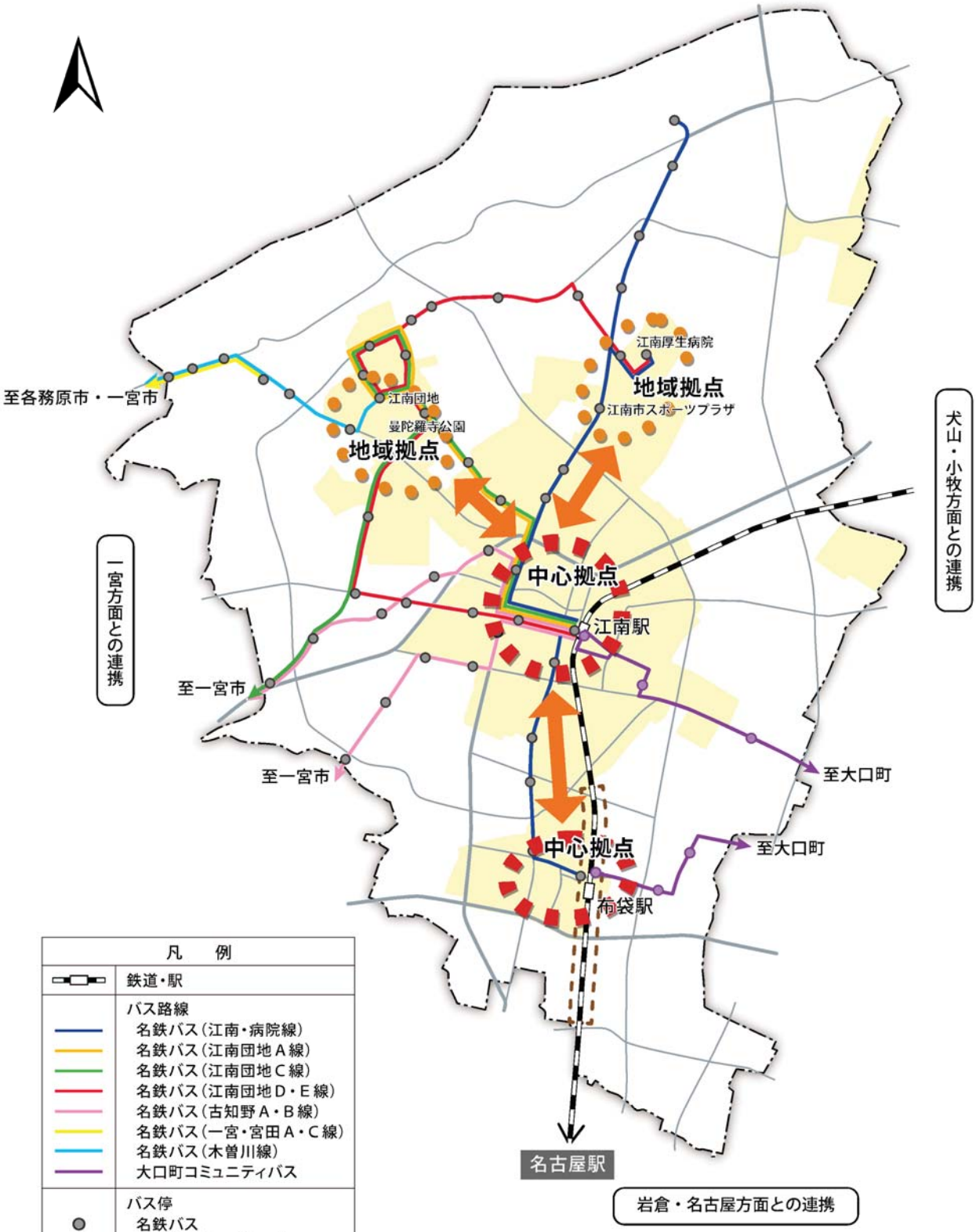
路線バスは、鉄道と連携し、中心拠点間や中心拠点と地域拠点を結ぶ路線を中心として、運行サービスの維持確保を図ります。また、その他の路線バスについては、現状の運行サービスの維持に努めるほか、利用の状況に応じて、適切な見直しを検討します。

路線バスでカバーできない地域については、いこまいＣＡＲにより市内全域を移動できる環境を維持確保します。

いこまいＣＡＲ（運行しているタクシーを利用した交通サービス）

3） 駐車場・自転車等駐車場

公共交通機関や自転車の利用促進と利便性の向上に向けて、駅周辺の民間による駐車場や自転車等駐車場を維持確保するほか、バス停周辺での公共施設や商業施設などと連携した自転車等駐車場整備の検討を進めます。



(注)市街化区域については、平成 30 年度末現在の概ねの市街化区域を表示

■公共交通の方針図

２－２ 公園緑地等の方針

（１）公園緑地等に関する基本的な考え方

これからの本市は、人口減少・少子高齢化が進展する中でも、市内に残る豊かな自然や歴史・文化とともに育まれてきた緑を次世代へと継承していく必要があります。そして、公園緑地等も含めた今ある資源を活かして緑の充実を図り、ゆとりとうるおいにあふれる生活都市の実現をめざしていくことが求められています。

このため、「骨格となる緑」、「拠点となる緑」、「軸となる緑」を本市の緑の将来像に位置づけます。

なお、本市の市民１人当たりの都市公園面積（平成 29 年３月現在）は、3.9 ㎡/人と、愛知県の平均の 8.0 ㎡/人を大きく下回る中、市民が感じる緑の量も地域によって差があります。

公園緑地等の保全を継続しながら、地域バランスのとれた適切な配置・整備を検討します。

（２）整備方針

１） 骨格となる緑

本市の北部に広がる木曽川及び河川沿いの樹林地や草地は本市を代表する景観の１つであり、優れた自然環境を有するとともに多様な生物の生息地として保全を図ります。

市街化調整区域に広がる一団の農地は、営農、洪水などによる浸水被害の抑制、田園景観の形成などの様々な機能を有しているほか、本市の緑地面積の大部分を占める緑であり、地域と協力して保全に努めます。

２） 拠点となる緑

フラワーパーク江南は、広域的なレクリエーションの場として機能する当該施設の魅力を高め、より一層の利用が図られるよう、公園整備を促進します。

木曽川沿いに位置する蘇南公園や市街地にある中央公園などの大規模な都市公園では、緑の拠点としての魅力を高めるため、機能の充実を図ります。

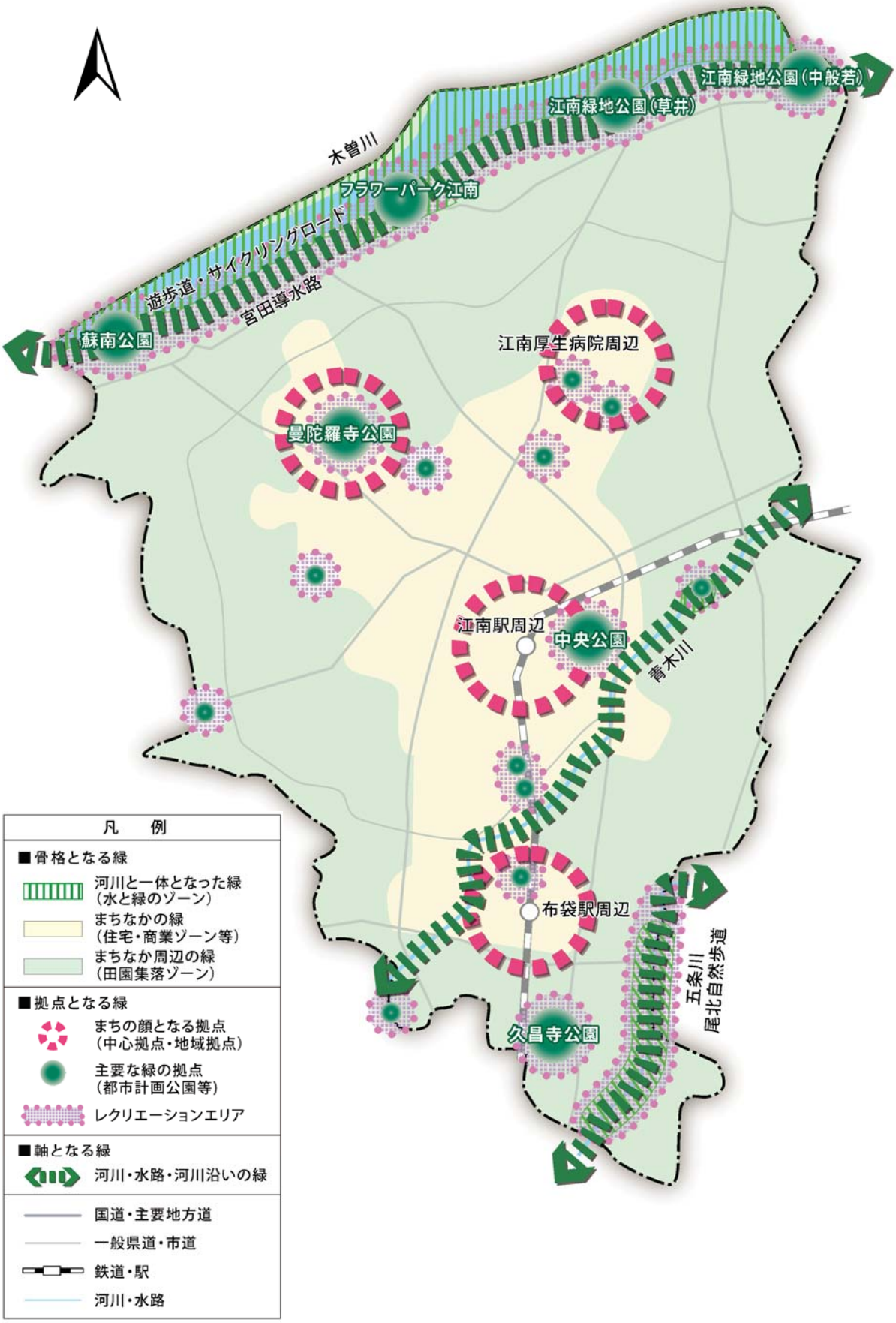
曼陀羅寺公園の江南藤まつりなどは、本市の花と緑にふれあえる広域的なレクリエーションの場として機能していることから、緑の拠点としての魅力を高めるため、市民や来訪者のニーズを把握してさらなる利用の促進を図ります。

３） 軸となる緑

木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロードは、木曽川の自然を楽しむことができるレクリエーションのネットワークを形成しており、適切な維持管理と利用の促進を図ります。

五条川沿いに位置する尾北自然歩道は、犬山市から岩倉市へとつながる美しい桜並木を有しており、歩道と桜並木の保全に努めるとともに、利用の促進を図ります。

宮田導水路の遊歩道は、地域のふれあい・コミュニケーションの場として新たな緑のネットワークが形成されるように、整備を推進します。



■公園緑地等の方針図（緑の将来像）

２－３ 市街地整備の方針

（１）市街地整備に関する基本的な考え方

本市の市街化区域は約 735ha で、市全体（3,020ha）の約 24%となりますが、人口は約 46,200 人で、全体の約 47%となっています。

今後、人口減少・高齢化が進展する中で、持続可能なまちづくりを進めていくためには、集約型都市構造への転換が必要です。

このため、都市機能の集積・維持を図る鉄道駅を中心とした中心拠点の形成や、日常生活において中心的な施設を有する地域拠点を形成し、それらの周辺に居住の誘導を図るとともに、中心拠点及び地域拠点を有機的に結ぶネットワーク軸の形成をめざし、魅力的な宅地供給や利便性の高い産業用地の確保に向けた効果的かつ戦略的な都市基盤整備の推進を図ります。

また、新たなまちづくりや限られた財源を有効に活用するため、民間の資本やノウハウを活かした官民連携※（ＰＰＰ※）の取り組みも進めます。

（２）整備方針

１） 拠点周辺の整備

江南駅周辺は、市内各地からのアクセスの良さを活かすとともに、地域の意向を踏まえた魅力ある中心市街地の形成を図るため、駅までの交通手段の維持・確保、都市計画道路の整備の推進、江南駅前の市街地開発の検討を進めます。

布袋駅周辺は、鉄道高架化事業や土地区画整理事業の進捗とあわせ、都市計画道路や公園などの必要な基盤整備を推進し、本市の南玄関にふさわしい市街地の形成を図ります。駅東側については、駅周辺の立地ポテンシャルを活かした魅力的な宅地供給のほか、新たなにぎわい・交流の創出に向けて民間活力を導入した複合公共施設の整備を推進します。

２） 既存資源の有効活用

増加傾向にある空き家については、地域資源としての空き家の流通・利活用を図るため、「江南市空家等対策計画」に基づき、空き家の改修方法や魅力等の情報発信などを行うとともに、空き家バンク制度※の活用を図ります。

また、幹線道路の沿線など利便性の高い地域については、今後の本市の活力を向上するために、周辺環境と調和して、産業用地の確保を図ります。

２－４ 河川・下水道の方針

（１）河川に関する基本的な考え方

近年、各地で多発している異常気象などにより、局地的な集中豪雨による浸水被害が市内で発生しています。また、宅地化の進展により、保水機能をもつ農地が減少しており、浸水被害の発生が懸念されています。

このため、河川・排水路の改修や雨水貯留施設整備などの総合的な治水対策を行うことで、市民が安心して暮らすことができる水害に強い都市づくりを推進します。

（２）河川の整備方針

１） 河川・水路

国が管理する木曽川や、県が管理している青木川、五条川、日光川については、河道拡幅や護岸、調節池などの整備を促進します。

また、市管理の準用河川※般若川の整備を推進し、適切に維持管理します。

２） 治水対策

学校や公共施設などへの雨水流出抑制施設の整備や、市民が担う雨水貯留浸透施設の設置を支援し、市内の浸水被害軽減に向けた対策を推進します。

特定都市河川浸水被害対策法及び江南市雨水流出抑制基準に基づき、対象となる開発などについて、雨水貯留浸透施設の設置を指導することにより雨水の流出を抑制し、安全な市街地形成を図ります。

（３）下水道に関する基本的な考え方

本市では、下水道整備の事業着手が平成５年度と遅かったため、平成 29 年度末の下水道普及率は約 35%（愛知県内の普及率 78%）であり、近隣市町と比べても低い水準となっています。

市街地を流れる河川の汚れも目立っており、下水道整備を計画的に進めるとともに、整備された区域においては早期に接続することが望まれます。

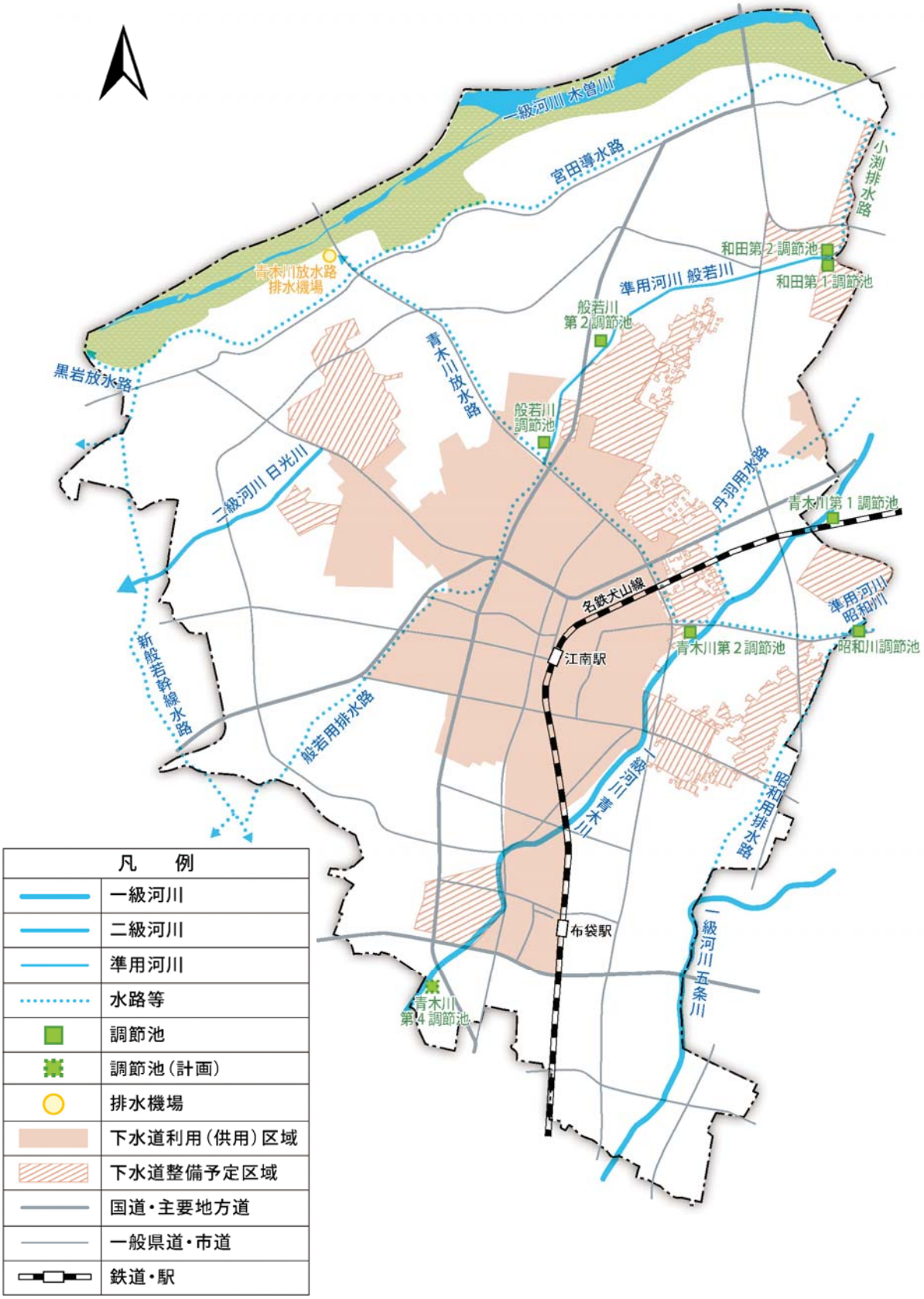
このため、今後とも、昔のような水のきれいな河川環境の再生に向けて、市街化区域において、下水道整備の推進及び接続の促進をしていくとともに、新たに市街地へ編入する箇所や鉄道高架化事業などにより基盤整備が必要となる箇所については下水道整備を検討します。

（４）下水道の整備方針

１） 公共下水道の普及促進

健康で快適な暮らしと良好な河川環境の実現に向け、下水道事業の整備予定区域について、「江南市公共下水道事業基本計画」に基づいた計画的な施設整備を推進します。

また、下水道への接続に対する市民の理解を深め、普及促進を図るため啓発活動を行います。



(注)下水道利用（供用）区域、下水道整備予定区域については、平成30年３月現在

■河川・水路・下水道整備の方針図

２－５ 公共公益施設の方針

（１）公共公益施設に関する基本的な考え方

異なる機能をもつ施設の集約による利便性の向上、世代や性別などを越えた交流拠点の創出によるコミュニティの醸成、災害時だけでなく普段から高齢者、障害者、妊婦、子ども連れなど誰もが安心・安全に利用できる施設づくりを進めます。

また、本市が保有する公共施設などについては、施設の統廃合、用途の変更、複合化、運営手法の見直し等により更新費用とランニングコストの縮減を図りながら、これらを新たなまちづくりの契機ととらえ、ニーズの変化への対応や利便性の向上などにつなげることで、「選ばれ続ける」ためのまちづくりを進めます。

ハード面の整備とあわせ、都市計画や人にやさしいまちづくりに興味をもってもらえるよう、「江南市まちづくり出前講座」の活用など、ソフト面における充実を図ります。

（２）整備方針

主な公共公益施設の整備方針を以下のとおり整理します。

布袋駅東地区には、民間活力を導入した新たなにぎわいや交流を創出するために図書館や保健センターなどを備えた複合公共施設の整備を図ります。新しく整備する図書館については、市の特性にあわせて充実を図るため、規模や内容の検討などを踏まえ、より多くの市民に愛され利用されるように整備を図ります。

安心・安全なごみ処理の実現に向け、事業主体である尾張北部環境組合との連携により、広域的な処理をする新ごみ処理施設の整備を推進します。

妊娠期から切れ目のない支援を提供するため、子育て支援センターなどの機能の拡充を推進します。保育園は、施設の規模・機能の適正化を図り、効率的な維持運営に取り組みます。

安心・安全で質の高い学校給食を提供するため、必要な機能を備えた学校給食センターを適正な規模で更新する取り組みを進めます。

3 自然環境の保全及び都市環境形成の方針

（1）自然環境保全に関する基本的な考え方

木曽川及びその河川沿いの樹林地や草地は、優れた自然を有するとともに動植物の保全に資する機能を有しています。また、市街化調整区域に広がる農地は、農産物の生産を担うとともに都市環境に空間的なゆとりを与える機能を有しており、これらまとまりのある自然環境の保全に努めます。

また、木曽川堤の桜並木や宮後八幡社をはじめ、市内各所に分布する社寺・古墳などは、歴史的風土を有する緑として保全に努めます。

（2）自然環境保全の方針

1） 緑の保全と創出

宮後八幡社をはじめとする市内各所でみられる社寺林は、地域の貴重な自然資源及び景観資源であることから、社寺などと一体的な保全に努めます。

2） 水辺の自然環境の保全と活用

木曽川及び河川沿いの樹林地や草地は、優れた自然環境を有するとともに多様な生物の生息地として機能していることから、総合的な保全を図ります。

緑豊かで心が安らぐ水辺を創出する青木川や五条川の河川沿いの緑は、水と緑のネットワークとして適切な維持管理を行うとともに、公園内の親水施設とあわせ、機能の維持を図ります。

3） 一団の農地の保全

市街化調整区域に広がる一団の農地は、営農の役割だけではなく、洪水などによる浸水被害の抑制や田園景観の形成等の様々な機能を有していることから、地域と協力して保全に努めます。

（３）都市環境形成に関する基本的な考え方

近年、地球温暖化などの環境悪化による影響が数多くみられ、江南市が誇る自然環境もその影響がみられはじめています。

このような中、将来の子どもたちに恵まれた環境を継承するためには、良好な都市環境を維持推進していく必要があります。都市環境の形成に当たっては、省エネや省資源などの持続可能な生活や、良好な都市及び自然環境の創出が必要となります。

そのためには、私たちの生活が環境へ影響を与えているということを市民一人ひとりが認識することが重要となります。特に、温室効果ガス※による地球温暖化に対しては、市が単独にできることは限られていることから、市民、事業者、行政が協働し、省エネ、省資源、自然環境保全などの取り組みを行います。

（４）都市環境形成の方針

１）持続可能な社会の形成

市民・ＮＰＯ※・事業者などと協働で、省エネ、省資源、自然環境保全、環境監視等の取り組みを進め、市民の意識の高揚を図る啓発や活動支援を行い、持続可能な社会の形成を推進します。

２）都市施設などにおける緑の創出と活用

公園緑地等に加え、道路及び公共施設などの緑化を推進するとともに、市民や事業者が取り組む緑化活動への支援を推進し、民有地緑化の促進を図ることで、緑豊かでゆとりとうるおいのある都市環境の形成に努めます。

３）良好な水環境の保全と活用

下水道の整備に努め、住環境の改善や市街地における浸水被害の防除、河川浄化などを図ります。

下水道が整備された区域において、下水道接続率の向上を推進するとともに、未整備の区域においては、合併処理浄化槽※の普及促進も含め、快適な生活環境の維持・改善を図ります。

４）市民参画による水と緑の環境活用

環境に関するイベントなどの開催を通じて、都市及び自然環境に関する市民意識の向上に努めます。

身近な環境改善運動として、市民参画による道路、公園、河川などの維持管理を行い、良好な都市及び自然環境の創出についての意識啓発を推進します。

4 都市景観形成の方針

（1）都市景観形成に関する基本的な考え方

都市づくりにおいては、日常生活において必要となる都市の機能性や利便性、安全性に加え、地域固有の歴史性、文化的魅力、自然的魅力などが重視されるようになっています。

中でも、本市の景観は、木曽川や五条川などに代表される自然の資源をはじめ、藤で有名な曼陀羅寺や織田信長の室であった「生駒の方」のゆかりの生駒屋敷跡のほか、布袋の町中に残る蔵や町家などの文化・歴史の資源を活かして、個性ある魅力的な景観を形成していく必要があります。

市街地の景観については、良好な景観形成のため屋外広告物の規制に努めるとともに、人の交流が多い鉄道駅周辺では、緑を感じられる憩い空間の創出を図ります。

（2）都市景観形成の方針

1） 自然景観の形成

木曽川は、本市を代表する自然景観であり、木曽川の水の流れと緑あふれる河川敷がつくりだす景観の保全・活用を図ります。

五条川の桜並木については、本市の郷土景観であるため、関係機関と協議しながら定期的な剪定や消毒などの維持管理に努めます。

2） 文化・歴史的景観の形成

市内各地に点在する史跡などの歴史的な資源をつなぐ「ふるさと江南歴史散策道」を中心に、文化・歴史的景観の維持に努めます。

市内の史跡・名勝や社寺などは、地域の文化や歴史を伝える貴重な資源であることから、地域への愛着と誇りの醸成に向け、資源を活用した景観形成に努めます。

布袋地区については、まちなかに残る蔵や町家などの文化・歴史の資源を活かした景観形成に努めます。

3） 市街地景観の創出

江南駅周辺と布袋駅周辺では、街路樹などによる道路景観の保全や、駅前で実施する花いっぱい運動等により景観の向上に努め、本市の中心拠点にふさわしい都市的な景観形成を推進します。

市民の参加による「花いっぱいコンクール」を実施することで、明るく楽しいまちかどの形成を図ります。

5 都市防災の方針

（1）都市防災に関する基本的な考え方

本市は、「南海トラフ地震防災対策推進地域※」に指定されており、大規模地震が発生する危険性が高い地域となっています。地震による被害を減らすには、住宅や建築物の倒壊を防ぎ、耐震性を確保して被害の軽減を図ることが重要となります。

また、河川流域での都市化の進行に伴い、保水・遊水機能が低下しており、豪雨時における浸水被害が懸念されています。

このような状況において、帰宅困難者への対応も含め、災害時における被害を最小限にくい止めるため、行政・事業者・市民の役割を明確化した防災対策の推進及び総合的な防災体制の確立をめざします。

震災により都市基盤が脆弱な市街地に大きな被害が発生した場合などにおいて、市民との合意形成を図りつつ、市街地の迅速な復興に向けた震災復興都市計画の事務に取り組めるよう体制の構築に努めます。

（2）都市防災の方針

1） 避難場所・避難路の安全性の確保

緊急輸送道路及び優先的に通行を確保する道路※に指定されている道路沿道の建築物については、災害時における避難路の確保に向けて、耐震化を促進します。

防火水槽や消火栓など、地域に身近な防災施設・設備については、市民や関係機関の協力を得て、維持管理の適正化に努めます。

2） 市街地の安全性の確保

生活道路が狭く木造家屋が密集している既成市街地については、まちなみの保全に配慮しつつ、生活道路の拡幅などを推進するとともに、ブロック塀から生垣へ改修する支援や空き家の所有者などへの適切な管理の周知、民間木造住宅の耐震改修を促進し、防災機能の向上に努めます。

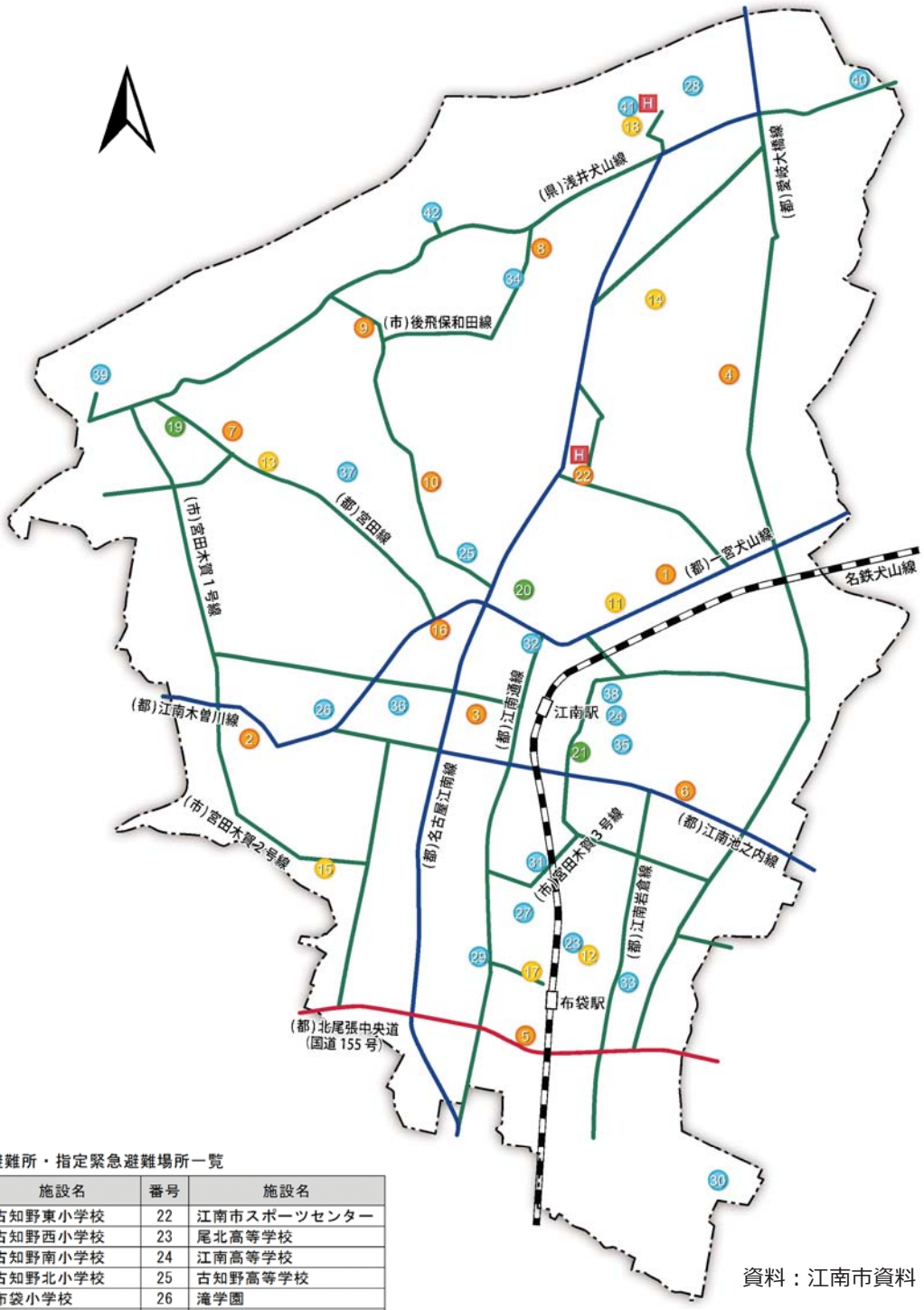
3） 浸水被害の防止

市街地の浸水被害の抑制に向けて、河川改修を促進し、市民が担う雨水貯留浸透施設の設置を支援するとともに、保水機能を有する田園集落地の一団の農地の保全に努めます。

農地などの保水機能を有する土地の開発に当たっては、雨水流出抑制施設の設置など、代替機能の確保を促進します。

4） 防災体制の確立

災害時の被害軽減及び被災後の円滑な復興活動に向け、自治会や事業所などで組織される自主防災会や自衛消防隊等と行政との連携強化を推進するとともに、まちの被害や復興を想定したワークショップ（事前復興まちづくりの取り組み）の開催などを検討します。また、発災時に地域などで適切な避難行動が可能となる体制の構築を支援します。



資料：江南市資料（H30）

■指定避難所・指定緊急避難場所一覧

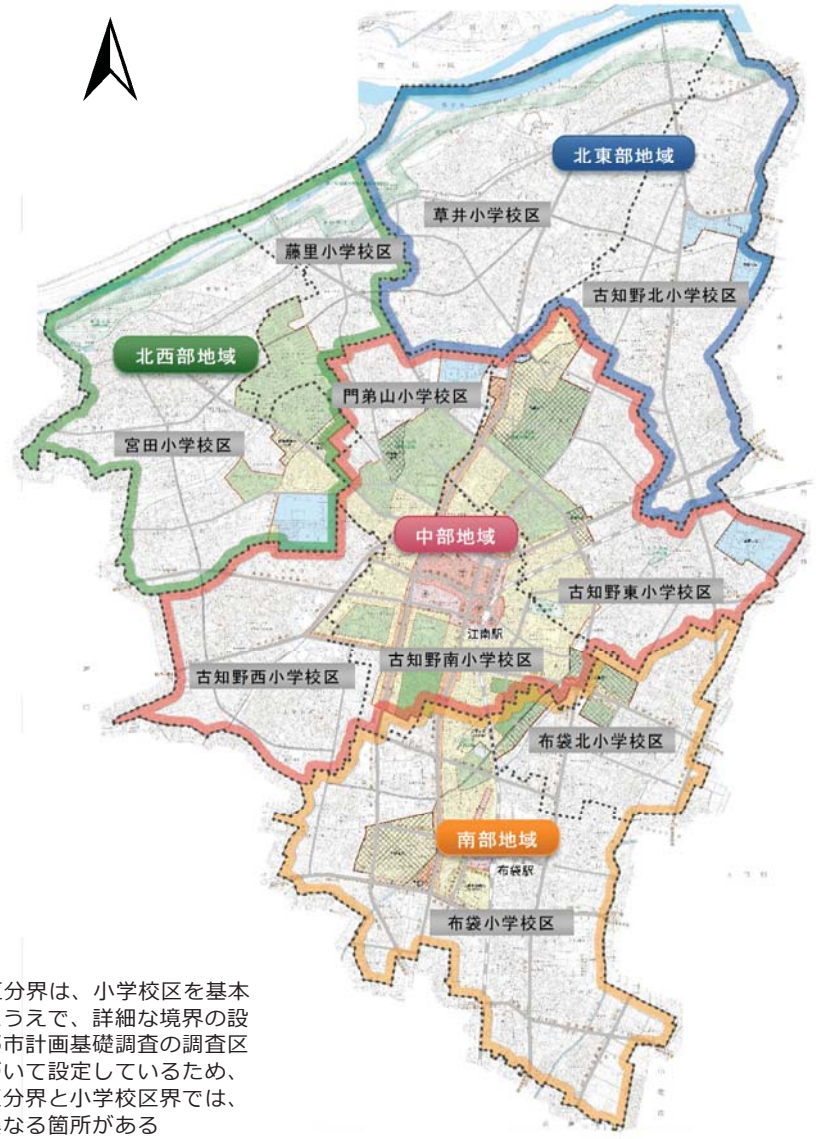
番号	施設名	番号	施設名
1	古知野東小学校	22	江南市スポーツセンター
2	古知野西小学校	23	尾北高等学校
3	古知野南小学校	24	江南高等学校
4	古知野北小学校	25	古知野高等学校
5	布袋小学校	26	滝学園
6	布袋北小学校	27	地蔵山児童遊園
7	宮田小学校	28	草井児童遊園
8	草井小学校	29	布袋児童遊園
9	藤里小学校	30	二子山児童遊園
10	門弟山小学校	31	交通児童遊園
11	古知野中学校	32	古知野中児童遊園
12	布袋中学校	33	北山児童遊園
13	宮田中学校	34	小鹿児童遊園
14	北部中学校	35	白山児童遊園
15	西部中学校	36	（仮称）大間児童公園
16	老人福祉センター	37	曼陀羅寺公園
17	布袋ふれあい会館	38	中央公園
18	すいとぴあ江南	39	蘇南公園
19	宮田保育園	40	江南緑地公園（中般若）
20	古知野中保育園	41	江南緑地公園（草井）
21	中央保育園	42	フラワーパーク江南

凡　例	
	第１次緊急輸送道路
	第２次緊急輸送道路
	優先的に通行を確保する道路
	指定避難所（地震用・風水害用）
	指定避難所（地震用）
	指定避難所（風水害用）
	指定緊急避難場所（地震用）
	ヘリポート
	鉄道・駅

■緊急輸送道路及び指定避難所・指定緊急避難場所の位置図

第４章　地域別構想

地域別構想は、地域のつながりや本市の特色に考慮しつつ、地形などの自然的条件、土地利用の状況、幹線道路等の交通軸、日常生活上の交流の範囲などを考慮するとともに、施策を位置づけるうえで適切なまとまりのある範囲となることに配慮し、身近な生活圏である小学校区を最小単位とした、以下の４地域に区分しました。



(注)地域区分界は、小学校区を基本としたうえで、詳細な境界の設定は都市計画基礎調査の調査区に基づいて設定しているため、地域区分界と小学校区界では、若干異なる箇所がある

■地域区分図

地域の基本データ

地域名	小学校区名	人口（人）	面積（ha）
北東部地域	古知野北・草井	14,825	約 779
北西部地域	宮田・藤里	18,774	約 574
中部地域	古知野東・古知野西・古知野南・門弟山	44,176	約 972
南部地域	布袋・布袋北	20,584	約 695
合計	—	98,359	約 3,020

資料：国勢調査（H27）、都市計画基礎調査（H28）

1 北東部地域

北東部地域は、木曽川左岸沿いにすいとぴあ江南やフラワーパーク江南が整備され、市民のうるおいと憩いの場になっています。地域東部の工業地域を除いて、市街化調整区域となっており、優良な田園地域が広がっているほか、既存集落が点在しています。

フラワーパーク江南

すいとぴあ江南

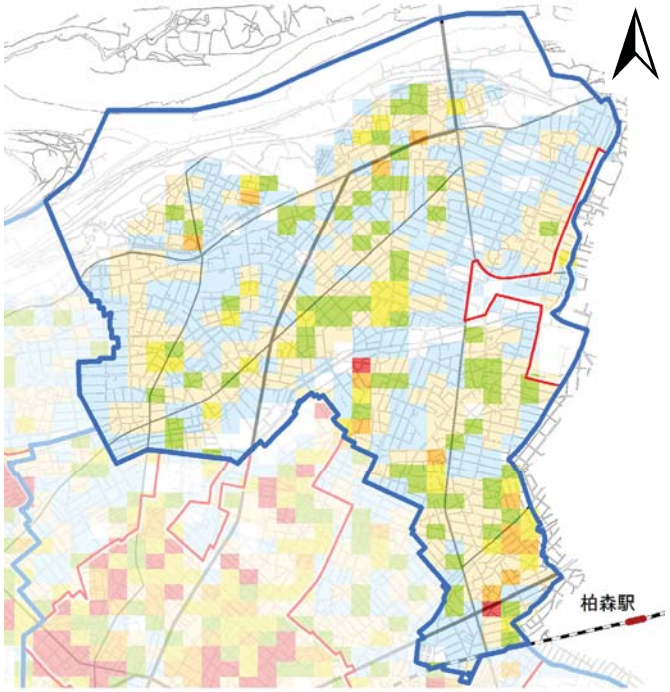
音楽寺

（1）地域の現況

1）人口などの状況

- H17からH27までの10年間で市総人口は0.7%減少している一方で、北東部地域は0.4%増加しています。また、高齢化率は10年間で11.1%増加しています。
- 人口密度は、全体的に低くなっていますが、地域南部で一部高い地域が存在しています。

		H27	H17
人口	北東部地域	14,825人（＋0.4%）	14,773人
	市全域	98,359人（▲0.7%）	99,055人
人口密度	北東部地域	19.0人/ha（0.0%）	19.0人/ha
	市全域	32.6人/ha（▲0.6%）	32.8人/ha
高齢化率	北東部地域	28.8%（＋11.1%）	17.7%
	市全域	26.5%（＋8.4%）	18.1%

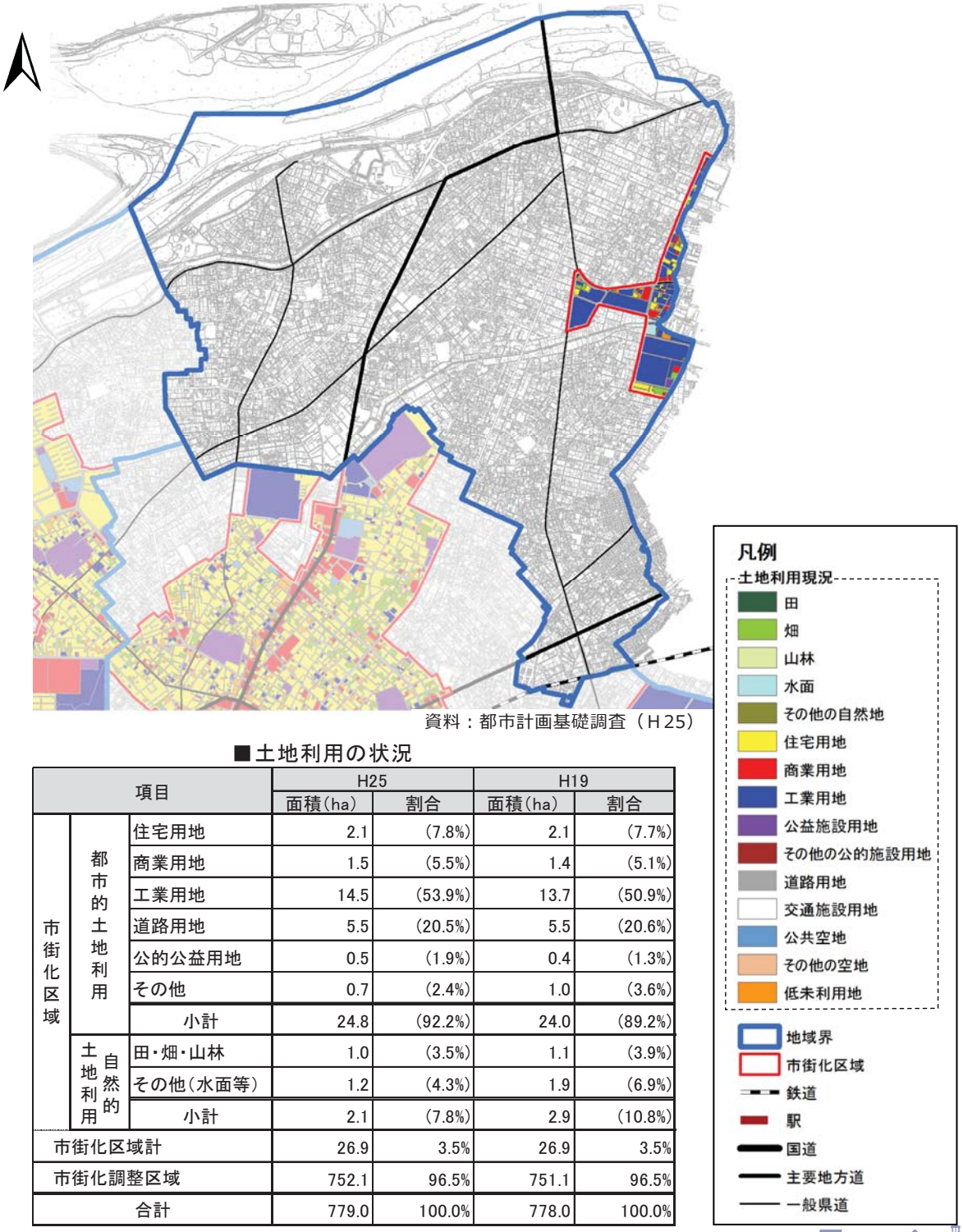


資料：国勢調査（H27）

■人口密度

2）土地利用状況

- 市街化調整区域が地域内の約 97%の割合を占め、田畑や住宅が全体的に広がっています。
- 地域東部の市街化区域では約 54%が工業用地となっているほか、未利用地がほぼ残存していない状況です。また、過去からの推移をみると、自然的土地利用が減少しており、工業用地が増加しています。



資料：都市計画基礎調査（H25）

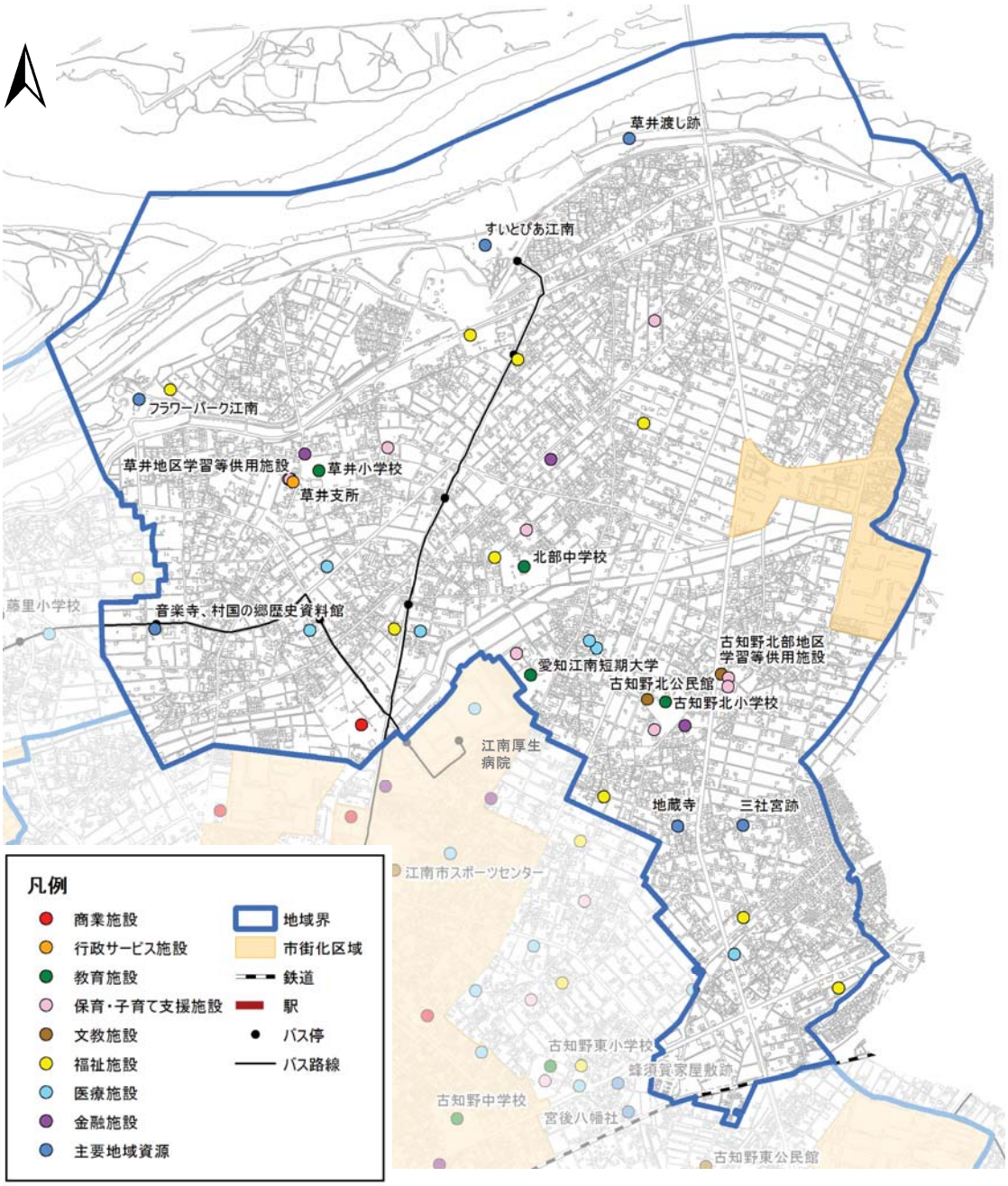
■土地利用の状況

項目			H25 面積(ha)	H25 割合	H19 面積(ha)	H19 割合
市街化区域	都市的土地利用	住宅用地	2.1	(7.8%)	2.1	(7.7%)
		商業用地	1.5	(5.5%)	1.4	(5.1%)
		工業用地	14.5	(53.9%)	13.7	(50.9%)
		道路用地	5.5	(20.5%)	5.5	(20.6%)
		公的公益用地	0.5	(1.9%)	0.4	(1.3%)
		その他	0.7	(2.4%)	1.0	(3.6%)
		小計	24.8	(92.2%)	24.0	(89.2%)
	自然的土地利用	田・畑・山林	1.0	(3.5%)	1.1	(3.9%)
		その他(水面等)	1.2	(4.3%)	1.9	(6.9%)
		小計	2.1	(7.8%)	2.9	(10.8%)
市街化区域計			26.9	3.5%	26.9	3.5%
市街化調整区域			752.1	96.5%	751.1	96.5%
合計			779.0	100.0%	778.0	100.0%

(注)「公的公益用地」…公益施設用地、その他の公的施設用地の合計　「その他」…交通施設用地、公共空地、その他の空地、低未利用地の合計　「その他（水面等）」…水面、その他の自然地の合計

3）施設分布状況

- 西部の草井支所周辺や東部の古知野北公民館周辺に、教育施設や保育・子育て支援施設など、一定の集積がみられます。
- 市内で唯一の大学である、愛知江南短期大学が立地しています。
- 地域内に鉄道駅はありませんが、すいとぴあ江南までの区間や隣接する北西部地域から江南厚生病院の区間において、名鉄バスが運行されています。

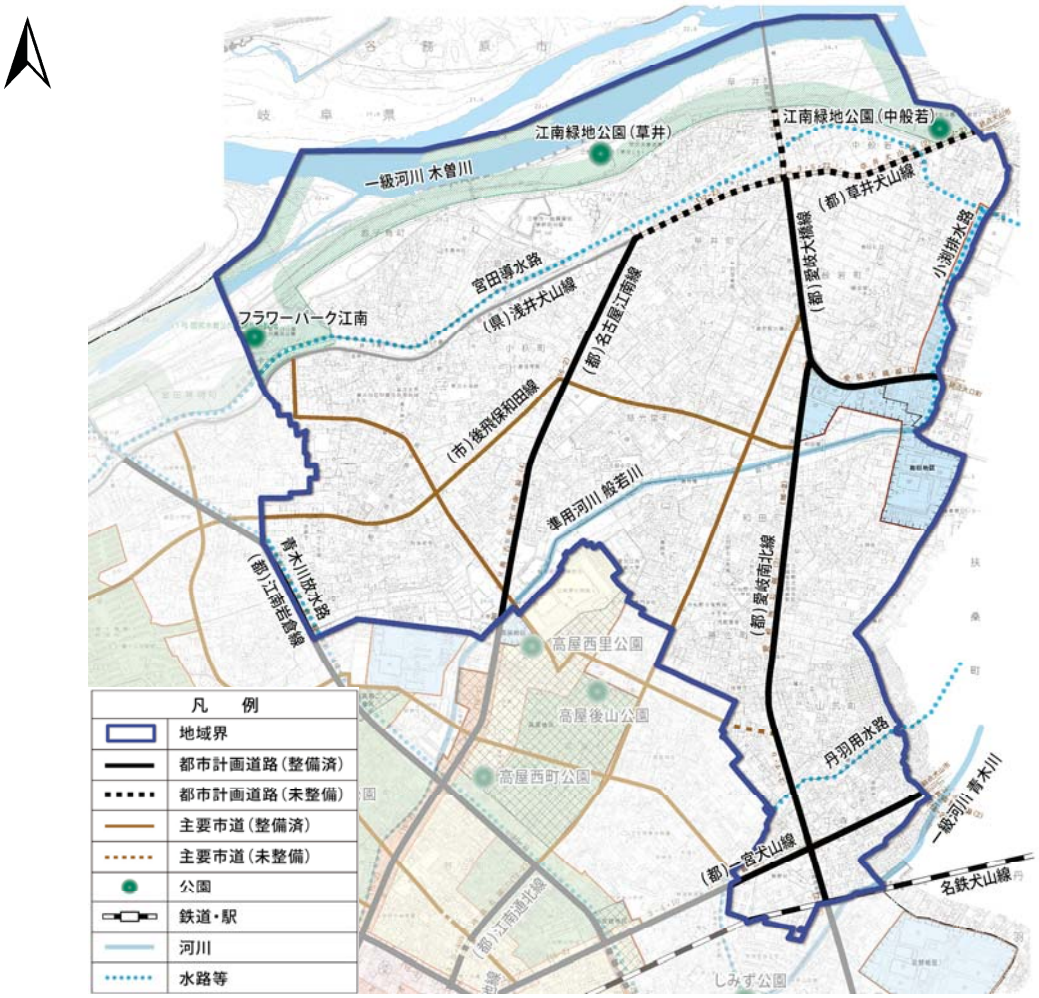


資料：全国大型小売店総覧 2019、スーパーマーケット総覧 2015、江南市資料（H30）、
江南市ホームページ［施設ガイド］、尾北医師会ホームページ（H30）、国土数値情報（H29）、
ｉタウンページ（H30）、名鉄バス路線図（H30）

■施設分布状況

4）主な都市基盤の状況

・都市計画道路は、地域北東部に(都)名古屋江南線などに未整備区間が存在しており、地域内の整備率は約 79%となっています。
・本市を代表する観光施設であるフラワーパーク江南や江南緑地公園などの比較的規模が大きい公園が木曽川沿いに整備されています。



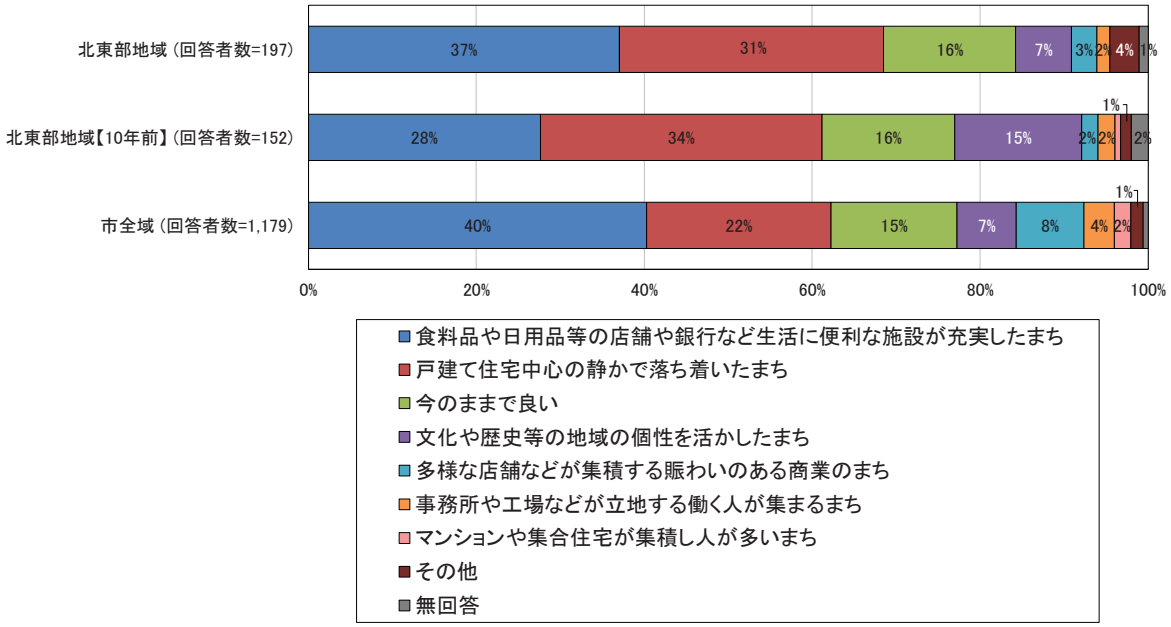
■主な都市基盤の状況

主要施設			
道　路	・(都)一宮犬山線 ・(都)名古屋江南線 ・(都)江南岩倉線	・(都)愛岐大橋線 ・(都)愛岐南北線 ・(都)草井犬山線	・(県)浅井犬山線 ・(市)後飛保和田線
公　園	・江南緑地公園（草井）	・江南緑地公園（中般若）	・フラワーパーク江南
河川など	・一級河川木曽川 ・一級河川青木川 ・準用河川般若川	・宮田導水路 ・丹羽用水路	・青木川放水路 ・小渕排水路

（２）地域のニーズ

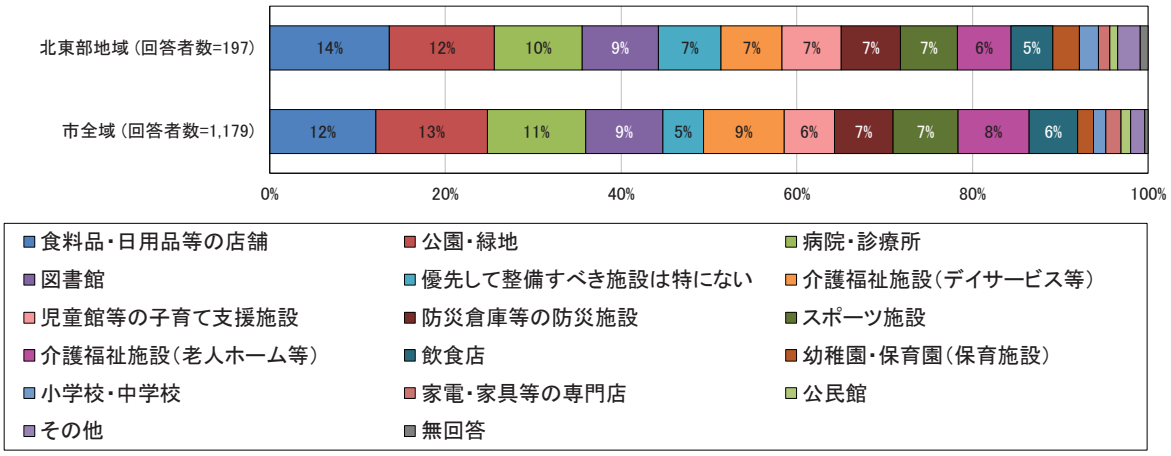
◆居住する小学校区の、今後（おおむね 10 年後）の「まち」の姿に関する意向

・「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」が 37%と最も高い意向を示しています。市全域の意向と比べると「戸建て住宅中心の静かで落ち着いたまち」を望む意向が 31%と高くなっています。
・10 年前と比べると、「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」に関する意向が高くなっている一方で、「戸建て住宅中心の静かで落ち着いたまち」「文化や歴史等の地域の個性を活かしたまち」を望む意向は低くなっています。



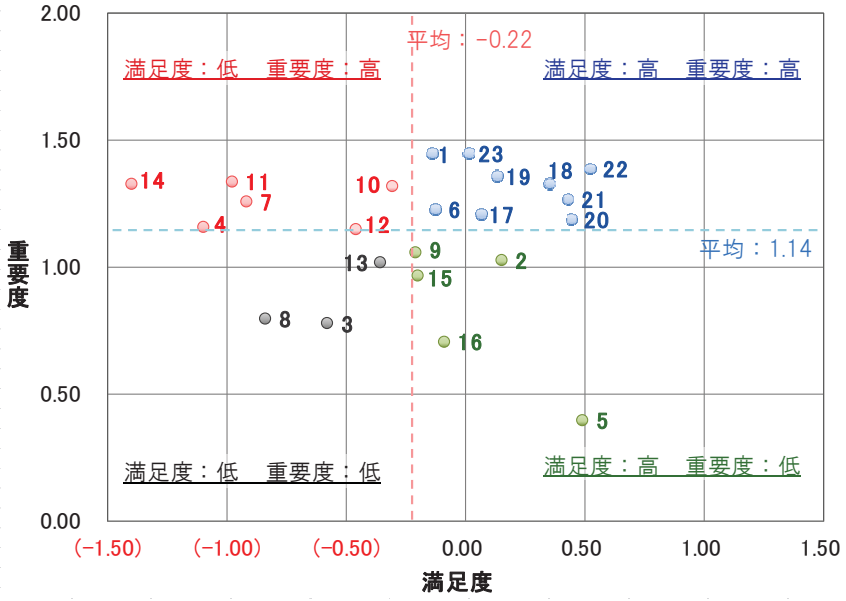
◆居住する小学校区に優先して整備すべきだと思う施設に関する意向

・「食料品・日用品等の店舗」、「公園・緑地」、「病院・診療所」の順に整備すべき施設の意向が高く、その傾向は市全域と同様の傾向となっています。



◆お住まいの小学校区の生活環境に関する、現状の『満足度』と今後の『重要度』について

・満足度が低く、重要度が高い項目（優先度が高い）は「駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている」「駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている」「自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている」「バス等の公共交通網が充実し、クルマがなくてもスムーズに移動できている」などとなっています。



【低い】 現状の満足度 【高い】

【高い】 今後の重要度 【低い】

満足度：低　重要度：高 4．駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている 7．駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている 10．身近な生活道路の整備がされ、安全に通行できている 11．自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている 12．市街地や主要施設周辺に駐車場が適切に配置されている 14．バス等の公共交通網が充実し、スムーズに移動できている	**満足度：高　重要度：高** 1．若者が江南市で生活し続けられる 6．幹線道路沿道の商業施設が適切に配置されている 17．下水道や浄化槽が整備され、衛生的な生活を送っている 18．河川が整備され、安心して暮らしている 19．防災対策が進み、安心・安全に生活ができている 20．幼稚園等が充実し、子育てがしやすい環境になっている 21．学校施設や設備が整備され、教育環境が整っている 22．医療施設が整備され、安心して医療サービスを受けられる 23．介護福祉施設が整備され、介護福祉サービスを受けられる
満足度：低　重要度：低 3．工業地や工業団地が確保され、江南市の産業を牽引している 8．市外からの来訪者が楽しめる空間が形成されている 13．市街地や主要施設周辺に駐輪場が適切に配置されている	**満足度：高　重要度：低** 2．住宅環境や公営住宅が整備されている 5．適度な農地があり、うるおいのある空間を形成している 9．道路が整備され、都市間をスムーズに移動できている 15．身近な公園や緑地が整備されている 16．住宅の庭や道路などのまちかどや公園等の緑化が進んでいる

（各項目の点数化について）

満足度は、項目ごとに「満足」を＋２点、「やや満足」を＋１点、「やや不満」を－１点、「不満」を－２点とし、重要度は、項目ごとに「重要」を＋２点、「やや重要」を＋１点、「あまり重要ではない」を－１点、「重要ではない」を－２点とし、各項目についての満足度と重要度それぞれを点数化したうえで、全項目の平均値を評価軸として、散布図を作成

（３）まちづくりの課題

北東部地域の現況調査における地域特性や市民意向調査による地域のニーズなどを踏まえ、まちづくりの課題を以下のとおり整理します。

≪土地利用≫

既存の居住環境の維持

市全体では人口減少期を迎えている中、北東部地域は増加傾向を保っています。中でも、地域南部に立地する愛知江南短期大学周辺については、比較的多くの施設が立地しているなど、生活利便性が確保されていることから、今後も現在の居住環境を維持していくことが必要です。

その他の田園地域に分布する住宅地についても、新たな開発を抑制し、農地と既存集落が共生した土地利用の保全に努め、既存の居住環境を維持していくことが必要です。

良好な営農環境の保全

市街化調整区域に広がる農用地区域を中心とした一団の農地は、本市の農業基盤としての役割だけでなく、緑化の機能や防災機能の観点からも適切な保全が必要です。

≪施設整備≫

生活を支える交通基盤の確保

地域の北側にある愛岐大橋は、地域と近接市をつなぐ重要な路線であり、交通量が多い状況にあります。そのため、周辺道路も含め安全・快適な交通環境の確保が必要です。

また、北西部地域や中部地域を結ぶ路線バスが運行し、いこまいＣＡＲでその他の地域をカバーしている状況であることから、今後も公共交通サービスの維持確保を図る必要があります。

地域に交流をもたらすレクリエーション機能の充実

北部の木曽川沿いに位置するフラワーパーク江南は、地域住民だけでなく広域的に利用されており、多くの交流が期待できる拠点となっていることから、今後も、機能の維持及び活用を図っていく必要があります。

また、遊歩道・サイクリングロードは、隣接市町につながる広域的な健康・レクリエーションの場として、機能の維持・向上を図っていく必要があります。

身近にうるおいと憩いを提供できる交流空間の形成

子育て世代に対する遊び場の提供や健康志向の高まりによる公園に対するニーズの多様化への対応に向け、既存公園の利用促進や身近な公園緑地等の整備を検討することなどが必要となります。

«自然環境及び都市環境・都市景観»

豊かな自然が感じられる環境の保全

木曽川沿いの緑や地域に広がる農地は、木曽川の恵みを感じられる貴重な地域資源となっていることから、地域住民にとって誇れる自然環境として、それらを身近に感じられる空間の形成や、景色の保全に向けた取り組みが必要となります。

«都市防災»

安心・安全な居住環境の提供

一部の地域において豪雨時に浸水被害を受けた実績があることから、常態化しつつある局地的大雨や集中豪雨による浸水被害を軽減するためにも、河川改修などの被害軽減に向けた基盤整備を図っていくことが必要となります。

（４）まちづくりの方針

北東部地域における、まちづくりの方針を以下のとおり整理します。

１）まちづくり基本目標

❖水と緑の恵みを身近に感じる自然豊かなまちづくり❖

地域北部には木曽川が流れ、その南側には豊かな緑の中に居住地が広がっている地域です。それら既存の住宅地については、今後も良好な居住環境を維持しつつ、地域コミュニティが維持できる安心・安全なまちづくりをめざします。また、フラワーパーク江南をはじめとした木曽川沿いのレクリエーション機能の活用を図ることで、地域資源を活かした交流できるまちづくりをめざします。

２）分野別の方針

①土地利用の方針

◇地域北部の木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロード、フラワーパーク江南は、健康・レクリエーションの場として、機能の維持及び活用を図ります。また、木曽川沿いの緑地については、樹林地、草地、桜並木などの保全を図ります。

◇地域北東部に公共公益施設用地として、広域処理する新ごみ処理施設や災害時の防災拠点などの土地利用の形成を図ります。

◇田園集落地については、既存の住宅環境を維持しつつ、周辺の緑化機能と共生する土地利用の形成を図ります。

②施設整備の方針

【道路・公共交通等の方針】

◇路線バスは、中心拠点である江南駅や地域拠点を結ぶ路線を中心として、運行サービスの維持確保を図ります。また、路線バスでカバーできない地域については、いこまいＣＡＲにより市内全域を移動できる環境を維持確保します。

◇幹線道路である(都)名古屋江南線については、接続する隣接市と連携を図り、整備を促進します。

【公園緑地等の方針】

◇フラワーパーク江南は、広域的なレクリエーションの場として機能する当該施設の魅力を高め、より一層の利用が図られるよう、公園整備を促進します。

◇木曽川沿いの樹林地や草地の保全を図るとともに、木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロードについては、木曽川の自然を楽しむことができるレクリエーションのネットワークを形成しており、適切な維持管理と利用の促進を図ります。

◇宮田導水路の遊歩道は、地域のふれあい・コミュニケーションの場として新たなネットワークが形成されるように、整備を推進します。

【河川の方針】

◇国が管理する木曽川や、県が管理している青木川の整備を促進します。

◇市管理の準用河川般若川の整備を推進し、適切に維持管理します。

【公共公益施設の方針】

◇安心･安全なごみ処理の実現に向け､事業主体である尾張北部環境組合との連携により、広域的な処理をする新ごみ処理施設の整備を推進します。

③自然環境の保全及び都市環境形成の方針

◇木曽川及び河川沿いの樹林地や草地は、優れた自然環境を有するとともに多様な生物の生息地として機能していることから、総合的な保全を図ります。

◇江南緑地公園をはじめとする公園緑地等に加え、道路及び公共施設などの緑化を推進するとともに、市民や事業者が取り組む緑化活動への支援を推進し、民有地緑化の促進を図ることで、緑豊かでゆとりとうるおいのある都市環境の形成に努めます。

④都市景観形成の方針

◇木曽川は、本市を代表する自然景観であり、木曽川の水の流れと緑あふれる河川敷がつくりだす景観の保全・活用を図ります。

⑤都市防災の方針

◇(都)名古屋江南線などの緊急輸送道路及び優先的に通行を確保する道路に指定されている道路沿道の建築物については、災害時における避難路の確保に向けて、耐震化を促進します。

◇市街地の浸水被害の抑制に向けて、木曽川などの河川改修や雨水貯留浸透施設の整備を促進するとともに、保水機能を有する田園集落地の一団の農地の保全に努めます。

3）まちづくり方針図

土地利用
暮らしと安全のために必要な公共公益施設用地として、適切な土地利用の形成

自然環境保全
優れた自然環境、多様な生物の生息地として、木曽川沿いの樹林地や草地の保全

道路・公共交通等
幹線道路である(都)名古屋江南線の整備を促進

公共公益施設
事業主体である尾張北部環境組合との連携により、新ごみ処理施設の整備の推進

土地利用
木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロードの環境の保全、機能の維持及び活用

公園緑地等
フラワーパーク江南の整備の促進

公園緑地等
宮田導水路の遊歩道の整備の推進

凡　例					
	地域拠点		公園		鉄道・駅
	工業地		文教施設		河川・水路
	田園集落地		行政サービス施設		遊歩道・サイクリングロード
	レクリエーションエリア	小 中 大	教育施設		木曽川沿いの緑地
			国道・主要地方道 ※点線は未整備区間		
	暮らしと安全のエリア		一般県道・市道 ※点線は未整備区間		

2 北西部地域

北西部地域は、木曽川左岸沿いにフラワーパーク江南や蘇南公園が広がり、その南側に江南団地などの住宅地のほか、大型商業施設や大規模工場が立地しています。

また、市街地には、江南藤まつりが開催される曼陀羅寺公園が立地しています。そのほか、地域の西には、一団で老人福祉施設、障害者福祉施設などが立地しています。

蘇南公園

江南団地

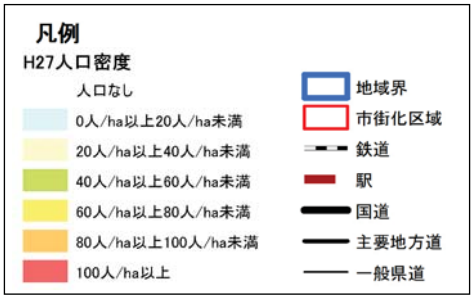
曼陀羅寺公園（藤まつり）

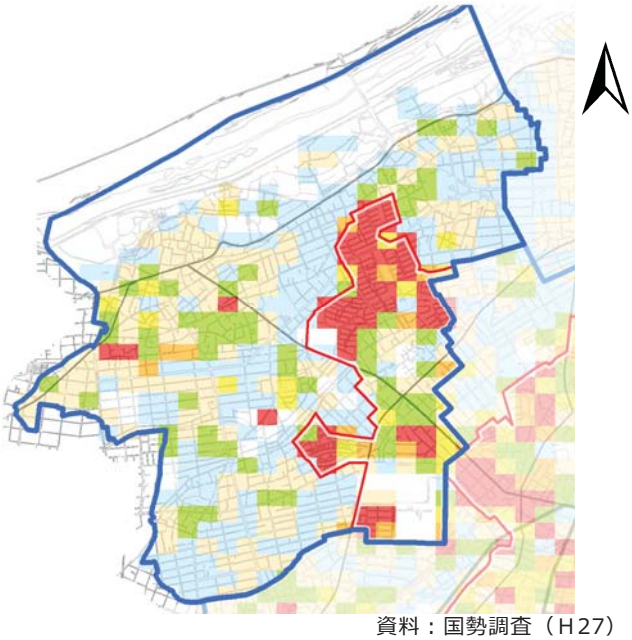
（1）地域の現況

1）人口などの状況

- H17 からH27 までの 10 年間で市総人口は 0.7%減少している中、北西部地域では 10.8%減少しています。また、高齢化率は 10 年間で 11%増加しています。
- 人口密度は、江南団地や松竹住宅などの市街化区域で密度が高くなっています。

		H27	H17
人口	北西部地域	18,774 人（▲10.8%）	21,049 人
	市全域	98,359 人（▲0.7%）	99,055 人
人口密度	北西部地域	32.7 人/ha（▲10.9%）	36.7 人/ha
	市全域	32.6 人/ha（▲0.6%）	32.8 人/ha
高齢化率	北西部地域	29.4%（＋11.0%）	18.4%
	市全域	26.5%（＋8.4%）	18.1%



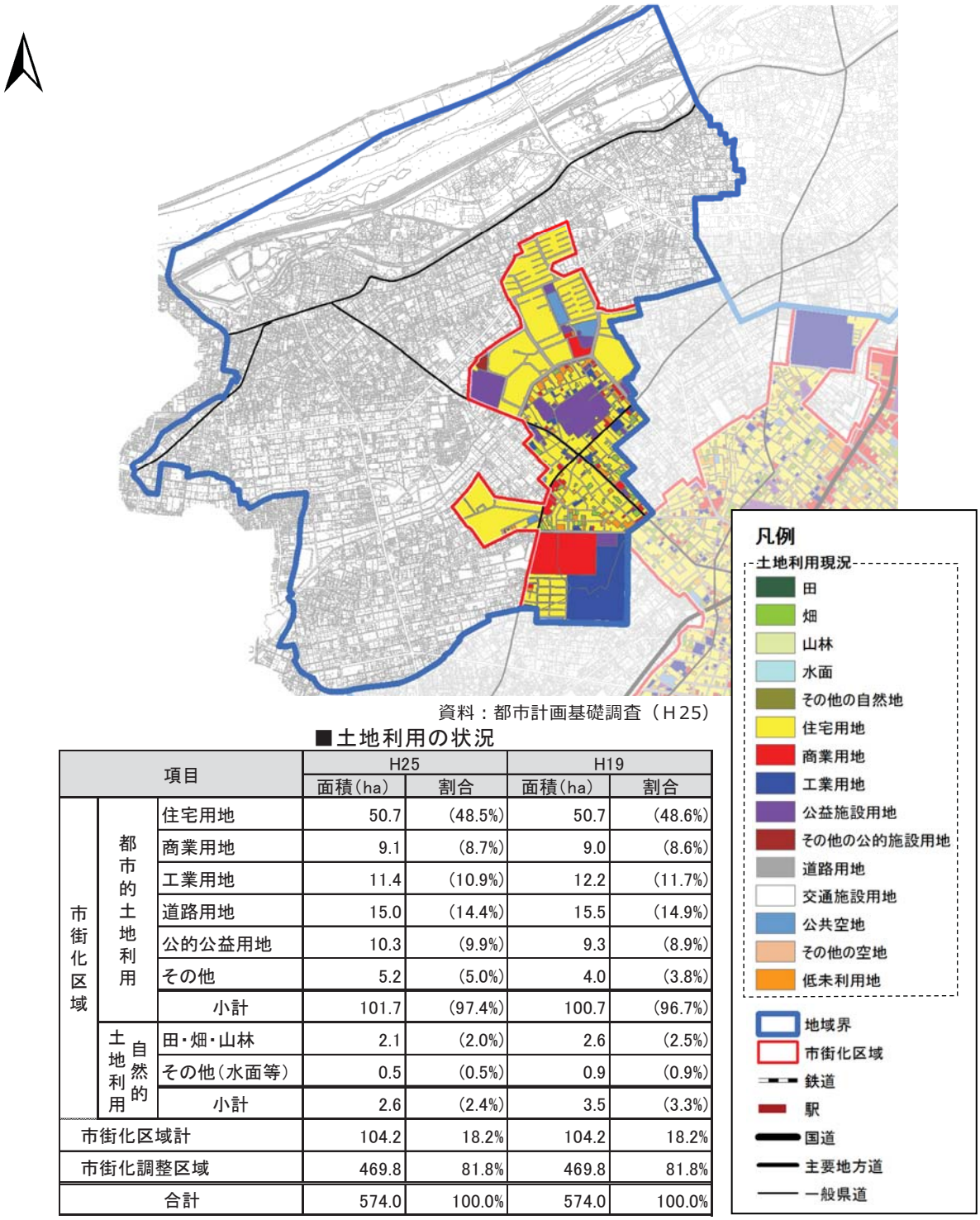


資料：国勢調査（H27）

■人口密度

2）土地利用状況

- 市街化区域が約 18%、市街化調整区域が約 82%の割合となっています。
- 市街化区域では、住宅用地としての利用が約半数と最も多くなっており、地域南部の商業施設や工場の部分が商業用地や工業用地の土地利用となっています。
- 過去からの推移をみると、自然的土地利用や工業用地などに若干の変化がみられますが、全体的に土地利用の変化は少ない状況です。
- 市街化調整区域では、田畑や住宅が全体的に広がっています。



資料：都市計画基礎調査（H25）

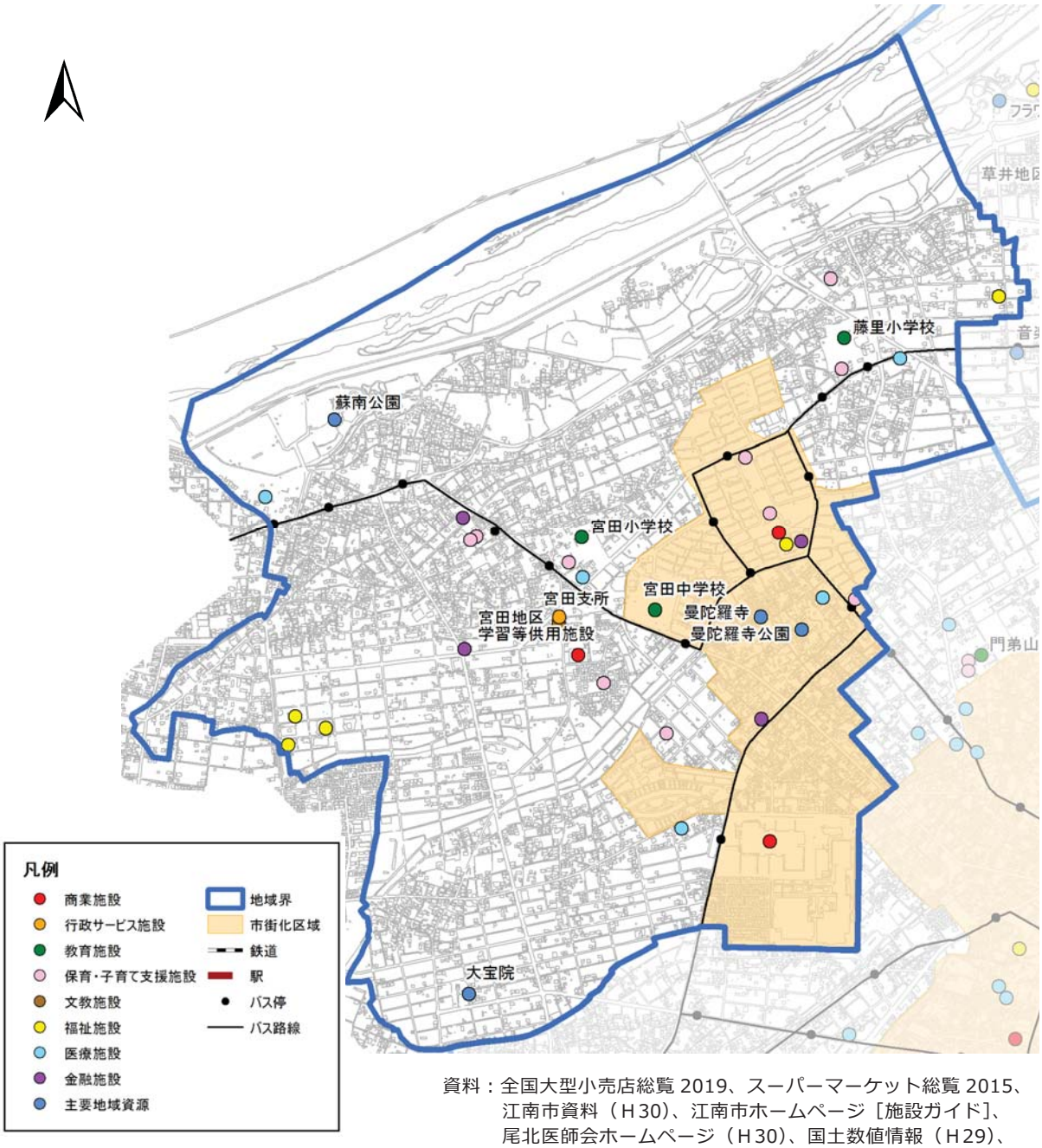
■土地利用の状況

項目			H25 面積(ha)	H25 割合	H19 面積(ha)	H19 割合
市街化区域	都市的土地利用	住宅用地	50.7	(48.5%)	50.7	(48.6%)
		商業用地	9.1	(8.7%)	9.0	(8.6%)
		工業用地	11.4	(10.9%)	12.2	(11.7%)
		道路用地	15.0	(14.4%)	15.5	(14.9%)
		公的公益用地	10.3	(9.9%)	9.3	(8.9%)
		その他	5.2	(5.0%)	4.0	(3.8%)
		小計	101.7	(97.4%)	100.7	(96.7%)
	自然的土地利用	田・畑・山林	2.1	(2.0%)	2.6	(2.5%)
		その他(水面等)	0.5	(0.5%)	0.9	(0.9%)
		小計	2.6	(2.4%)	3.5	(3.3%)
市街化区域計			104.2	18.2%	104.2	18.2%
市街化調整区域			469.8	81.8%	469.8	81.8%
合計			574.0	100.0%	574.0	100.0%

(注)「公的公益用地」…公益施設用地、その他の公的施設用地の合計　「その他」…交通施設用地、公共空地、その他の空地、低未利用地の合計
「その他（水面等)」…水面、その他の自然地の合計

3）施設分布状況

- 地域東側の市街化区域内において、商業、保育・子育て支援施設などが立地しています。市街化調整区域においても、宮田支所周辺で商業、教育、医療施設など多様な施設の集積がみられます。
- 地域西部に福祉施設がまとまって立地しています。
- 地域内に鉄道駅はありませんが、江南団地などの地域内の主要地点と江南駅を結ぶ路線を中心に名鉄バスが運行されています。

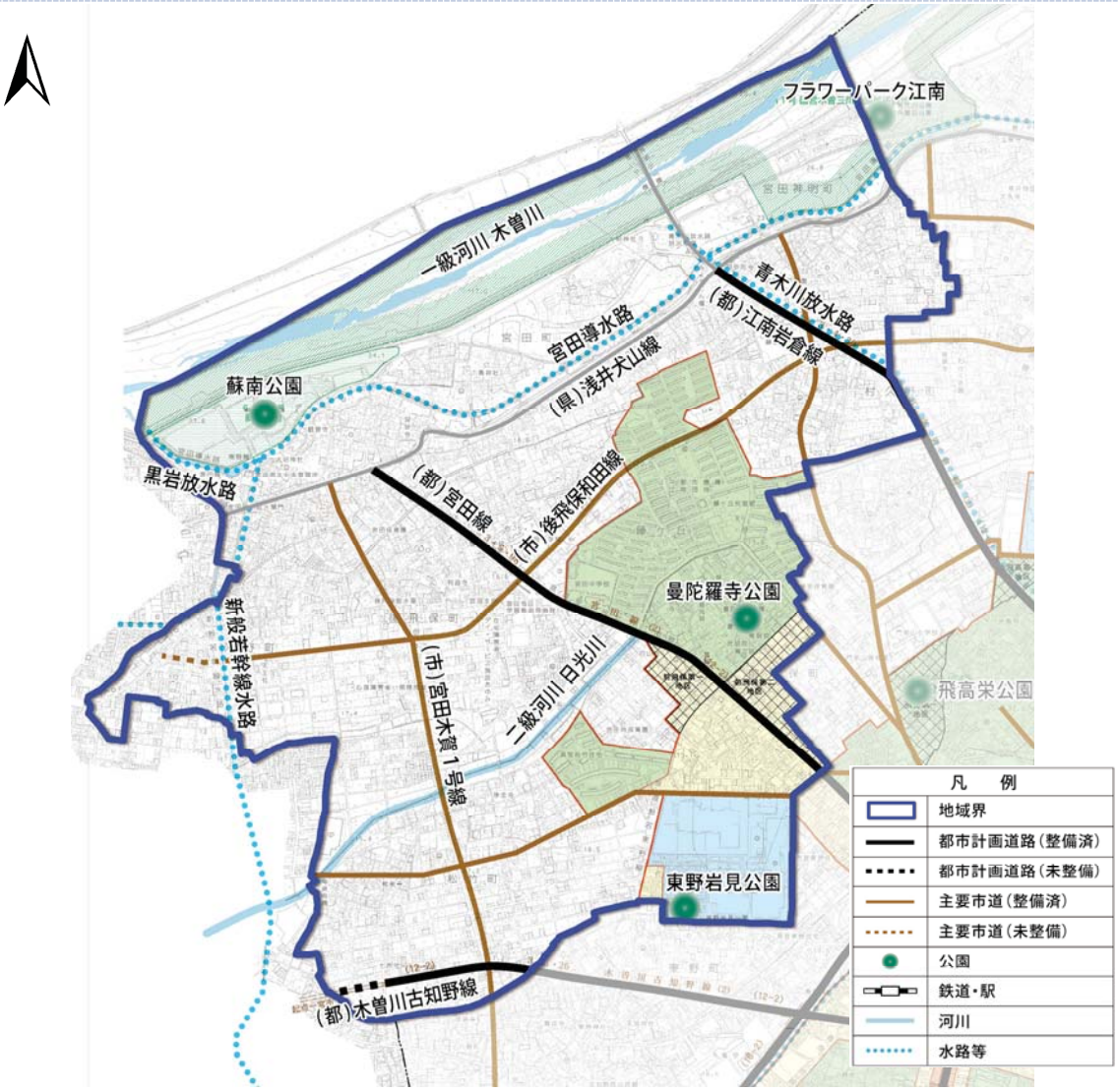


資料：全国大型小売店総覧 2019、スーパーマーケット総覧 2015、江南市資料（H30）、江南市ホームページ［施設ガイド］、尾北医師会ホームページ（H30）、国土数値情報（H29）、ｉタウンページ（H30）、名鉄バス路線図（H30）

■施設分布状況

4）主な都市基盤の状況

・都市計画道路は、ほぼ整備済ですが、地域南部の(都)木曽川古知野線の一部に未整備区間が存在しており、地域内の整備率は約 94%となっています。
・公園は、多くの観光客が訪れる江南藤まつりの会場となる曼陀羅寺公園、フラワーパーク江南、蘇南公園などが整備されています。



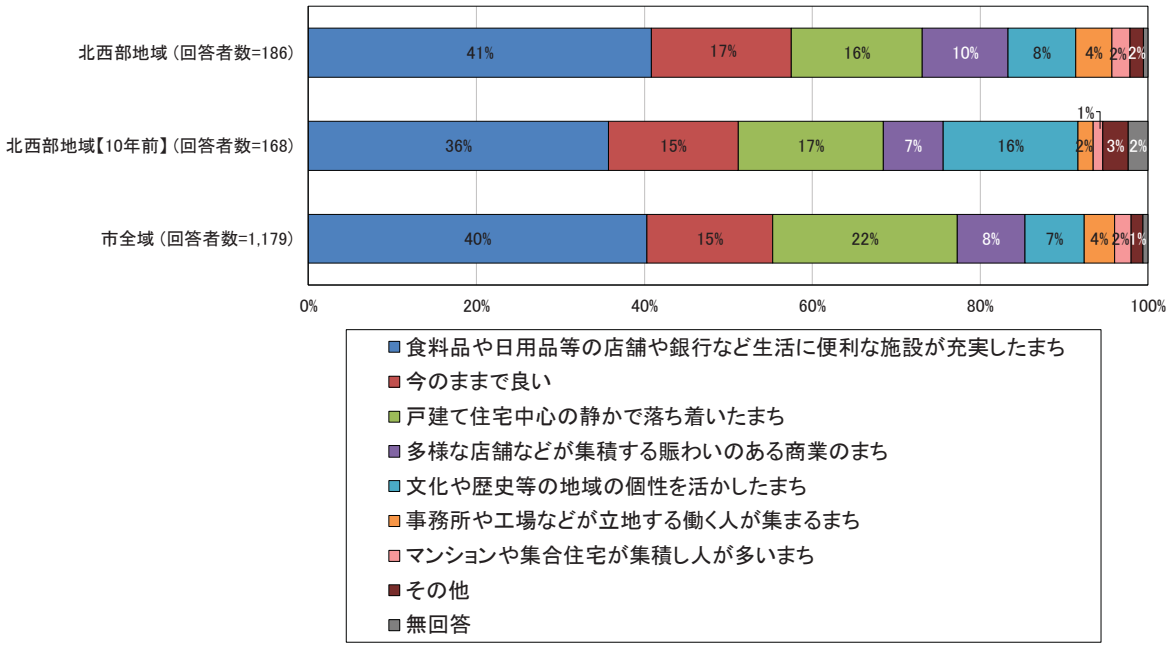
■主な都市基盤の状況

主要施設			
道　路	・(都)木曽川古知野線 ・(都)宮田線	・(都)江南岩倉線 ・(県)浅井犬山線	・(市)後飛保和田線 ・(市)宮田木賀１号線
公　園	・蘇南公園 ・東野岩見公園	・曼陀羅寺公園	・フラワーパーク江南
河川など	・一級河川木曽川 ・二級河川日光川	・宮田導水路 ・新般若幹線水路	・青木川放水路 ・黒岩放水路

（２）地域のニーズ

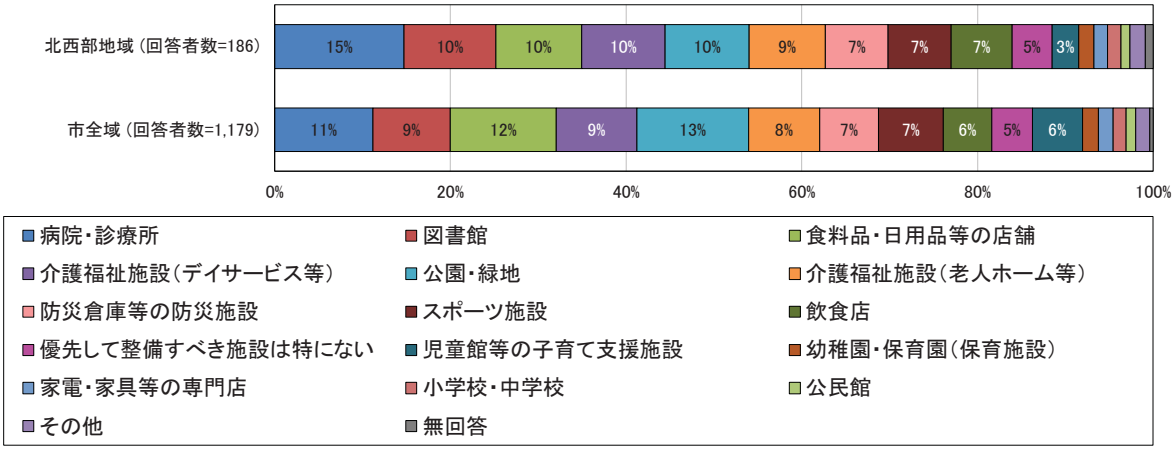
◆居住する小学校区の、今後（おおむね 10 年後）の「まち」の姿に関する意向

・「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」が 41%と最も高い意向を示しています。市全域の意向と比べると、「今のままで良い」との意向が 17%と高くなっています。
・10 年前と比べると、「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」に関する意向が増加している一方で、「文化や歴史等の地域の個性を活かしたまち」に関する意向が大幅に減少しています。



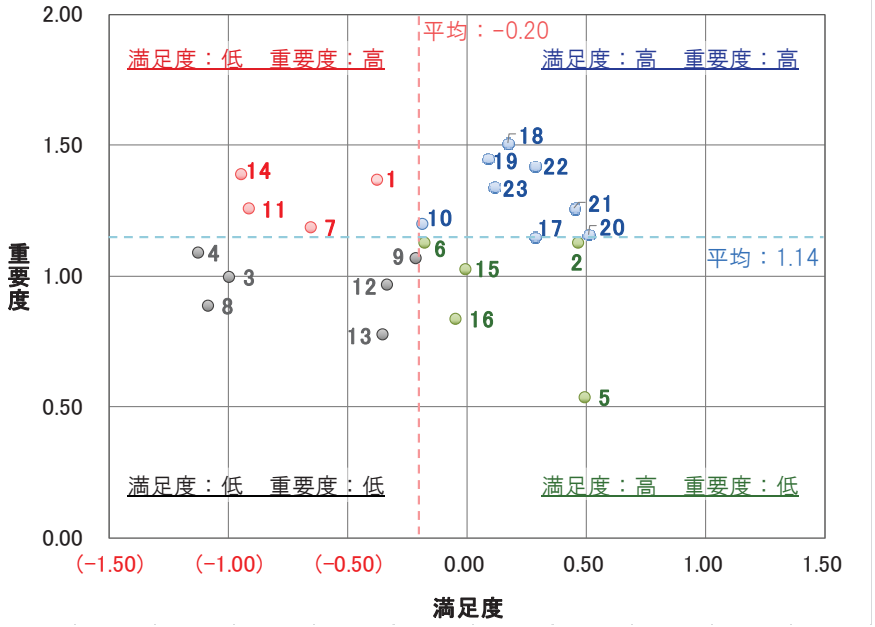
◆居住する小学校区に優先して整備すべきだと思う施設に関する意向

・「病院・診療所」、「図書館」、「食料品・日用品等の店舗」の順に整備すべき施設の意向が高く、市全域と比べて「病院・診療所」の意向が高くなっています。



◆お住まいの小学校区の生活環境に関する、現状の『満足度』と今後の『重要度』について

・満足度が低く、重要度が高い項目（優先度が高い）は「若者が江南市で生活し続けられる」「駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている」「自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている」「バス等の公共交通網が充実し、クルマがなくてもスムーズに移動できている」などとなっています。



【低い】 現状の満足度 【高い】

【高い】 今後の重要度 【低い】

満足度：低　重要度：高 1．若者が江南市で生活し続けられる 7．駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている 11．自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている 14．バス等の公共交通網が充実し、スムーズに移動できている	**満足度：高　重要度：高** 10．身近な生活道路の整備がされ、安全に通行できている 17．下水道や浄化槽が整備され、衛生的な生活を送っている 18．河川が整備され、安心して暮らしている 19．防災対策が進み、安心・安全に生活ができている 20．幼稚園等が充実し、子育てがしやすい環境になっている 21．学校施設や設備が整備され、教育環境が整っている 22．医療施設が整備され、安心して医療サービスを受けられる 23．介護福祉施設が整備され、介護福祉サービスを受けられる
満足度：低　重要度：低 3．工業地や工業団地が確保され、江南市の産業を牽引している 4．駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている 8．市外からの来訪者が楽しめる空間が形成されている 9．道路が整備され、都市間をスムーズに移動できている 12．市街地や主要施設周辺に駐車場が適切に配置されている 13．市街地や主要施設周辺に駐輪場が適切に配置されている	**満足度：高　重要度：低** 2．住宅環境や公営住宅が整備されている 5．適度な農地があり、うるおいのある空間を形成している 6．幹線道路沿道の商業施設が適切に配置されている 15．身近な公園や緑地が整備されている 16．住宅の庭や道路などのまちかどや公園等の緑化が進んでいる

（各項目の点数化について）
満足度は、項目ごとに「満足」を＋２点、「やや満足」を＋１点、「やや不満」を－１点、「不満」を－２点とし、重要度は、項目ごとに「重要」を＋２点、「やや重要」を＋１点、「あまり重要ではない」を－１点、「重要ではない」を－２点とし、各項目についての満足度と重要度それぞれを点数化したうえで、全項目の平均値を評価軸として、散布図を作成

（３）まちづくりの課題

北西部地域の現況調査における地域特性や市民意向調査による地域のニーズを踏まえ、まちづくりの課題を以下のとおり整理します。

≪土地利用≫

住宅団地を中心とした既存の居住環境の維持

市全体で人口減少期を迎えている中、地域別では北西部地域の人口減少が最も多くなっています。中でも、江南団地や松竹住宅における人口減少割合が高くなっています。しかし、これら住宅団地は利便性の高い安全な住宅基盤が整備されていることから、施設の利活用などにより居住地としての魅力向上を図り、今後も人口の維持を図っていくことが必要となります。

その他の田園地域に分布する住宅地についても、新たな開発を抑制し、農地と既存集落が共生した土地利用の保全に努め、既存の居住環境を維持していくことが必要です。

良好な営農環境の保全

市街化調整区域に広がる農用地区域を中心とした豊かな田園地域は、本市の農業基盤としての役割だけでなく、緑化の機能や防災機能の観点からも適切な保全が必要です。

≪施設整備≫

生活を支える交通基盤の確保

中心拠点である江南駅方面、一宮市や各務原市といった隣接市ともつながりがあることから、北西部地域と周辺地域とを結ぶ道路施設の維持・充実を図る必要があります。

また、北東部地域や中部地域を結ぶ路線バスが運行し、いこまいＣＡＲでその他の地域をカバーしている状況であることから、今後も公共交通サービスの維持確保を図る必要があります。

地域に交流をもたらすレクリエーション拠点の形成

北部の木曽川沿いに位置する蘇南公園やフラワーパーク江南は、地域住民だけでなく広域的に利用されており、多くの交流が期待できる拠点となっていることから、今後も、機能の維持及び活用を図っていく必要があります。

また、遊歩道・サイクリングロードは、隣接市町につながる広域的な健康・レクリエーションの場として、機能の維持・向上を図っていく必要があります。

«自然環境及び都市環境・都市景観»

豊かな自然が感じられる環境の保全

木曽川沿いの緑や地域に広がる農地は、木曽川の恵みを感じられる貴重な地域資源となっていることから、地域住民にとって誇れる自然環境として、それらを身近に感じられる空間の形成や、景色の保全に向けた取り組みが必要となります。

«都市防災»

安心・安全な居住環境の提供

一部の地域において豪雨時に浸水被害を受けた実績があることから、常態化しつつある局地的大雨や集中豪雨による浸水被害を軽減するためにも、河川改修などの被害軽減に向けた基盤整備を図っていくことが必要となります。

（４）まちづくりの方針

北西部地域における、まちづくりの方針を以下のとおり整理します。

１）まちづくり基本目標

❖暮らしやすい生活環境と自然が調和したまちづくり❖

北西部地域は、多くの市民が居住する江南団地をはじめとした住宅団地を含む市街地を形成していることから、今後も周辺の生活利便性を維持するとともに、持続的な人口密度の維持に向けた居住の好循環をめざします。

また、地域北部に広がる木曽川の豊かな自然や曼陀羅寺公園などの地域資源は、地域に活気と交流を生み出す資源として、活用の促進をめざします。

２）分野別の方針

①土地利用の方針

◇地域中心部の中高層住宅地は、戸建て住宅のほか、江南団地や県営松竹住宅などの中高層の住宅の立地を誘導する土地利用の形成を図ります。また、地域拠点周辺の一般住宅地については、利便性が高い居住環境の維持・形成を図ります。

◇地域北部の木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロードやフラワーパーク江南、地域中心部に位置する曼陀羅寺公園は、健康・レクリエーションの場として、機能の維持及び活用を図ります。また、木曽川沿いの緑地については、樹林地、草地、桜並木などの保全を図ります。

◇田園集落地については、既存の住宅環境を維持しつつ、周辺の緑化機能と共生する土地利用の形成を図ります。

②施設整備の方針

【道路・公共交通等の方針】

◇路線バスは、中心拠点である江南駅を結ぶ路線や地域拠点である江南厚生病院周辺を結ぶ路線を中心として、運行サービスの維持確保を図ります。また、路線バスでカバーできない地域については、いこまいＣＡＲにより市内全域を移動できる環境を維持確保します。

◇幹線道路である(都)木曽川古知野線については、隣接する一宮市と連携を図りながら整備を検討します。

【公園緑地等の方針】

◇フラワーパーク江南は、広域的なレクリエーションの場として機能する当該施設の魅力を高め、より一層の利用が図られるよう、公園整備を促進します。

◇河川沿いを利用した蘇南公園は、緑の拠点としての魅力を高めるため、機能の充実を図ります。

◇江南藤まつりが開催される曼陀羅寺公園は、本市の花と緑にふれあえる広域的なレクリエーションの場として機能していることから、緑の拠点としての魅力を高めるため、市民や来訪者のニーズを把握してさらなる利用の促進を図ります。

◇木曽川沿いの樹林地や草地の保全を図るとともに、木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロードは、木曽川の自然を楽しむことができるレクリエーションのネットワークを形成しており、適切な維持管理と利用の促進を図ります。
◇宮田導水路の遊歩道は、地域のふれあい・コミュニケーションの場として新たなネットワークが形成されるように、整備を推進します。

【河川の方針】

◇国が管理する木曽川や、県が管理している日光川の整備を促進します。

③自然環境の保全及び都市環境形成の方針

◇曼陀羅寺をはじめとする社寺林は、地域の貴重な自然資源及び景観資源であることから、社寺などと一体的な保全に努めます。
◇木曽川及び河川沿いの樹林地や草地は、優れた自然環境を有するとともに多様な生物の生息地として機能していることから、総合的な保全を図ります。
◇曼陀羅寺公園をはじめとする公園緑地等に加え、道路及び公共施設などの緑化を推進するとともに、市民や事業者が取り組む緑化活動への支援を推進し、民有地緑化の促進を図ることで、緑豊かでゆとりとうるおいのある都市環境の形成に努めます。

④都市景観形成の方針

◇木曽川は、本市を代表する自然景観であり、木曽川の水の流れと緑あふれる河川敷がつくりだす景観の保全・活用を図ります。
◇曼陀羅寺などの歴史的な資源をつなぐ「ふるさと江南歴史散策道」を中心に、文化・歴史的景観の維持に努めます。

⑤都市防災の方針

◇(都)宮田線などの優先的に通行を確保する道路に指定されている道路沿道の建築物については、災害時における避難路の確保に向けて、耐震化を促進します。
◇市街地の浸水被害の抑制に向けて、日光川などの河川改修や雨水貯留浸透施設の整備を促進するとともに、保水機能を有する田園集落地の一団の農地の保全に努めます。

3）まちづくり方針図

自然環境保全
優れた自然環境、多様な生物の生息地として、木曽川沿いの樹林地や草地の保全

公園緑地等
フラワーパーク江南の整備の促進

土地利用
木曽川沿いに位置する遊歩道・サイクリングロードの環境の保全、機能の維持及び活用

公園緑地等
宮田導水路の遊歩道の整備の推進

公園緑地等
曼陀羅寺公園の江南藤まつりなど、市民や来訪者のニーズを把握してさらなる利用の促進

都市防災
浸水被害の抑制に向けて、日光川の整備を促進

凡　例					
	地域拠点		レクリエーションエリア		国道・主要地方道 ※点線は未整備区間
	中高層住宅地		公園		一般県道・市道 ※点線は未整備区間
	一般住宅地		文教施設		鉄道・駅
	工業地		行政サービス施設		河川・水路
	田園集落地		教育施設		遊歩道・サイクリングロード
					木曽川沿いの緑地

3 中部地域

中部地域は、江南駅を中心とした市街地と、その周辺の既存集落や農地により構成されています。江南駅周辺は本市の中心拠点に位置づけられているとともに、主要な公共公益施設や人口の集積も他の地域に比べ多く、市の玄関となる地域です。

江南駅

江南厚生病院

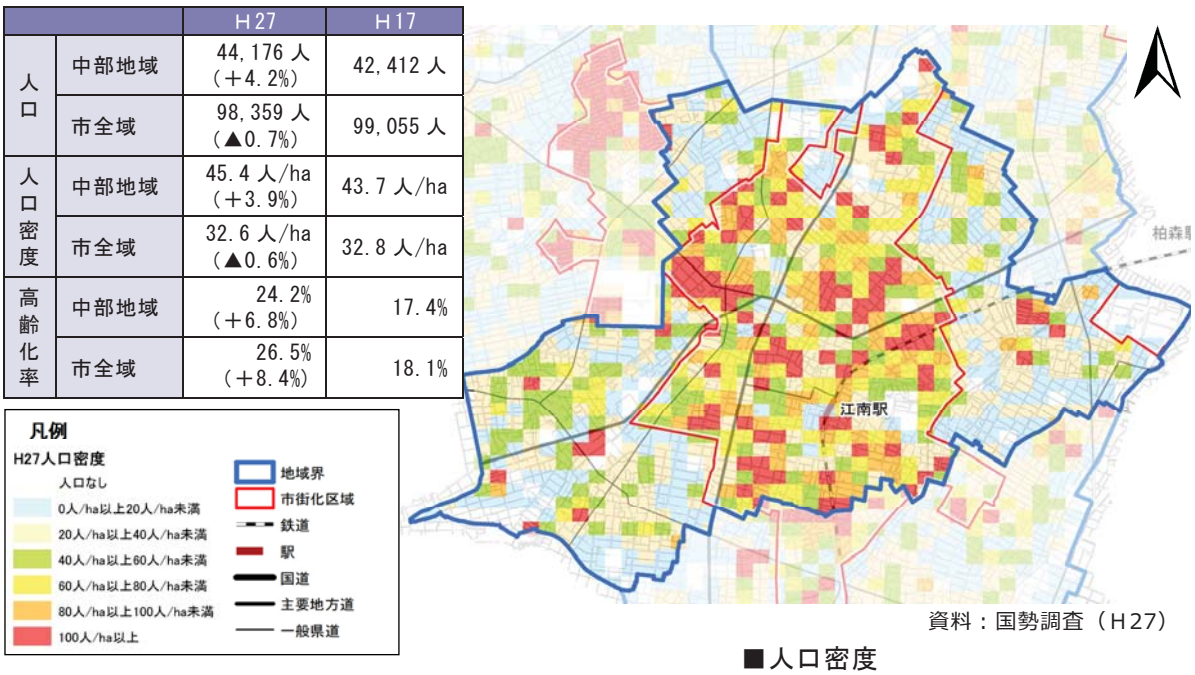
中央公園

（1）地域の現況

1）人口などの状況

- H17 からH27 までの 10 年間で市総人口は 0.7%減少している中、中部地域は 4.2%増加しています。また、高齢化率は 10 年間で 6.8%増加しています。
- 人口密度は、市街化区域の密度が高くなっています。

		H27	H17
人口	中部地域	44,176 人 （＋4.2%）	42,412 人
	市全域	98,359 人 （▲0.7%）	99,055 人
人口密度	中部地域	45.4 人/ha （＋3.9%）	43.7 人/ha
	市全域	32.6 人/ha （▲0.6%）	32.8 人/ha
高齢化率	中部地域	24.2% （＋6.8%）	17.4%
	市全域	26.5% （＋8.4%）	18.1%

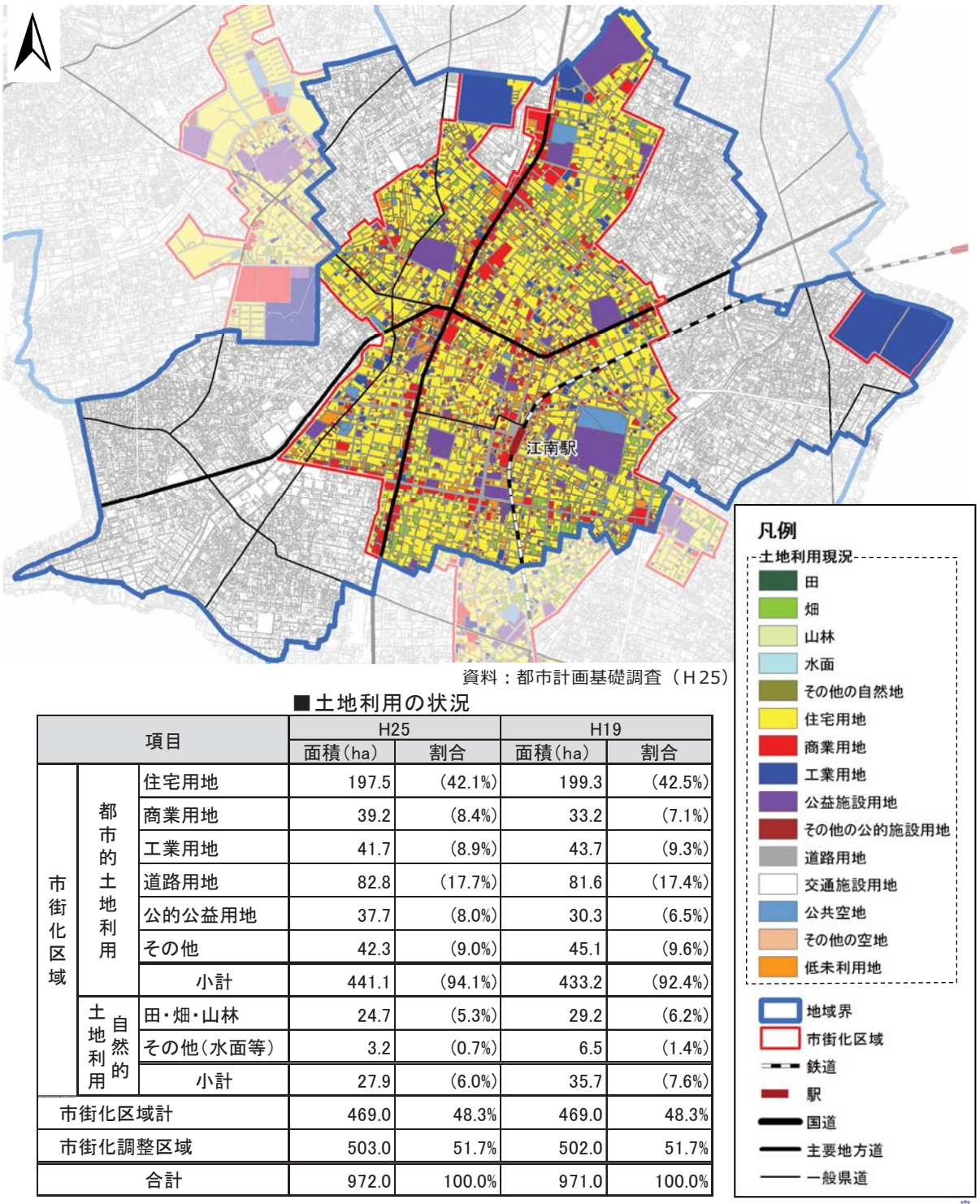


資料：国勢調査（H27）

■人口密度

2）土地利用状況

- 市街化区域が約 48%、市街化調整区域が約 52%の割合となっています。
- 市街化区域では、住宅用地としての利用が約 42%と最も多いですが、市の中心部ということもあり公益施設用地の利用も約８%と多くなっています。
- 江南駅周辺の利便性の高い地域においても、低未利用地が多く存在しています。
- 過去からの推移をみると、農地が減少し、商業用地が多くなっています。
- 市街化調整区域では、田畑や住宅が全体的に広がっています。



資料：都市計画基礎調査（H25）

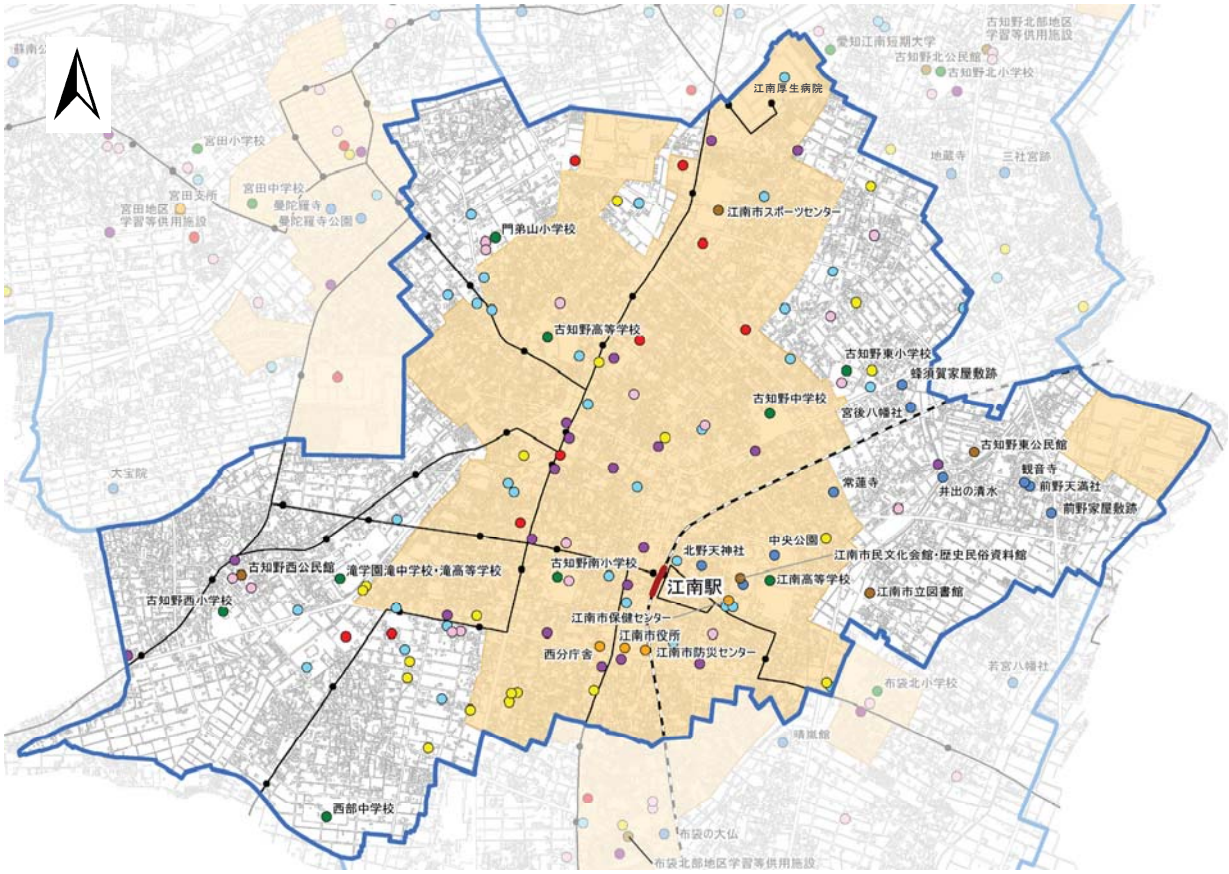
■土地利用の状況

項目			H25 面積(ha)	H25 割合	H19 面積(ha)	H19 割合
市街化区域	都市的土地利用	住宅用地	197.5	(42.1%)	199.3	(42.5%)
		商業用地	39.2	(8.4%)	33.2	(7.1%)
		工業用地	41.7	(8.9%)	43.7	(9.3%)
		道路用地	82.8	(17.7%)	81.6	(17.4%)
		公的公益用地	37.7	(8.0%)	30.3	(6.5%)
		その他	42.3	(9.0%)	45.1	(9.6%)
		小計	441.1	(94.1%)	433.2	(92.4%)
	自然的土地利用	田・畑・山林	24.7	(5.3%)	29.2	(6.2%)
		その他(水面等)	3.2	(0.7%)	6.5	(1.4%)
		小計	27.9	(6.0%)	35.7	(7.6%)
市街化区域計			469.0	48.3%	469.0	48.3%
市街化調整区域			503.0	51.7%	502.0	51.7%
合計			972.0	100.0%	971.0	100.0%

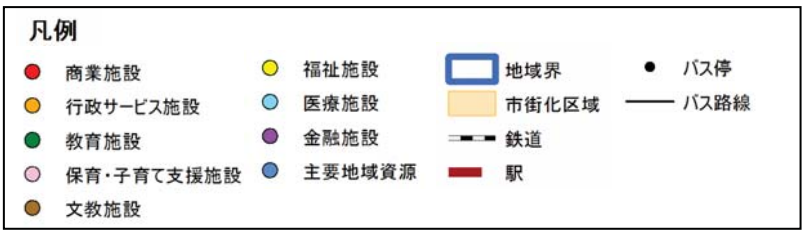
(注)「公的公益用地」…公益施設用地、その他の公的施設用地の合計　「その他」…交通施設用地、公共空地、その他の空地、低未利用地の合計　「その他（水面等)」…水面、その他の自然地の合計

3）施設分布状況

- 市の中心部である中部地域は、多様な施設が集積しており、江南駅周辺には、金融施設や医療施設の集積がみられるほか、地域北部には江南厚生病院や江南市スポーツセンターが立地しています。
- 地域内に、江南高等学校、古知野高等学校、滝高校の３つの高校が立地しています。
- 江南駅を中心に名鉄バスと大口町コミュニティバスが網羅的に運行されています。



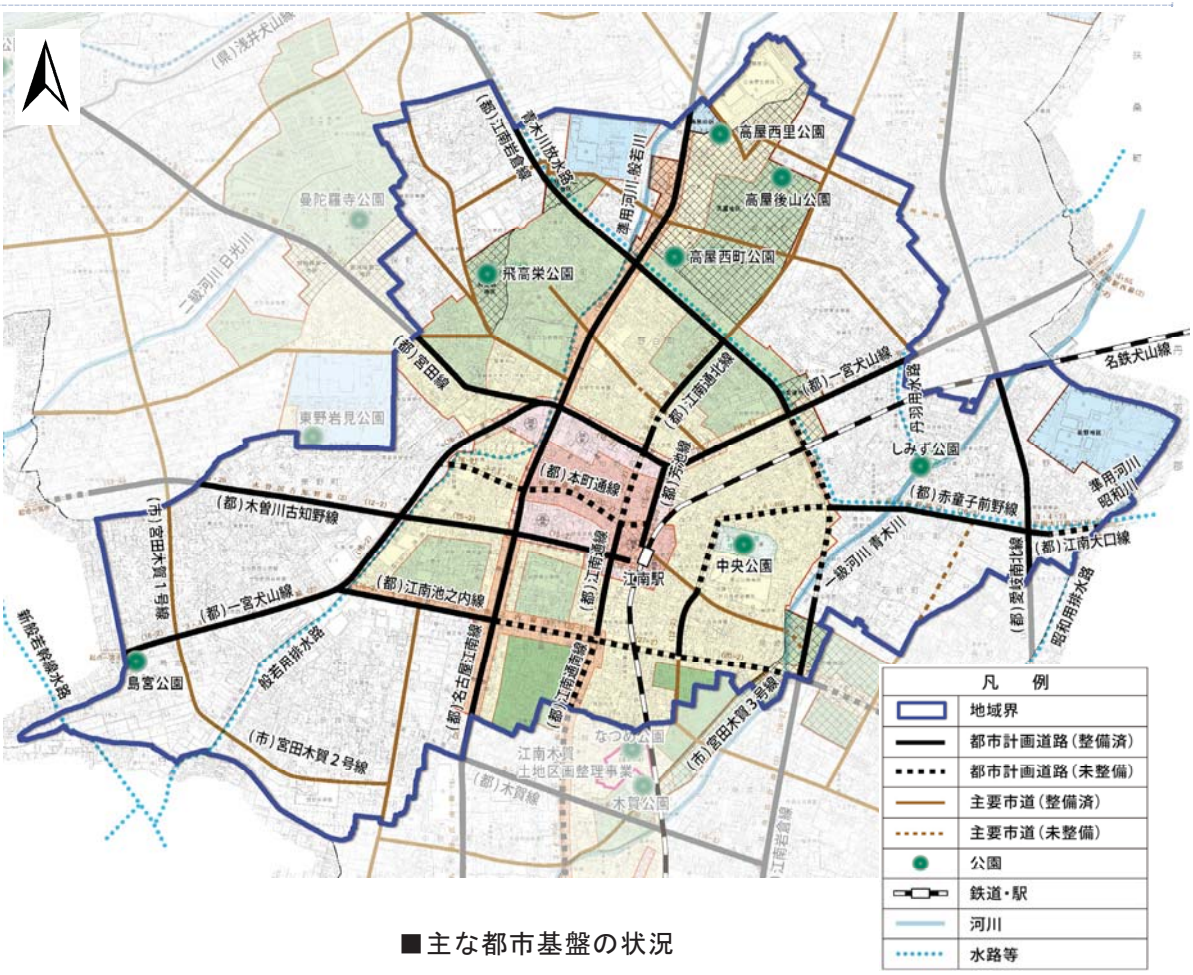
資料：全国大型小売店総覧 2019、スーパーマーケット総覧 2015、江南市資料（H30）、江南市ホームページ［施設ガイド］、尾北医師会ホームページ（H30）、国土数値情報（H29）、ｉタウンページ（H30）、名鉄バス路線図（H30）、大口町ホームページ［コミュニティバス］（H30）



■施設分布状況

4）主な都市基盤の状況

・都市計画道路は、江南駅周辺の(都)江南通線や(都)本町通線などに未整備区間が存在しており、地域内の整備率は約 75%となっています。
・公園は、中央公園やしみず公園などの比較的規模が大きい公園が整備されているほか、地域北部に街区公園として高屋西町公園などが整備されています。



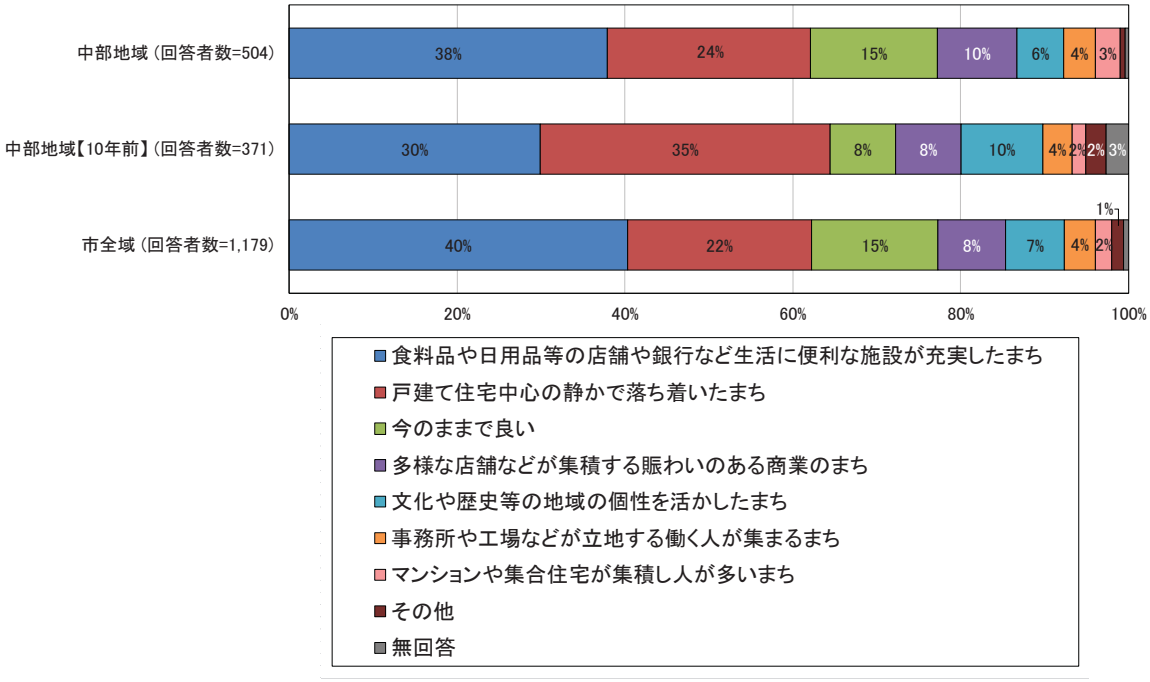
■主な都市基盤の状況

主要施設			
道　路	・(都)木曽川古知野線 ・(都)宮田線 ・(都)一宮犬山線 ・(都)江南池之内線 ・(都)名古屋江南線 ・(都)江南通北線	・(都)江南通線 ・(都)江南通南線 ・(都)赤童子前野線 ・(都)江南大口線 ・(都)愛岐南北線 ・(都)江南岩倉線	・(都)本町通線 ・(都)芳池線 ・(市)宮田木賀１号線 ・(市)宮田木賀２号線 ・(市)宮田木賀３号線
公　園	・中央公園 ・高屋西町公園 ・しみず公園	・島宮公園 ・高屋後山公園	・高屋西里公園 ・飛高栄公園
河川など	・一級河川青木川 ・準用河川般若川 ・準用河川昭和川	・般若用排水路 ・新般若幹線水路	・丹羽用水路 ・青木川放水路

（２）地域のニーズ

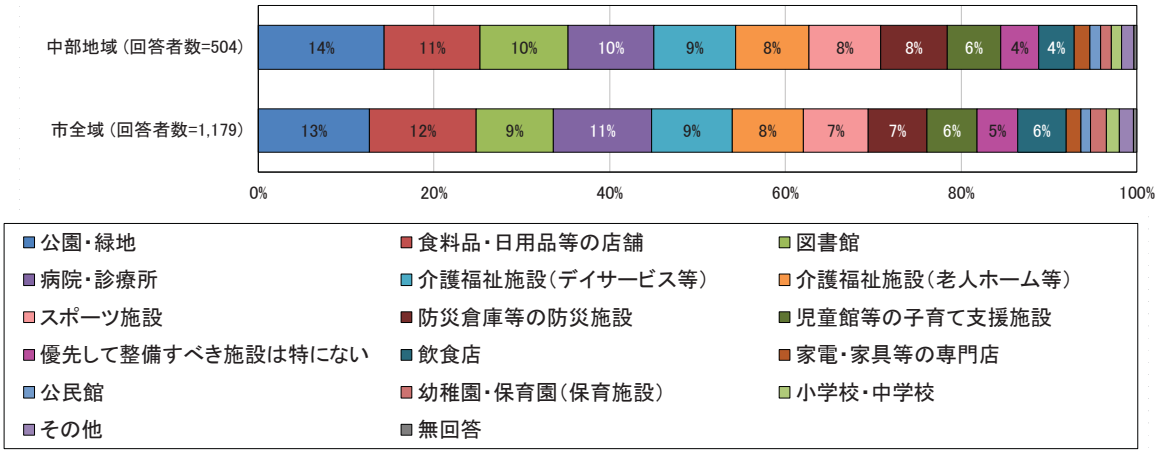
◆居住する小学校区の、今後（おおむね 10 年後）の「まち」の姿に関する意向

・「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」が 38%と最も高い意向を示していますが、市全域の意向より「戸建て住宅中心の静かで落ち着いたまち」を望む意向が 24%と高くなっています。
・10 年前と比べると、「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」に関する意向が高くなっているほか、「今のままで良い」との意向も高くなっています。



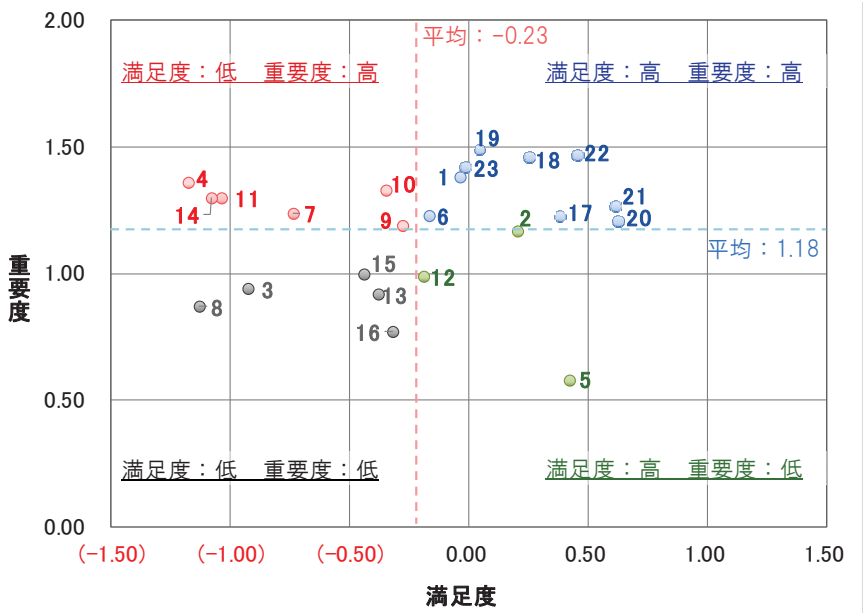
◆居住する小学校区に優先して整備すべきだと思う施設に関する意向

・「公園・緑地」、「食料品・日用品等の店舗」、「病院・診療所」の順に整備すべき施設の意向が高くなっており、その傾向は、市全域と同様の傾向となっています。



◆お住まいの小学校区の生活環境に関する、現状の『満足度』と今後の『重要度』について

・満足度が低く、重要度が高い項目（優先度が高い）は「駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている」「バス等の公共交通網が充実し、クルマがなくてもスムーズに移動できている」「自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている」「駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている」などとなっています。



【低い】 現状の満足度 【高い】

【高い】 今後の重要度 【低い】

満足度：低　重要度：高 4．駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている 7．駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている 9．道路が整備され、都市間をスムーズに移動できている 10．身近な生活道路の整備がされ、安全に通行できている 11．自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている 14．バス等の公共交通網が充実し、スムーズに移動できている	**満足度：高　重要度：高** 1．若者が江南市で生活し続けられる 6．幹線道路沿道の商業施設が適切に配置されている 17．下水道や浄化槽が整備され、衛生的な生活を送っている 18．河川が整備され、安心して暮らしている 19．防災対策が進み、安心・安全に生活ができている 20．幼稚園等が充実し、子育てがしやすい環境になっている 21．学校施設や設備が整備され、教育環境が整っている 22．医療施設が整備され、安心して医療サービスを受けられる 23．介護福祉施設が整備され、介護福祉サービスを受けられる
満足度：低　重要度：低 3．工業地や工業団地が確保され、江南市の産業を牽引している 8．市外からの来訪者が楽しめる空間が形成されている 13．市街地や主要施設周辺に駐輪場が適切に配置されている 15．身近な公園や緑地が整備されている 16．住宅の庭や道路などのまちかどや公園等の緑化が進んでいる	**満足度：高　重要度：低** 2．住宅環境や公営住宅が整備されている 5．適度な農地があり、うるおいのある空間を形成している 12．市街地や主要施設周辺に駐車場が適切に配置されている

（各項目の点数化について）
満足度は、項目ごとに「満足」を＋２点、「やや満足」を＋１点、「やや不満」を－１点、「不満」を－２点とし、重要度は、項目ごとに「重要」を＋２点、「やや重要」を＋１点、「あまり重要ではない」を－１点、「重要ではない」を－２点とし、各項目についての満足度と重要度それぞれを点数化したうえで、全項目の平均値を評価軸として、散布図を作成

（３）まちづくりの課題

中部地域の現況調査における地域特性や市民意向調査による地域のニーズなどを踏まえ、まちづくりの課題を以下のとおり整理します。

≪土地利用≫

江南駅周辺などの利便性の高い地域への居住の誘導

市全体で人口減少期を迎えている中、中部地域では増加傾向を保っています。中でも、江南駅周辺については、高い移動利便性や生活利便性を有しているため、今後も居住の誘導を図る必要があります。

既存ストックを活用した居住の誘導

中部地域は、生活サービス施設が集積し、良好な居住環境を形成していますが、市街化区域内の一部の地域では農地などが残存しています。これら利便性の高い地域における農地などについては、宅地等の都市的な土地利用への転換が必要となっています。

≪施設整備≫

交流が生まれる魅力的な拠点の形成

市民や来訪者が日常的に利用する江南駅周辺は、多くの人々が行き交う空間であることから、新たな活気を生み出すために、集いたくなる魅力的な交流空間の創出を図る必要があります。

生活・産業を支える交通基盤の整備

通勤・通学の流動が多い地域特性を有することから、多くの人が行き交う江南駅周辺については、駅周辺の道路基盤や利便性の高い乗換え環境などの確保に向けた交通基盤の充実を図る必要があります。

また、江南駅を中心に路線バスが運行し、いこまいＣＡＲでその他の地域をカバーしている状況であることから、今後も公共交通サービスの維持確保を図る必要があります。

身近にうるおいと憩いを提供できる交流空間の形成

子育て世代に対する遊び場の提供や健康志向の高まりによる公園に対するニーズの多様化への対応に向け、既存公園の利用促進や身近な公園緑地等の整備を検討することなどが必要となります。

安心して学べる環境づくり

住みたくなる環境の提供のためには、安心して子育てができ、子どもたちが安心して学べる環境の提供が重要となります。そのため、子育て支援施設や教育施設の充実及び通学環境の安全性を確保するほか、子どもだけでなく多様な世代が学習できる環境の創出が必要となります。

«自然環境及び都市環境・都市景観»

風土と趣きが感じられる空間の形成

社寺や史跡などの歴史資源、農地、公園緑地等の地域資源は、地域の歴史と文化を映し出す貴重な地域資源となっているため、今後も地域ニーズを踏まえたうえで、それらを身近に感じられる空間の形成や、過去から受け継がれる景色の保全に向けた取り組みが必要となります。

«都市防災»

安心・安全な居住環境の提供

一部の地域において豪雨時に浸水被害を受けた実績があることから、常態化しつつある局地的大雨や集中豪雨による浸水被害を軽減するためにも、河川改修などの被害軽減に向けた基盤整備を図っていくことが必要となります。

（４）まちづくりの方針

中部地域における、まちづくりの方針を以下のとおり整理します。

１）まちづくり基本目標

❖魅力のある駅周辺の形成と安心して住み続けられるまちづくり❖

多くの市民や来訪者が行き交う江南駅周辺は、本市の玄関として、安心して快適に過ごせる地域としての印象を与えられる空間の形成をめざします。また、江南駅周辺では、移動利便性と生活利便性を兼ね備えた都市基盤を有している強みを活かし、本市の中心にふさわしい土地利用の転換を図り、魅力的な居住地を創出し、本市に活気をもたらす新たな居住の誘導をめざします。

２）分野別の方針

①土地利用の方針

◇地域南部の低層住宅地は、低層の戸建て住宅を中心とした緑豊かで落ち着きのある良好な居住環境を有した住宅地の形成を図ります。

◇中心拠点と地域拠点を結ぶ(都)名古屋江南線の沿道などの沿道複合地は、商業施設や生活サービス施設と住宅地が調和した土地利用の形成を図ります。

◇江南駅周辺の商業地は、市内各地からのアクセスの良さを活かした魅力ある拠点形成のため、ニーズに応じた多様な都市機能の維持や集積を図ります。また、江南駅西側の地域については、幹線道路の沿道に位置する特性とあわせ、周辺住民の生活利便性の向上に資する商業施設の維持・充実を図ります。

◇江南市スポーツプラザについては、広域的なスポーツ・レクリエーション施設の拠点として整備を図るよう土地利用を形成します。

②施設整備の方針

【道路・公共交通等の方針】

◇幹線道路である(都)江南通線の整備を推進し、(都)江南大口線の整備を促進します。また、(都)江南岩倉線については、整備を図るよう検討します。

◇補助幹線道路である(都)本町通線は、地域の円滑な交通処理や良好な環境を形成するため、整備を図るよう検討します。

◇江南駅周辺については、駅利用者の円滑かつ安全な移動利便性の確保に向け、駅へのアクセス道路の交通環境改善など都市基盤の整備・検討を進めます。

◇路線バスは、鉄道と連携し、中心拠点である布袋駅を結ぶ路線と地域拠点を結ぶ路線を中心として、運行サービスの維持確保を図ります。また、路線バスでカバーできない地域については、いこまいＣＡＲにより市内全域を移動できる環境を維持確保します。

【公園緑地等の方針】

◇市街地にある中央公園は、緑の拠点としての魅力を高めるため、機能の充実を図ります。

◇生産緑地地区※やまちなかの低未利用地の活用などにより、一定以上の面積が確保できる場合には、人口密度が高いにもかかわらず身近に公園緑地等が少ない地域を中心に地域バランスのとれた適切な配置・整備を検討します。

【市街地整備の方針】

◇江南駅周辺は、市内各地からのアクセスの良さを活かすとともに、地域の意向を踏まえた魅力ある中心市街地の形成を図るため、駅までの交通手段の維持・確保、都市計画道路の整備の推進、江南駅前の市街地開発の検討を進めます。

【河川の方針】

◇県が管理している青木川の整備を促進します。

③自然環境の保全及び都市環境形成の方針

◇宮後八幡社をはじめとする社寺林は、地域の貴重な自然資源及び景観資源であることから、社寺などと一体的な保全に努めます。

◇緑豊かで心が安らぐ水辺を創出する青木川の河川沿いの緑は、水と緑のネットワークとして適切な維持管理を行うとともに、しみず公園内の親水施設とあわせ、機能の維持を図ります。

◇中央公園をはじめとする公園緑地等に加え、道路及び公共施設などの緑化を推進するとともに、市民や事業者が取り組む緑化活動への支援を推進し、民有地緑化の促進を図ることで、緑豊かでゆとりとうるおいのある都市環境の形成に努めます。

④都市景観形成の方針

◇地域内に点在する史跡などの歴史的な資源をつなぐ「ふるさと江南歴史散策道」を中心に、文化・歴史的景観の維持に努めます。

◇江南駅周辺では、街路樹などによる道路景観の形成や、駅前で実施する花いっぱい運動等により景観の向上に努め、本市の中心拠点にふさわしい都市的な景観形成を推進します。

⑤都市防災の方針

◇(都)名古屋江南線などの緊急輸送道路及び優先的に通行を確保する道路に指定されている道路沿道の建築物については、災害時における避難路の確保に向けて、耐震化を促進します。

◇地域中心部や東部に多く発生している市街地の浸水被害の抑制に向けて、河川改修や雨水貯留浸透施設の整備を促進するとともに、保水機能を有する田園集落地の一団の農地の保全に努めます。

3）まちづくり方針図

土地利用

(都)名古屋江南線沿道などについて、商業施設や生活サービス施設と住宅地が調和した土地利用の形成

土地利用

江南市スポーツプラザについて、広域的なスポーツ・レクリエーション施設の拠点として整備を図るよう土地利用を形成

土地利用

幹線道路の沿道に位置する特性を活かし、周辺住民の生活利便性の向上に資する施設の維持・充実

自然環境保全

しみず公園内の親水施設とあわせた、青木川の河川沿いの緑の機能の維持

道路・公共交通等

(都)江南通線の整備の推進

公園緑地等

中央公園の機能の充実

道路・公共交通等

駅利用者の円滑かつ安全な移動利便性の確保に向け、駅へのアクセス道路の交通環境改善などの都市基盤整備の整備・検討

市街地整備

日常生活の向上や駅までの交通手段の維持・確保など、魅力ある中心市街地の形成

凡　例					
	中心拠点		工業地	小 中 高	教育施設
	地域拠点		沿道複合地		歴史資源等
			田園集落地		国道・主要地方道 ※点線は未整備区間
	低層住宅地		レクリエーションエリア		
	中高層住宅地		公園		一般県道・市道 ※点線は未整備区間
	一般住宅地		文教施設		鉄道・駅
	商業地		行政サービス施設		河川・水路
	近隣商業地				

4 南部地域

南部地域は、地域の中心部に布袋駅が位置し、本市の南玄関となっている地域です。また、現在、鉄道高架化事業や布袋駅西側において土地区画整理事業が進められているなど、布袋駅を中心とした発展が望まれる地域です。

また、布袋駅周辺の旧市街地には、蔵や造り酒屋などの趣きのある建築物が残っており、地域の周縁部では、農地が広がっています。

布袋駅

久昌寺公園

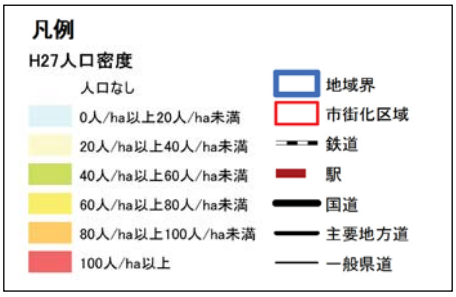
五条川（尾北自然歩道）

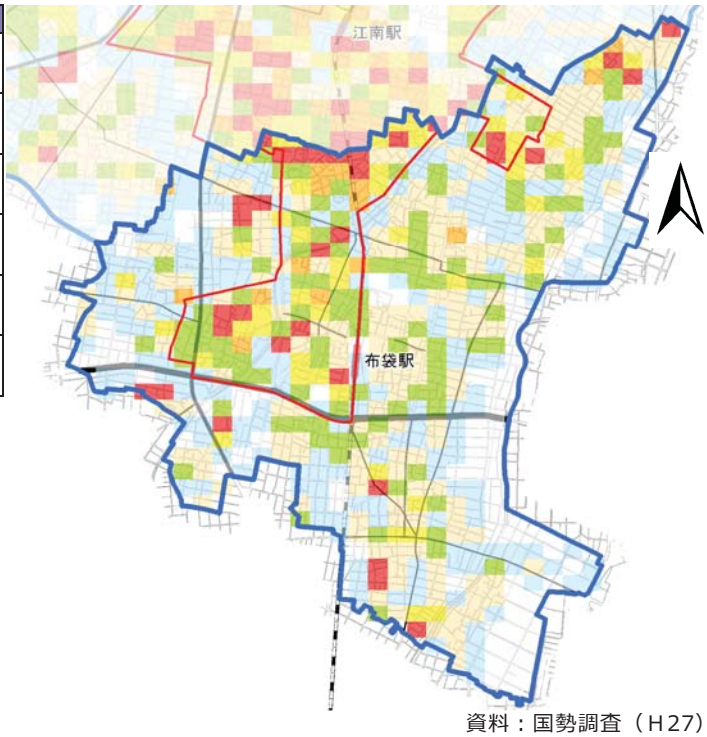
（1）地域の現況

1）人口などの状況

・H17からH27までの10年間で市総人口は0.7%減少している中、南部地域では1.1%減少しています。また、高齢化率は10年間で7%増加しています。
・人口密度は、市街化区域の密度が高くなっていますが、市街化調整区域についても、一部高い地域が点在しています。

		H27	H17
人口	南部地域	20,584人（▲1.1%）	20,821人
	市全域	98,359人（▲0.7%）	99,055人
人口密度	南部地域	29.6人/ha（▲1.3%）	30.0人/ha
	市全域	32.6人/ha（▲0.6%）	32.8人/ha
高齢化率	南部地域	26.3%（＋7.0%）	19.3%
	市全域	26.5%（＋8.4%）	18.1%



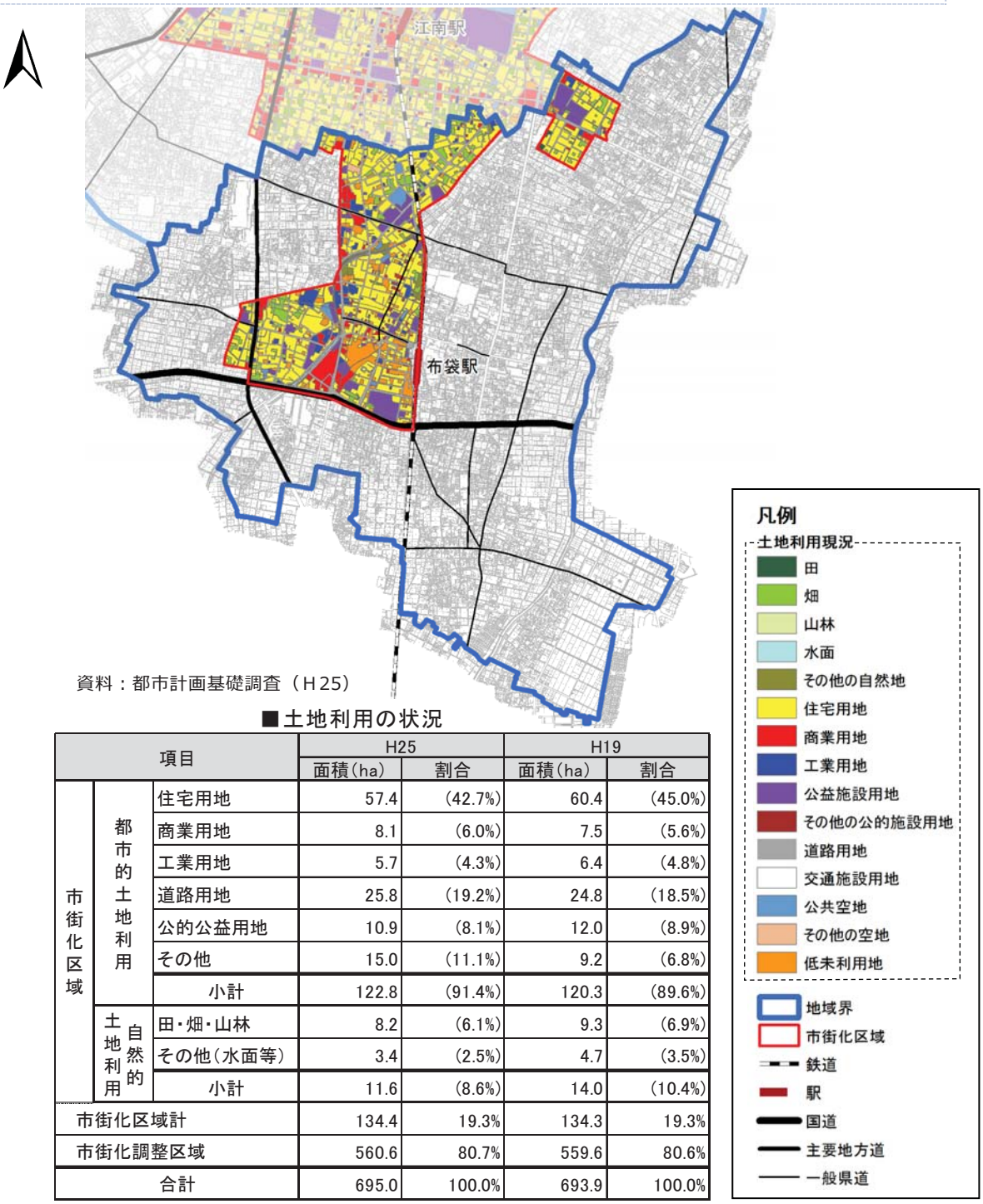


資料：国勢調査（H27）

■人口密度

2）土地利用状況

- 市街化区域が約 19%、市街化調整区域が約 81%の割合となっています。
- 市街化区域では、住宅用地としての利用が約 43%と最も多くなっていますが、布袋駅周辺には教育施設をはじめとした公共公益施設用地の利用も約８%と多くなっています。
- 布袋駅周辺の利便性の高い地域においても、低未利用地が多く存在しています。
- 過去からの推移をみると、工業用地、公的・公益施設用地、自然的土地利用が減少し、商業用地や道路用地が微増しています。
- 市街化調整区域では、工場が点在しているほか、田畑や住宅が全体的に広がっています。



資料：都市計画基礎調査（H25）

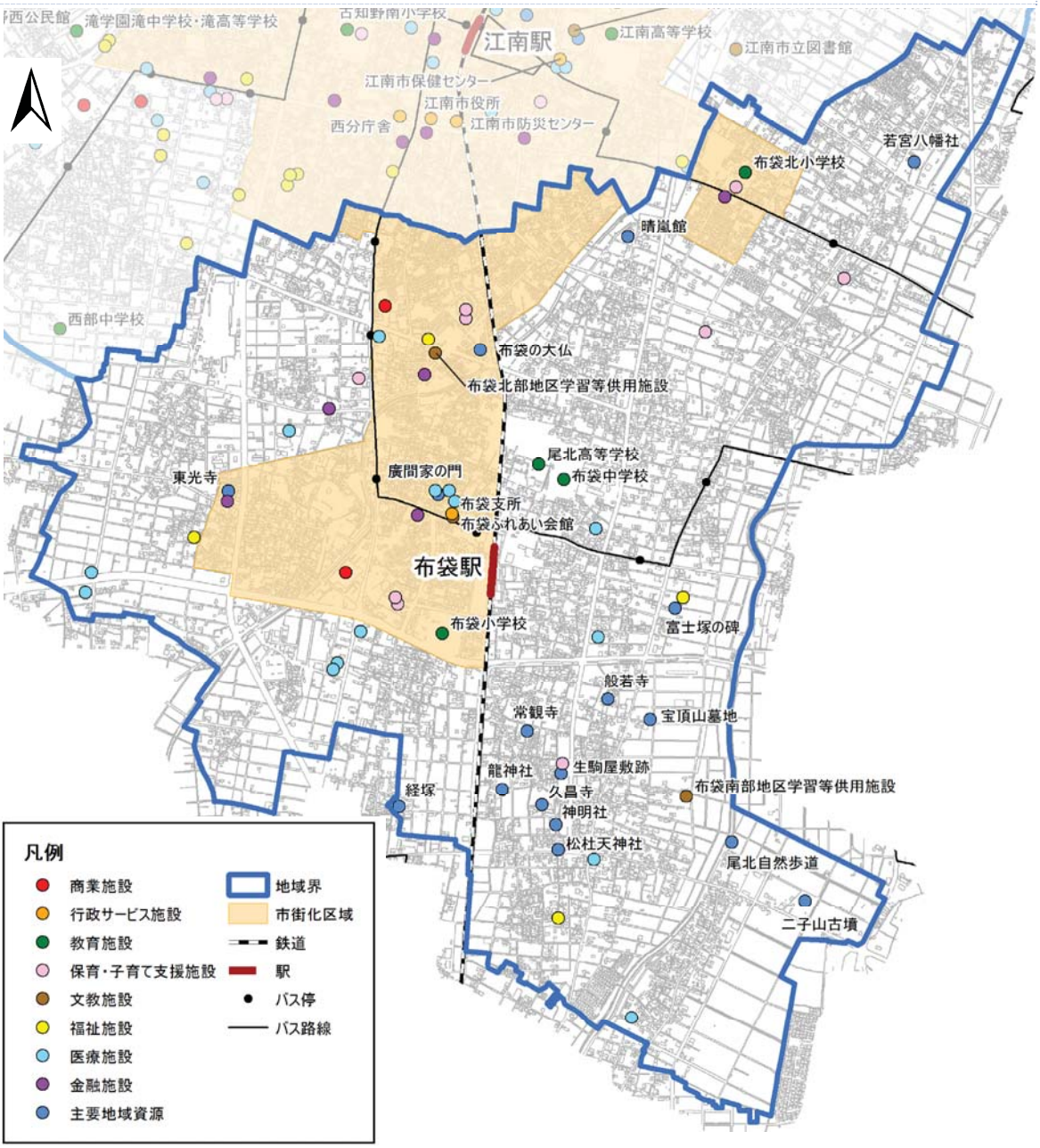
■土地利用の状況

項目			H25 面積(ha)	H25 割合	H19 面積(ha)	H19 割合
市街化区域	都市的土地利用	住宅用地	57.4	(42.7%)	60.4	(45.0%)
		商業用地	8.1	(6.0%)	7.5	(5.6%)
		工業用地	5.7	(4.3%)	6.4	(4.8%)
		道路用地	25.8	(19.2%)	24.8	(18.5%)
		公的公益用地	10.9	(8.1%)	12.0	(8.9%)
		その他	15.0	(11.1%)	9.2	(6.8%)
		小計	122.8	(91.4%)	120.3	(89.6%)
	自然的土地利用	田・畑・山林	8.2	(6.1%)	9.3	(6.9%)
		その他(水面等)	3.4	(2.5%)	4.7	(3.5%)
		小計	11.6	(8.6%)	14.0	(10.4%)
市街化区域計			134.4	19.3%	134.3	19.3%
市街化調整区域			560.6	80.7%	559.6	80.6%
合計			695.0	100.0%	693.9	100.0%

(注)「公的公益用地」…公益施設用地、その他の公的施設用地の合計　「その他」…交通施設用地、公共空地、その他の空地、低未利用地の合計
「その他（水面等)」…水面、その他の自然地の合計

3）施設分布状況

- 布袋駅周辺には、医療施設や教育施設、保育・子育て支援施設などの施設の集積がみられます。また、布袋支所や布袋ふれあい会館のほか、小学校、中学校、高等学校が１校ずつ立地しています。
- 南部には織田信長の室であった「生駒の方」のゆかりの生駒屋敷跡などの史跡があり、また布袋駅周辺には、蔵や町屋などの歴史ある建物が残っています。
- 布袋駅を起点として名鉄バスや大口町コミュニティバスが運行されています。

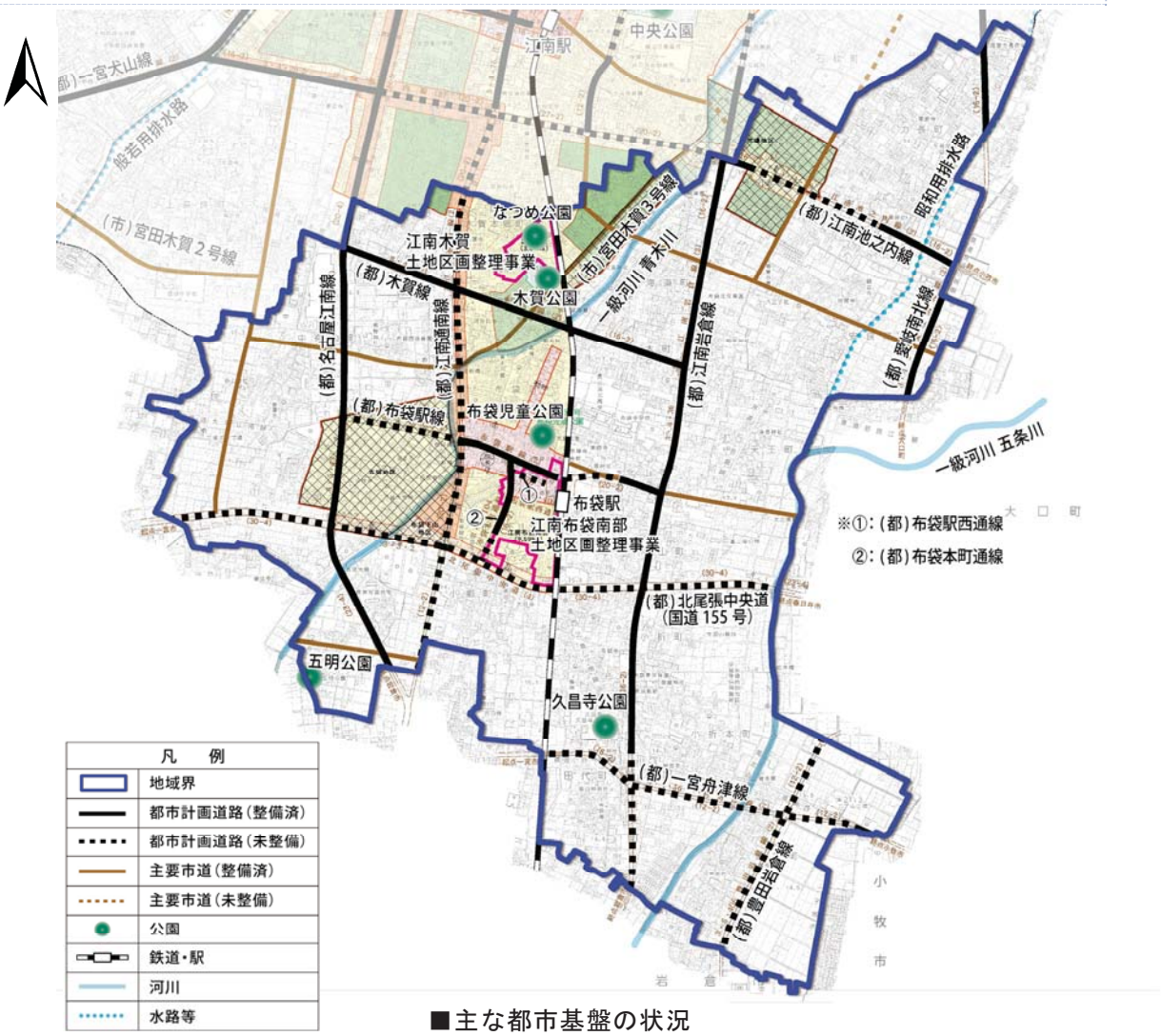


資料：全国大型小売店総覧 2019、スーパーマーケット総覧 2015、江南市資料（H30）、江南市ホームページ［施設ガイド］、尾北医師会ホームページ（H30）、国土数値情報（H29）、ｉタウンページ（H30）、名鉄バス路線図（H30）、大口町ホームページ［コミュニティバス］（H30）

■施設分布状況

4）主な都市基盤の状況

- 都市計画道路は、布袋駅周辺の(都)布袋駅線や地域南部の(都)豊田岩倉線などに未整備区間が存在しており、地域内の整備率は約 54%となっています。
- 公園は、久昌寺公園、木賀公園、なつめ公園などが整備されています。
- 布袋駅西側の地区で、江南布袋南部土地区画整理事業を施行しています。



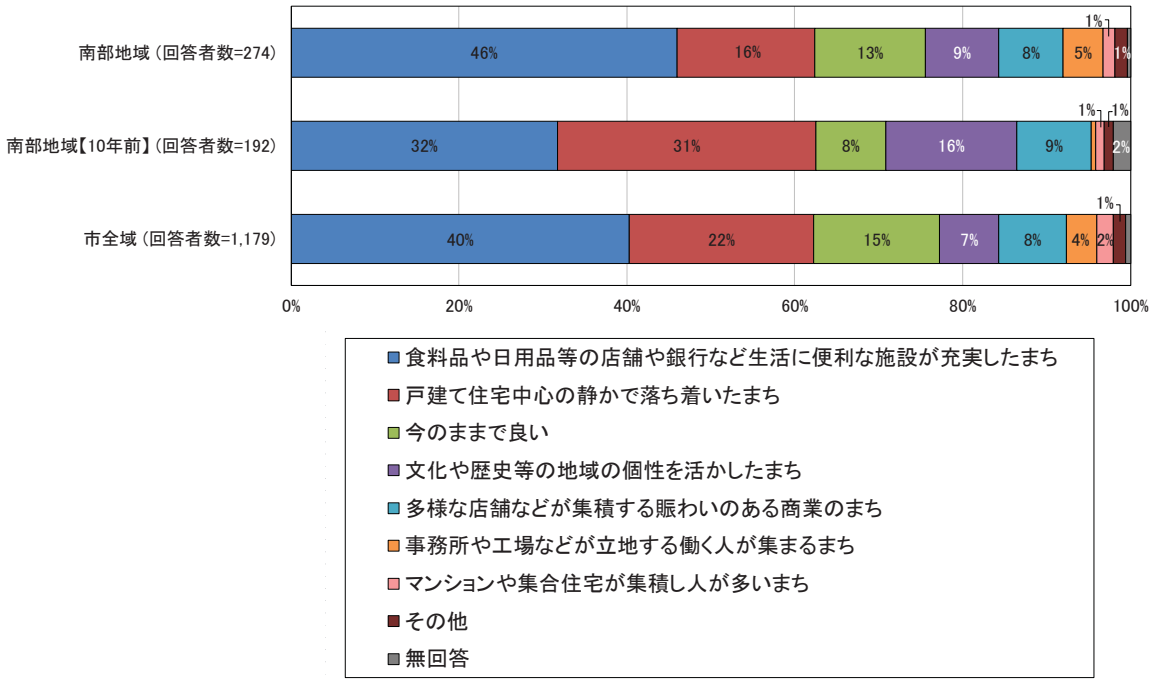
■主な都市基盤の状況

主要施設			
道　路	・(都)江南池之内線 ・(都)北尾張中央道 ・(都)名古屋江南線 ・(都)布袋駅線 ・(都)木賀線	・(都)江南通南線 ・(都)布袋本町通線 ・(都)江南岩倉線 ・(都)一宮舟津線	・(都)愛岐南北線 ・(都)豊田岩倉線 ・(都)布袋駅西通線 ・(市)宮田木賀 3 号線
公　園	・木賀公園 ・布袋児童公園	・なつめ公園 ・五明公園	・久昌寺公園
河川など	・一級河川五条川	・一級河川青木川	・昭和用排水路
開発事業			
・江南木賀土地区画整理事業		・江南布袋南部土地区画整理事業（施行中）	

（２）地域のニーズ

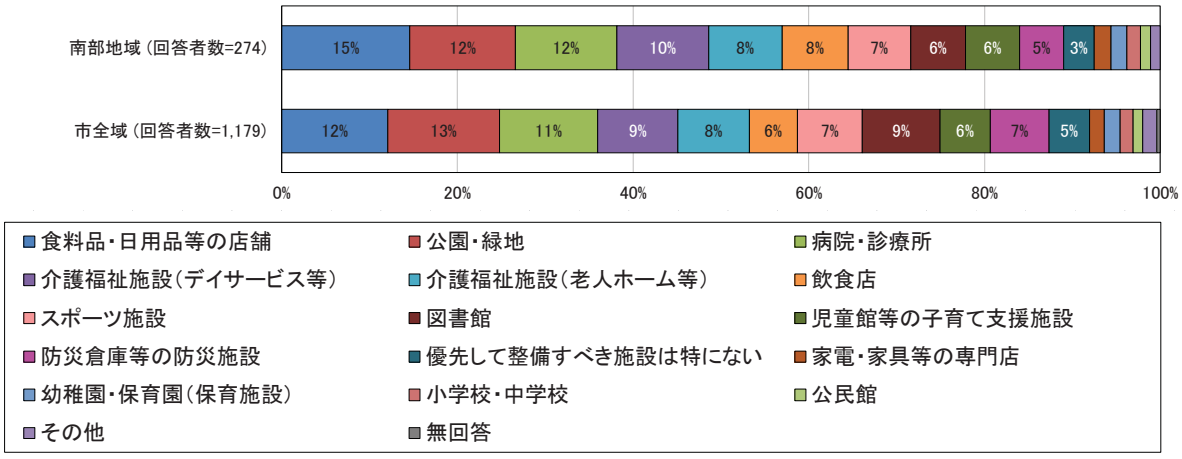
◆居住する小学校区の、今後（おおむね 10 年後）の「まち」の姿に関する意向

・「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」が 46%と最も高く、市全域の意向 40%に比べて高い割合を示しています。
・10 年前と比べると、「戸建て住宅中心の静かで落ち着いたまち」が減少し、「食料品や日用品等の店舗や銀行など生活に便利な施設が充実したまち」に関する意向が大きく増加しています。



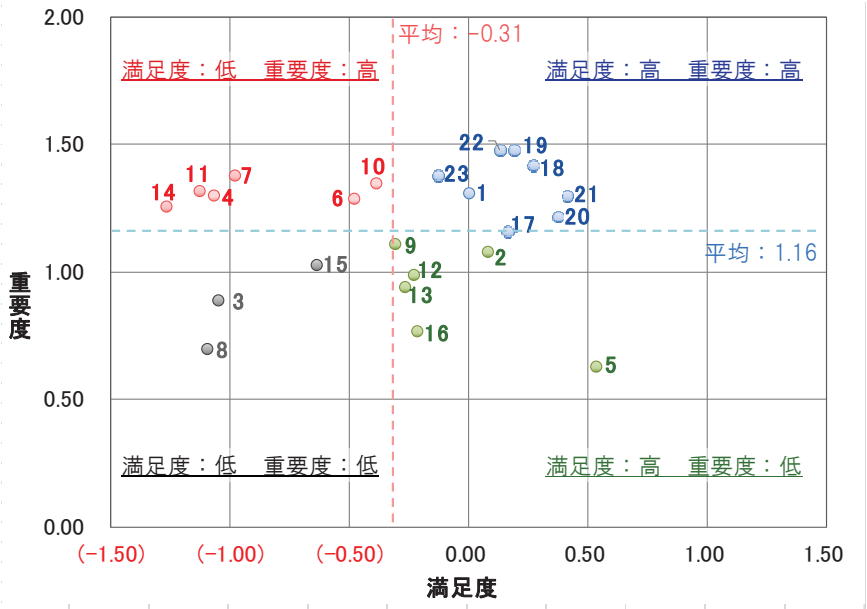
◆居住する小学校区に優先して整備すべきだと思う施設に関する意向

・「食料品・日用品等の店舗」、「公園・緑地」、「病院・診療所」の順に整備すべき施設の意向が高く、その傾向は市全域と同様の傾向となっています。



◆お住まいの小学校区の生活環境に関する、現状の『満足度』と今後の『重要度』について

・満足度が低く、重要度が高い項目（優先度が高い）は「駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている」「駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている」「自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている」「バス等の公共交通網が充実し、クルマがなくてもスムーズに移動できている」などとなっています。



【低い】 現状の満足度 【高い】

【高い】 今後の重要度 【低い】

満足度：低　重要度：高	満足度：高　重要度：高
4．駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっている 6．幹線道路沿道の商業施設が適切に配置されている 7．駅周辺等の鉄道やバスで行きやすい場所に商業施設が適切に配置され、買物しやすい環境となっている 10．身近な生活道路の整備がされ、安全に通行できている 11．自転車のための交通基盤が整備され、安全で容易に移動できている 14．バス等の公共交通網が充実し、スムーズに移動できている	1．若者が江南市で生活し続けられる 17．下水道や浄化槽が整備され、衛生的な生活を送っている 18．河川が整備され、安心して暮らしている 19．防災対策が進み、安心・安全に生活ができている 20．幼稚園等が充実し、子育てがしやすい環境になっている 21．学校施設や設備が整備され、教育環境が整っている 22．医療施設が整備され、安心して医療サービスを受けられる 23．介護福祉施設が整備され、介護福祉サービスを受けられる
満足度：低　重要度：低	**満足度：高　重要度：低**
3．工業地や工業団地が確保され、江南市の産業を牽引している 8．市外からの来訪者が楽しめる空間が形成されている 15．身近な公園や緑地が整備されている	2．住宅環境や公営住宅が整備されている 5．適度な農地があり、うるおいのある空間を形成している 9．道路が整備され、都市間をスムーズに移動できている 12．市街地や主要施設周辺に駐車場が適切に配置されている 13．市街地や主要施設周辺に駐輪場が適切に配置されている 16．住宅の庭や道路などのまちかどや公園等の緑化が進んでいる

（各項目の点数化について）
満足度は、項目ごとに「満足」を＋２点、「やや満足」を＋１点、「やや不満」を－１点、「不満」を－２点とし、重要度は、項目ごとに「重要」を＋２点、「やや重要」を＋１点、「あまり重要ではない」を－１点、「重要ではない」を－２点とし、各項目についての満足度と重要度それぞれを点数化したうえで、全項目の平均値を評価軸として、散布図を作成

（３）まちづくりの課題

南部地域の現況調査における地域特性や市民意向調査による地域のニーズなどを踏まえ、まちづくりの課題を以下のとおり整理します。

≪土地利用≫

布袋駅周辺などの利便性の高い地域への居住の誘導

施行中の鉄道高架化事業や土地区画整理事業の進捗により、布袋駅周辺の地域は移動利便性が高い住宅地となるため、子育て世代をはじめとした新たな地域住民の居住促進に向け、土地利用の転換によるさらなる居住の誘導が必要となっています。

既存ストックを活用した居住の誘導

市街化区域内の一部の地域では農地などが残存しており、特に鉄道駅やバス停周辺の利便性の高い地域における農地などについては、宅地等の都市的な土地利用への転換が望ましいと考えられます。

交通ネットワークを活かした新たな産業地の形成

本市の活力となる雇用の場の創出に向けて、一宮市、小牧市及び春日井市などの広域を結ぶ(都)北尾張中央道や小牧インターチェンジに近い優れた地域特性を活かし、新たな産業振興に向けた土地利用の転換を図る必要があります。

≪施設整備≫

地域の生活を支え、にぎわいと交流をもたらす拠点の形成

鉄道高架化事業の進捗とあわせ、本市の南玄関としての魅力的な拠点の形成に向け、効率的かつ効果的な複合サービスの提供やにぎわいと交流をもたらすための魅力的な交流空間の創出を図る必要があります。

生活・産業を支える交通基盤の整備

通勤・通学の流動が多い地域特性を有することから、布袋駅周辺の鉄道高架化事業の進捗とあわせ、駅周辺の道路基盤や利便性の高い乗換え環境などの確保に向けた交通基盤の充実を図る必要があります。

また、布袋駅から発着する路線バスが運行し、いこまいＣＡＲでその他の地域をカバーしている状況であることから、今後も公共交通サービスの維持確保を図る必要があります。

身近にうるおいと憩いを提供できる交流空間の形成

子育て世代に対する遊び場の提供や健康志向の高まりによる公園に対するニーズの多様化への対応に向け、既存公園の利用促進や身近な公園緑地等の整備を検討することなどが必要となります。

安心して学べる環境づくり

住みたくなる環境の提供のためには、安心して子育てができ、子どもたちが安心して学べる環境の充実が必要となります。そのため、子育て支援施設や教育施設の充実及び通学環境の安全性を確保するほか、子どもだけでなく多様な世代が学習できる環境の創出が必要となります。

«自然環境及び都市環境・都市景観»

風土と趣きが感じられる空間の形成

社寺や史跡などの歴史資源、農地、公園緑地等は、地域の歴史と文化を映し出す貴重な地域資源となっているため、今後も地域ニーズを踏まえたうえで、それらを身近に感じられる空間の形成や、過去から受け継がれる景色の保全に向けた取り組みが必要となります。

«都市防災»

安心・安全な居住環境の提供

一部の地域において豪雨時に浸水被害を受けた実績があることから、常態化しつつある局地的大雨や集中豪雨による浸水被害を軽減するためにも、河川改修などの被害軽減に向けた基盤整備を図っていくことが必要となります。

（４）まちづくりの方針

南部地域における、まちづくりの方針を以下のとおり整理します。

１）まちづくり基本目標

❖地域の歴史性と調和しながら新たなにぎわいと産業を創出していくまちづくり❖

地域の中心に位置する布袋駅周辺は、鉄道高架化事業に伴う交通環境の円滑化を活かし、本市の南玄関としてふさわしい魅力を創出するため、新たな拠点施設の整備などの都市機能の充実と、子育て世代をはじめとした新たな住民の居住促進や既存の居住環境の充実をめざします。

また、小牧インターチェンジに近い強みを活かし、本市の活力となる産業基盤の強化をめざし、布袋地区のまちなかに残る蔵や町屋などの歴史ある建物や織田信長にゆかりのある歴史・文化の資源の保全に努め、将来へ引き継ぐことをめざします。

２）分野別の方針

①土地利用の方針

◇布袋駅周辺については、鉄道高架化事業や土地区画整理事業の進捗とあわせ、市の南部地域の新たな拠点施設となる布袋駅東複合公共施設を中心として、都市機能を集積し、新たな近隣商業地の形成を図ります。

◇布袋駅東側の市街化調整区域については、市街化区域への編入を推進し、駅を中心とした利便性の高く良好な居住空間の創出を図ります。特に駅前は、江南市の南玄関としてふさわしい土地の有効活用を図ります。

◇産業軸である（都)愛岐南北線及び(都)豊田岩倉線沿道の周辺の区域については、無秩序な開発を防ぎ、新たな工業地の配置を検討します。

◇五条川沿いに位置する尾北自然歩道は、周辺都市につながる広域的な健康・レクリエーションの場として、環境の保全に努めるとともに、機能の維持及び活用を図ります。

②施設整備の方針

【道路・公共交通等の方針】

◇尾張都市計画区域の一宮市、小牧市、春日井市などの主要都市を相互に結ぶ広域道路網の役割を担うよう、(都)北尾張中央道の４車線化整備を促進します。

◇幹線道路である(都)豊田岩倉線の整備を推進します。

◇地域の円滑な交通処理や良好な環境を形成するため、補助幹線道路である（都)布袋本町通線は整備を推進し、(都)布袋駅線の整備を促進します。

◇自転車・歩行者専用道路となる(都)布袋駅西通線の整備を推進します。

◇布袋駅周辺では、駅前広場及び駅へのアクセス道路となる(都)江南通南線について、交通結節点としての機能強化を図るための整備を推進します。

◇踏切渋滞、踏切事故の問題を解消するため、愛知県など関係機関と連携を図り、布袋駅付近の鉄道高架化事業を推進し、布袋駅にはバリアフリー法に対応したエレベーターのほか、利便性向上を図るためエスカレーターの整備を推進します。

◇布袋駅から発着する路線バスは、鉄道と連携し、中心拠点である江南駅を結ぶ路線を中心として、運行サービスの維持確保を図ります。また、路線バスでカバーできない地域については、いこまいＣＡＲにより市内全域を移動できる環境を維持確保します。

【公園緑地等の方針】

◇公園緑地等は、生産緑地地区やまちなかの低未利用地の活用などにより、一定以上の面積が確保できる場合には、人口密度が高いにもかかわらず身近に公園緑地等が少ない地域を中心に地域バランスのとれた適切な配置・整備を検討し、地域南部に位置する久昌寺公園は活用の推進を検討します。

◇五条川沿いに位置する尾北自然歩道は、歩道と桜並木の保全に努めるとともに、利用の促進を図ります。

【市街地整備の方針】

◇布袋駅周辺は、鉄道高架化事業や土地区画整理事業の進捗とあわせ、都市計画道路や公園などの必要な基盤整備を推進し、本市の南玄関にふさわしい市街地の形成を図ります。

◇鉄道の高架化区間となる(都)北尾張中央道や(都)布袋駅線の周辺の地域では、東西のまちの一体化を推進するとともに良好な市街地・生活環境の形成に向けた検討を進めます。

◇駅東側については、駅周辺の立地ポテンシャルを活かした魅力的な宅地供給のほか、新たなにぎわい・交流の創出に向けて民間活力を導入した複合公共施設の整備を推進します。

◇(都)豊田岩倉線の沿線など利便性の高い地域については、今後の本市の活力を向上するために、周辺環境と調和して、産業用地の確保を図ります。

【河川の方針】

◇県が管理している青木川、五条川の整備を促進します。

【公共公益施設の方針】

◇布袋駅東地区には、民間活力を導入した新たなにぎわいや交流を創出するために図書館や保健センターなどを備えた複合公共施設の整備を図ります。新しく整備する図書館については、市の特性にあわせて充実を図るため、規模や内容の検討などを踏まえ、より多くの市民に愛され利用されるように整備を図ります。

③自然環境の保全及び都市環境形成の方針

◇般若寺や龍神社をはじめとする社寺林は、地域の貴重な自然資源及び景観資源であることから、社寺などと一体的な保全に努めます。

◇緑豊かで心が安らぐ水辺を創出する青木川や五条川の河川沿いの緑は、水と緑のネットワークとして適切な維持管理を行います。

◇久昌寺公園をはじめとする公園緑地等に加え、道路及び公共施設などの緑化を推進するとともに、市民や事業者が取り組む緑化活動への支援を推進し、民有地緑化の促進を図ることで、緑豊かでゆとりとうるおいのある都市環境の形成に努めます。

④都市景観形成の方針

◇五条川の桜並木については、本市の郷土景観であるため、関係機関と協議しながら定期的な剪定や消毒などの維持管理に努めます。

◇織田信長の室であった「生駒の方」にゆかりのある地域であることから、生駒屋敷跡や般若寺などの点在する歴史的な資源をつなぐ「ふるさと江南歴史散策道」を中心に、文化・歴史的景観の維持に努めます。

◇布袋地区のまちなかに残る蔵や町家などの文化・歴史の資源を活かした景観形成に努めます。

◇布袋駅周辺では、街路樹などによる道路景観の形成や、駅前で実施する花いっぱい運動等により景観の向上に努め、本市の中心拠点にふさわしい都市的な景観形成を推進します。

⑤都市防災の方針

◇(都)名古屋江南線などの緊急輸送道路及び優先的に通行を確保する道路に指定されている道路沿道の建築物については、災害時における避難路の確保に向けて、耐震化を促進します。

◇地域南部で多く発生している市街地の浸水被害の抑制に向けて、河川改修や雨水貯留浸透施設の整備を促進するとともに、保水機能を有する田園集落地の一団の農地の保全に努めます。

◇地域南部において鉄道高架により踏切が無くなり緊急車両などの進入が困難な区域は、道路の整備を検討します。

3）まちづくり方針図

道路・公共交通等
駅前広場及び駅へのアクセス道路など、交通結節点としての機能強化を図るための整備を推進

道路・公共交通等
補助幹線道路である(都)布袋駅線の整備を促進、(都)布袋本町通線の整備を推進

道路・公共交通等
主要都市を相互に結び本市の産業軸である(都)北尾張中央道の４車線化を促進

公園緑地等
久昌寺公園の活用の推進を検討

公園緑地等
五条川沿いの尾北自然歩道について、歩道と桜並木の保全及び活用の促進

市街地整備
土地区画整理事業の進捗とあわせ、都市計画道路や公園などの整備を推進

市街地整備
新たな市街地の形成として、魅力的な宅地供給、必要な基盤整備、複合公共施設整備の推進

土地利用
布袋駅東側については、新たな住宅地及び近隣商業地の土地利用を形成

土地利用
新たな工業地の配置を検討

凡　例					
	中心拠点		田園集落地		歴史資源等
	低層住宅地		レクリエーションエリア		国道・主要地方道 ※点線は未整備区間
	中高層住宅地				一般県道・市道 ※点線は未整備区間
	一般住宅地		公園		
	近隣商業地		文教施設		鉄道・駅
	工業地		行政サービス施設		河川・水路
	沿道複合地	小 中 高	教育施設		